

仲町遺跡

マイタウンまつしま整備事業に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1998年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

仲町遺跡

マイタウンまつしま整備事業に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1998年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会



1号古墳周溝



1号古墳周溝出土遺物

序

箕輪町は、伊那谷の北部にあり、東西に聳える山々と、町の中央を南に流れる天竜川、そして河岸段丘に代表される複雑な地形とが織りなす、水と緑の自然あふれる美しい所であります。遙か先史の頃より、川や湧水などの水辺に人々が暮らしあはじめ、そして先人たちの長年にわたる努力の積み重ねによって、今日の箕輪町へと発展してきました。町内にはその証ともいえる、歴史と文化を今に伝える数多くの文化遺産があります。その多くは、日頃私たちの目に触れることが多い少ない、未知なるものがまだ多く埋もれている、遺跡、古墳などの埋葬文化財です。

今回の調査は、町が行った「マイタウンまつしま整備事業」に先立って町教育委員会が平成3年度より4ヵ年にわたり実施した、仲町遺跡の緊急発掘調査です。調査の結果、学術的に町の歴史を知るうえで、貴重な資料を得ることができました。

内容につきましては、本書の中で詳細に記しております。多くの皆さまに広く活用され、郷土の歴史解明の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の事業に際しまして、ご理解ご協力をいただきました松島区並びに地域住民の皆さまをはじめ、調査関係者の皆さま方に、本書の刊行をもちまして心から感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会
教育長 藤沢 健太郎

例　　言

- 1 本書は、平成3・4・8・9年度に箕輪町教育委員会が実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪9,549番地他に所在する、仲町遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本書の作成にあたり、作業分担を以下のとおり行なった。
 - ・遺物の洗浄・注記－池上 賢司、垣内 美保、春日 英美、根橋 陽一、穂谷 明子
 - ・遺物の接合・復元－井沢はずき、福沢 幸一、宮下 容子
 - ・遺構図の整理・トレース－池上 賢司、根橋とし子、宮脇 陽子
 - ・遺物の実測・トレース－井沢はずき、垣内 美保、根橋とし子、宮下 容子、宮脇 陽子
 - ・挿図作成－赤松 茂、根橋とし子
 - ・写真撮影・図版作成－赤松 茂、池上 賢司
- 3 本書の執筆は、赤松 茂、根橋とし子が行った。
- 4 本書の編集は、赤松 茂、井沢はずき、根橋とし子、福沢 幸一、宮下 容子が行った。
- 5 出土遺物及び図版類は、すべて箕輪町教育委員会が保管している。
- 6 調査及び本書の作成にあたり、下記の方々並びに機関からご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

個人－浦野 忠雄、小平 和夫、片桐 正利、友松 諭、福島 水、山岸 一夫
機関－松島区、仲町商店街、JA上伊那箕輪支所、財長野県埋蔵文化財センター

凡　　例

- 1 遺構実測図は、以下の縮尺に統一した。

溝状遺構・古墳周溝－1：100（土層断面1：60） 住居址－1：60（カマド・遺物出土状況1：40） 積穴址－1：40、1：80 集石炉－1：20 集石－1：40
土坑－1：40

- 2 遺物の実測図及び拓影図は、以下の縮尺に統一した。

土器実測図－1：4 土器拓影図－1：3 土製品実測図－1：1、1：2、1：4
石製品実測図－1：1、1：2 金属器実測図－1：2

- 3 土層及び土器の色調は、第2次調査より『新版 標準土色帖』を用いて記してある。

- 4 土器実測図における土器の接合状況は、観察できるものみ断面に表示してある。

- 5 遺構実測図におけるスクリーントーン及び記号による表示は、以下のものを表す。

- 褐断面 - 焼土 ● - 土器 △ - 鉄器 ■ - 石製品 □ - 土製品

- 6 土器実測図におけるスクリーントーン表示は、以下のものを表す。

- 須恵器断面 - 灰釉陶器断面 - 土師器内面黒色処理

- 7 土製品及び金属器実測図中におけるスクリーントーン表示は、以下のものを表す。

- 二次焼成痕 - 鉄滓付着痕 - 木質付着痕

- 8 図版の出土遺物の数字は、挿図における遺物番号を表す。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

教育長 藤沢健太郎

| | |
|--------------------|----|
| 第Ⅰ章 発掘調査の概要..... | 1 |
| 第1節 調査の経過..... | 1 |
| 第2節 調査概要..... | 2 |
| 第3節 調査日誌..... | 4 |
| 第Ⅱ章 遺跡の環境..... | 6 |
| 第1節 地形と地質..... | 6 |
| 第2節 歴史環境..... | 8 |
| 第Ⅲ章 調査結果..... | 10 |
| 第1節 調査方法と結果概要..... | 10 |
| 第2節 土層堆積状況..... | 13 |
| 第Ⅳ章 遺構と遺物..... | 15 |
| 第1節 古墳周溝..... | 15 |
| 第2節 溝状遺構..... | 17 |
| 第3節 坑穴住居址..... | 21 |
| 第4節 坑穴址..... | 40 |
| 第5節 集石炉・集石..... | 41 |
| 第6節 土坑..... | 42 |
| 第7節 遺構外出土遺物..... | 42 |
| 第Ⅴ章 まとめ..... | 72 |

報告書抄録

図 版

第Ⅰ章 発掘調査の概要

第1節 調査の経過

仲町遺跡が所在する箕輪町松島区仲町地区は、住宅密集地であるとともに、国道153号線沿いに各店舗が建ち並ぶ、町の商業地として中心的な位置にあたる。この町並みや集落形成の始まりは、中世末期から近世初頭に五街道の脇往還である「伊那街道」の開設により、松島南町から仲町に至る一帯に宿駅（松島宿）が設けられたことによる歴史的背景が伺える。なおその街道筋は、現在国道153号線として生まれ変わり、今も主要幹線道路としての役割を果たしている。



第1図 調査位置図 (1:20,000)

町は、新たに町道6号線の東部延長による幹線道路の開設と公園整備を内容とする、地域の活性化を目指した「マイタウンまつしま整備事業」計画を平成2年度より具体化してきた。しかし、「箕輪町誌 歴史編(1986)」によると、明音寺北側から現JA箕輪支所の一帯にかけて、縄文・弥生・古墳・奈良・平安の各時代に及ぶ遺物の出土が確認されているとある。開発予定地内にも、これら各時代の埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、町の開発担当部局と町教育委員会の間で、計画段階より保護協議を重ねてきた。そして、およそ7,058m²の開発予定地全面積を対象とする、記録保存を目的とした発掘調査を実施する運びとなつた。

調査は、用地取得が完了した箇所から、平成3・4・8・9年度の4カ年に渡って随時実施し、各年度ごとに整理作業を行ってきた。そして、平成10年3月をもって本書の刊行に至つた。

第2節 調査概要

1 遺跡名 仲町遺跡

2 所在地 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪9,549番地他

3 事業期間

平成3年度 3年8月1日～11月29日(調査) 11月30日～4年3月31日(整理)

平成4年度 4年9月3日～10月3日(調査) 10月4日～5年3月31日(整理)

平成8年度 8年5月7日～10月17日(調査) 10月18日～9年3月31日(整理)

平成9年度 9年5月1日～11月18日(調査) 11月19日～10年3月31日(整理)

4 事務局

教育長 堀口 泉(平成8年12月離任)

教育長 藤沢健太郎(平成8年12月就任)

副理事柴 登巳夫(箕輪町郷土博物館館長)

主幹 唐沢喜美子(平成9年4月より)

副主幹 石川 寛(同館学芸員 平成5年3月まで)

副主幹 赤松 茂(同館学芸員)

主査 柴 秀毅(同館学芸員)

臨時職員 酒井 峰子(3・4年度)、宮脇 陽子(3・4年度)、

徳谷 明子(8年度)、根橋 とし子(3・4・8年度)、

5 調査団

団長 横口 彰雄（3・4年度）

団長 堀口 泉（8年度）

団長 藤沢健太郎（8・9年度）

副団長 柴 登巳夫（3・4年度担当者）

担当者 赤松 茂（8・9年度）

調査員 宮脇 陽子（3・4年度）、池上 賢司（8年度）、根橋 とし子
福沢 幸一

調査員

| | | | | | |
|-----|-------|------|-------|-----|-----|
| 3年度 | 井上 武雄 | 遠藤 茂 | 大槻 泰人 | 岡 章 | 岡 正 |
|-----|-------|------|-------|-----|-----|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 春日 義人 | 唐沢 光國 | 小池 久人 | 小嶋 久雄 | 笠川 正秋 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 清水すみ子 | 中坪侃一郎 | 中坪製婆男 | 戸田 隆志 | 野村 金吉 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 伯耆原 正 | 松田 貫一 | 松田 幸雄 | 水田 重雄 | 山口今朝人 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | | |
|-----|-------|------|-------|-----|-----|
| 4年度 | 井上 武雄 | 遠藤 茂 | 大槻 泰人 | 岡 章 | 岡 正 |
|-----|-------|------|-------|-----|-----|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 春日 義人 | 唐沢 光國 | 小池 久人 | 後藤 主計 | 小嶋 久雄 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 笠川 正秋 | 清水すみ子 | 中坪製婆男 | 戸田 隆志 | 野村 金吉 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 伯耆原 正 | 堀 五百治 | 松田 貫一 | 松田 幸雄 | 水田 重雄 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|--|--|
| 向山幸次郎 | 山口今朝人 | 山口 昭平 | | |
|-------|-------|-------|--|--|

| | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|
| 8年度 | 井沢 和幸 | 泉沢徳三郎 | 井上 武雄 | 井上 隆次 | 遠藤 茂 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 大槻 茂範 | 大槻 泰人 | 垣内 美保 | 春日 英美 | 片桐 勇 |
|-------|-------|-------|-------|------|

| | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 倉田 千明 | 桑原 篤 | 後藤 主計 | 小松 嶺人 | 笠川 正秋 |
|-------|------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 戸田 隆志 | 根橋 陽一 | 藤沢 具明 | 伯耆原 正 | 穂谷 明子 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 堀 五百治 | 松田 貫一 | 水田 重雄 | 向山幸次郎 | 山口 昭平 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|------|--|--|--|
| 山田 武志 | 若林 博 | | | |
|-------|------|--|--|--|

| | | | | | |
|-----|-------|-------|------|-------|-------|
| 9年度 | 井沢はづき | 泉沢徳三郎 | 伊藤 誠 | 井上 武雄 | 井上 隆次 |
|-----|-------|-------|------|-------|-------|

| | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|
| 遠藤 茂 | 大槻 茂範 | 大槻 泰人 | 垣内 美保 | 片桐 勇 |
|------|-------|-------|-------|------|

| | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 倉田 千明 | 桑原 篤 | 後藤 主計 | 小松 嶺人 | 笠川 正秋 |
|-------|------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 田中 忠男 | 戸田 隆志 | 藤沢 具明 | 伯耆原 正 | 穂谷 明子 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 堀 五百治 | 堀内 昭三 | 松田 貫一 | 水田 重雄 | 宮下 容子 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

| | | | | |
|-------|-------|--|--|--|
| 向山幸次郎 | 山田 武志 | | | |
|-------|-------|--|--|--|

第3節 調査日誌

平成3年度

8月1日～7日 第1次調査区の予備調査として、調査区北側箇所の基本層序の記録作業を行う。

10月14・15日 調査区内の試掘調査を行う。

10月22・23日 重機による表土除去作業。

10月24日 本調査開始。機材の搬入後、調査団の結団式を行う。引き続き遺構上面確認作業を始める。

10月26～29日 終日遺構上面確認作業。

10月30日～11月8日 検出した、溝状遺構・古墳周溝・土坑等の掘り下げ、サブトレントによる遺構の確認作業を行う。

11月11日～22日 各遺構の測量・写真撮影・遺物の取り上げを行う。

11月26日 土坑内より出土した、「馬の頭骨」を取り上げるための下準備を行う。

11月29日 発泡ウレタンによる「馬の頭骨」の取り上げを行う。機材を撤収し本日にて調査を終了した。

平成4年度

9月3日 第2次調査開始。重機により、用地内の物件（フェンス・アスファルト等）を撤去する。

9月4日 重機により、部分的にトレントを任意に設定して試掘を行い、引き続き表土除去作業も行う。

9月7日 本調査開始。機材の搬入後、遺構上面確認作業を行う。

9月8日～14日 終日遺構上面確認作業。

9月16日～19日 堅穴址・土坑等の掘り下げを行う。

9月21日～28日 各遺構の測量・写真撮影を行う。

10月1日・2日 全体測量・全体写真撮影を行い、機材を撤収し終了。



平成 8 年度

5月7日 第3次調査開始。事務所・トイレを設置し、機材を搬入する。

5月8日 第2調査区（西側）から、試掘調査を始める。

5月9・10日 重機にて第1調査区（東側）の試掘作業を、引き続き表土除去作業を行う。

5月13日 第1調査区の遺構上面確認作業と、重機による第2調査区の表土除去作業を行う。



5月14～16日 両調査区の遺構上面確認作業を行う。

5月17日 作業中、現場近くで火事が発生し、終日消防作業の手伝い・後片付けに追われる。

5月21～28日 両調査区の遺構上面確認作業を行う。

5月29日～6月11日 第1調査区において確認した遺構の掘り下げを始める。第2調査区はトレンチを設定し、遺構の確認を行う。

6月12日～7月10日 第1調査区の各遺構の写真撮影と測量作業を行う。第2調査区は、検出遺構の掘り下げを進める。

7月11日～8月6日 第2調査区の各遺構の写真撮影と測量作業を行う。

8月7日 機材等を撤収し、本日にて終了。

10月17日 工事立会いを行う。

平成 9 年度

5月1日 第4次調査開始のため、機材の搬入等の準備を始める。

5月22・23日 重機にて表土除去作業を行う。

5月28日～6月9日 終日遺構上面確認作業を行う。

6月10日～7月22日 各遺構の掘り下げを行う。掘り上がった遺構より、写真撮影・測量を行う。

7月23日～8月19日 各住居址のカマドの掘り下げ・測量・全体測量・写真撮影を行う。

8月20日 機材の撤収を行う。概ね終了。

8月21～26日 攪乱が予測される未調査区の試掘を、トレッセにて掘削し記録する。

11月18日 工事立会いを行う。



第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形と地質

箕輪町は、東は南アルプス、西は中央アルプスに挟まれた、南北70kmにも及ぶ伊那盆地の北部に位置する。また諏訪湖を源とし、盆地の中央低地帯を南に流れる天竜川によって、町はほぼ東西に二分された形となっている。盆地は、天竜川の低地から両アルプスの山頂に至って、大起伏地帯となっており、その景観から「伊那谷」と呼ばれる。

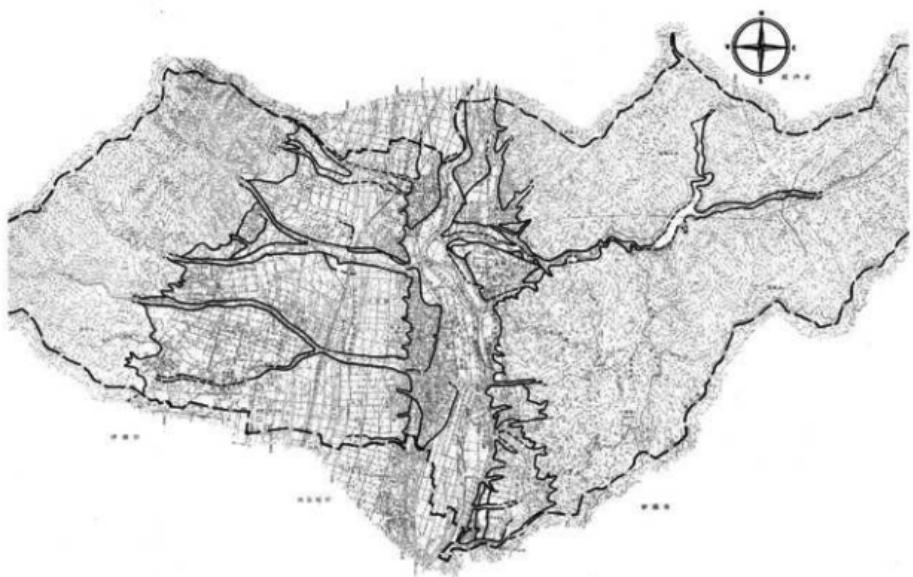
伊那谷は本州内陸部の中でも多くの活断層が分布し、約10km幅にそれが集中する、極めて活動的な構造盆地であることがわかっている。この地形は、第四期の地殻変動によって造り上げられた。

箕輪町を含む上伊那北部の竜西（天竜川の略称で、東側は「竜東」と呼ぶ）地域では、天竜川の各支流から押し出された土石流が重なり合い、現在の複合扇状地が形成された。竜西扇状地は、伊那谷の中でも最も広いが、これは、上伊那南部の扇状地による土砂が天竜川をせき止めたことと、中央アルプスと交差する境幹断層により、中央アルプスの主要部が大きく西へ移動し、同様に経ヶ岳山麓の活断層帯も西へ崩れたため平な盆地が造られたという二つの理由により、両アルプスから搬出された砂や礫が盆地内に蓄えられたためとされている。

その後、扇状地が浸食され、田切地形と呼ばれる深い谷状の特徴的な地形が生れた。箕輪町でも天竜川に注ぐ桑沢、北の沢、深沢、帶無などの各中小河川の扇状地扇端部にそれを観ることができる。

次に、箕輪町のもう一つの特徴的な地形景観である段丘に目をむけると、竜西地区では、天竜川より2ないし3列からなる、階段状の崖として確認できる。伊那谷各地でみられるこの段丘崖は、以前は天竜川が形成した河岸段丘と考えられていたが、現在では活断層の断層運動によって造りだされた断層崖ということが各地で確認されている。箕輪町でも、局地的な地質調査が進めば、この段丘がどのように形成されたかわかるであろう。一方竜東地区では、唯一沢川の造りだした扇状地の南側だけが平坦な地形である。ほかの地域は、山が近いせいもあり、変化に富んだ地形を造り上げている。特に最南端の福与地区では、天竜川に流れ込む中小河川が、小規模な扇状地を掘り込んだ結果、丘陵地形が配列し、地形変化を更に複雑にしている。しかしながら、現在では構造改善が進み、そういった地形の複雑な変化は、古い写真や地図で確認できるだけという場合が多く、元の地形を推測するのは難しくなってきている。

地形と同じように竜東と竜西では地質の面に置いても非対照的で、基盤岩の質も異なる。竜東側では、基盤岩を覆っている被覆層は、比較的浅く、断片的であるため、支流の谷沿いには



第2図 箕輪町地形観察図 (1:100,000)

基盤岩が広く露出し、天竜川まで続いている。竜西側では、竜東に比べ被覆層が厚いため、基盤岩の露出は少ない。また、御岳テフラの終息期以後も、各支流より裸の押し出しが続き、後氷期の黒ボク土までを含む土壤と砂礫が混合して、扁状地の地形が続いたとされる。

今後箕輪町においても、遺跡を理解するために更に詳しい地質調査が必要となるであろう。

引用・参考文献

伊那市教育委員会・上伊那地方事務所 小黒南原・伊勢並遺跡 緊急発掘調査 1992.3

松島 信幸 伊那谷の造地形史 伊那谷の活断層と第四期地質 1995.3.31

第2節 歴史環境

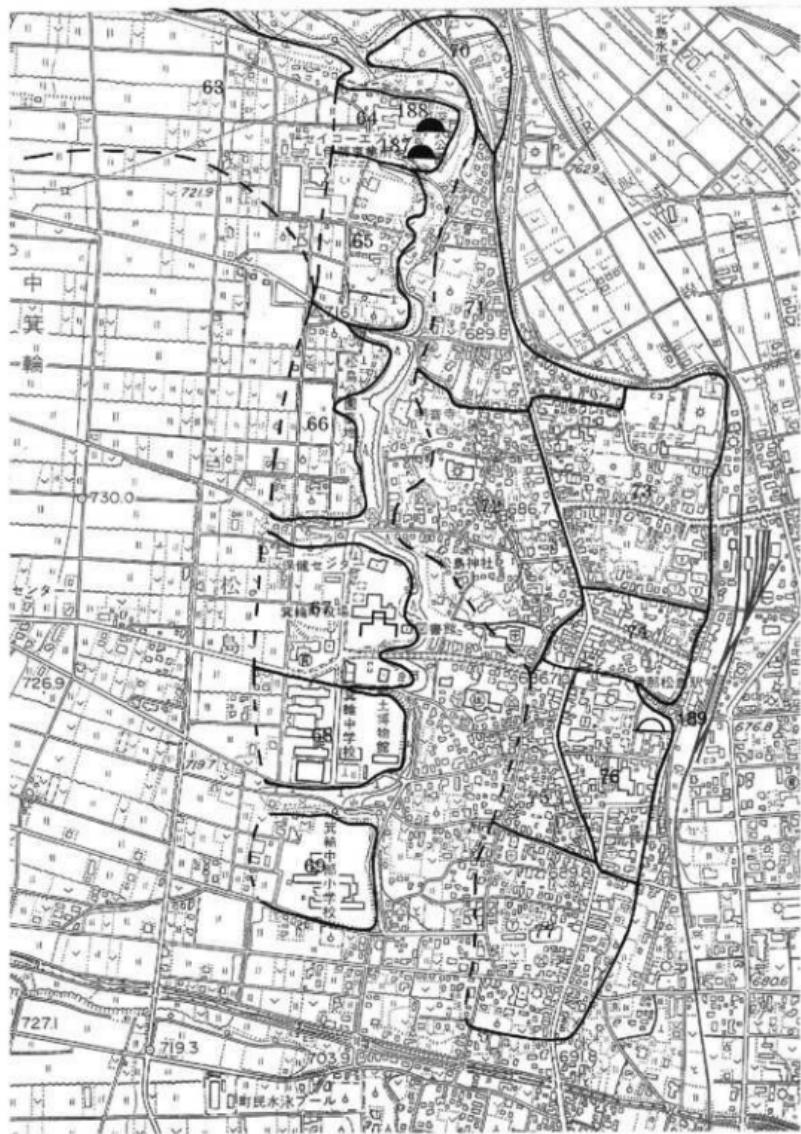
箕輪町は、東西の複合扇状地を流れる中小河川と段丘下の湧水など、水源に恵まれており、先史より人が暮らしやすい格好の場が多い。町内には先人たちが残した足跡ともいいくべき多くの遺跡が散在し、現在のところ包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し、上伊那郡下においても屈指の遺跡地帯として知られている。

遺跡の多くは前述のとおり、段丘及び扇状地に立地しており、特に竜西の遺跡の分布状況は、2から3段になる段丘の突端部、中小河川の両岸、山裾など、ほぼ3箇所にみられる。本年までに実施された発掘調査例を中心に概観してみると、縄文・弥生・古墳・奈良・平安の各時代の集落址や墓域を中心とした生活の痕跡、さらに町の南部の氾濫源に広がる箕輪遺跡に代表される、稲作の痕跡をみせる生産遺跡も確認されている。

今後、これらの遺跡を保護していくためにも、一帯における開発には十分注意をしていく必要がある。

第1表 周辺遺跡一覧表

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 所在地 | 立地 | 時代 | | | | | | | 備考 |
|------|--------|-----|------|----|---|---|---|---|---|---|---------------|
| | | | | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 奈 | 平 | 中 | |
| 76 | 仲町 | 松島 | 段丘突端 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 189 | 仲町古墳 | 松島 | 段丘突端 | | | | ○ | | | | |
| 63 | 久保林 | 松島 | 扇 夾 | | | | | ○ | | | |
| 64 | 王墓 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | ○ | | | | | 一部長野県史跡 |
| 65 | 王墓付近 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | | | ○ | | | |
| 66 | 臼杵洞 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| 67 | 本城 | 松島 | 段丘突端 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 平成5・6・8年度発掘調査 |
| 68 | 中山 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | | | ○ | ○ | | 昭和61・62年度発掘調査 |
| 69 | 蘿山 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | | | | | | |
| 70 | 王墓北 | 松島 | 段丘突端 | ○ | | | | | | | |
| 71 | 北町 | 松島 | 段丘突端 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 72 | 神社付近 | 松島 | 平 地 | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| 73 | 東町 | 松島 | 段丘突端 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 74 | 旭町 | 松島 | 段丘突端 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 75 | 通り町 | 松島 | 段丘突端 | | | | | ○ | | | |
| 77 | 南町 | 松島 | 段丘突端 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 187 | 王墓古墳1号 | 松島 | 段丘突端 | | | ○ | | | | | 長野県史跡 前方後円墳 |
| 188 | 王墓古墳2号 | 松島 | 段丘突端 | | | ○ | | | | | 長野県史跡 |



第3図 周辺遺跡分布図 (1:10,000)

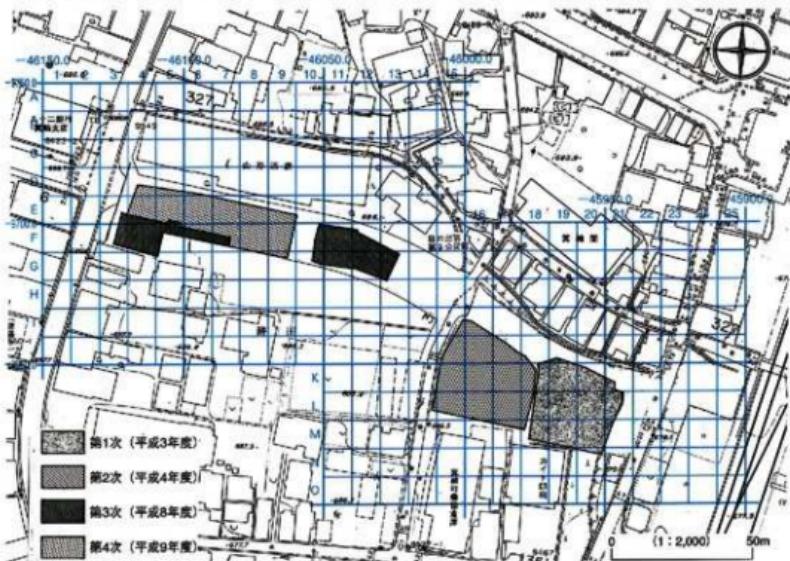
第Ⅲ章 調査結果

第1節 調査方法と結果概要

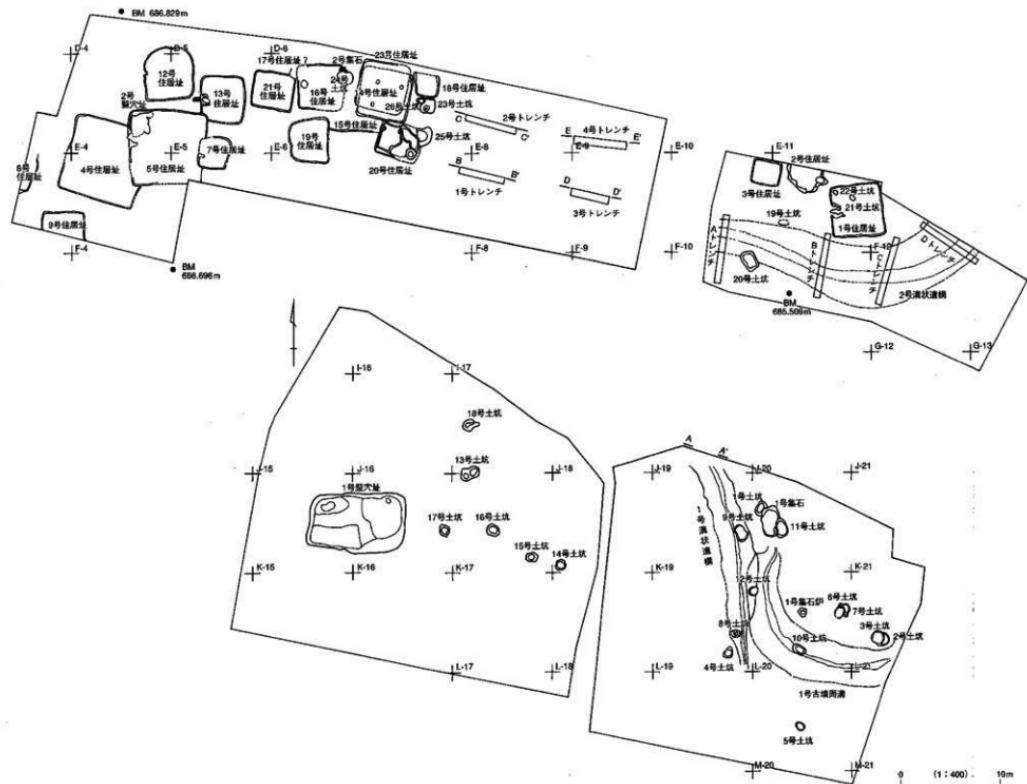
今回の開発事業は、新規の道路建設が主であるため、遺跡地の東側限界部にあたる段丘縁から包蔵地を東西に横切ることであった。よって今回の調査は、未開の遺跡包蔵地の範囲と性格を確認できる大きな意義があった。

調査の実施状況は、事業の執行年度に合わせ、平成3年度が $1,050\text{m}^2$ 、平成4年度が $1,200\text{m}^2$ 、平成8年度が $2,290\text{m}^2$ 、平成9年度が $1,300\text{m}^2$ の各面積である。各調査区（平成8年度は2地区に分かれる）におけるグリッドは、計画路線の中心線に打ち込まれる基準点を移動して任意に設定し、検出遺構の位置を落とした。しかし、最終的には設計図に各調査区を組み込み、X Y軸を基準とした10m四方のグリッドを修正している。グリッドの表示は、Y軸は南北方向を指し、北からアルファベット順に、X軸は東西方向を指して西から数字で表示した（第4図）。なお、記録作業における標高の割り出しも、近接するベンチマークから調査区に移動して各調査区ごとに仮ベンチマークを設定した。

調査の手順としては、幾度となく開墾や開発を繰り返した当地域においては、元地形及び地



第4図 調査範囲及びグリッド設定図



第5図 全体図

質の状況が掴めておらず、また遺構の保存状況も把握してないため、各調査年度ごとにまず手掘りによる試掘を繰り返し、その後バックホーで遺構が検出する直上までの表土を除去した。

そして、人力による遺構上面確認作業及び各遺構の掘りあげを行ない、随時遺構覆土の断面測量、写真撮影、平面測量等の記録作業を進めた。

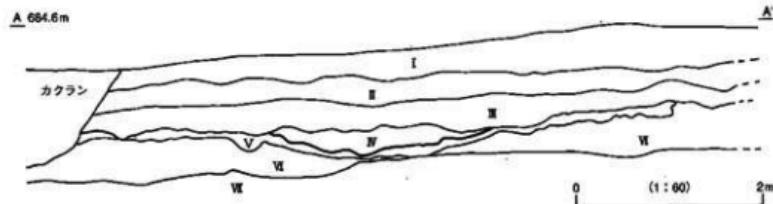
遺構は、各種別ごとに検出順で任意に通し番号を付けたが、調査途中または整理作業で抹消してしまったものについては調査時の番号を生かしているため、住居址のように番号の欠落した状況となった。検出遺構は以下のとおりである。

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| ・古 墳-1基（古墳時代） | ・溝状遺構-2条（縄文、平安時代） |
| ・住 居 址-19軒（古墳、奈良、平安時代） | ・竪 穴 坐-2基（奈良時代、近・現代） |
| ・集 石 -2基（時期不明） | ・集 石 炉-1基（縄文時代） |
| ・土 坑-26基（縄文、古墳、奈良、平安時代、時期不明） | |

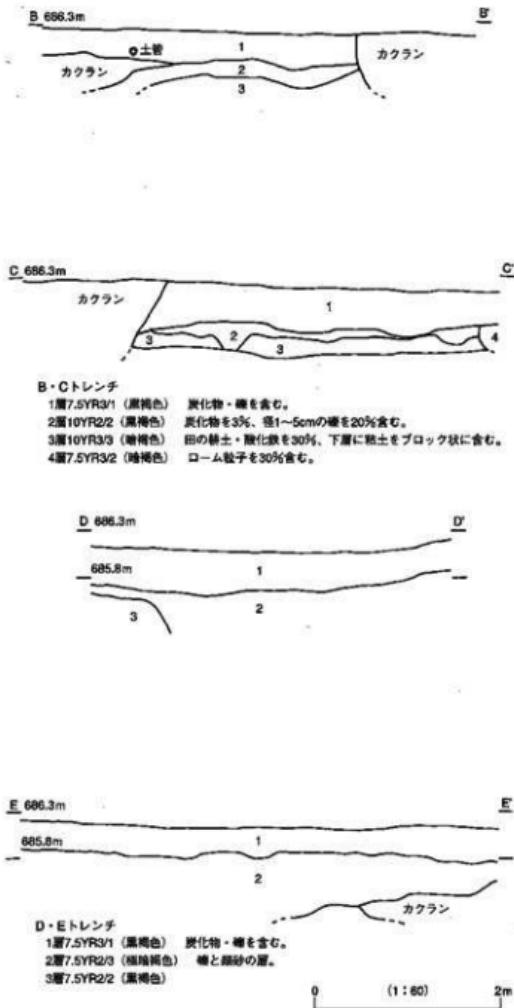
第2節 土層堆積状況

各調査区ごとに攪乱が激しいので、確認した各層のつながりと変化は掴めていない。それぞれ遺構の検出する基盤層と、そのレベルに大きな差がみられないため、第1調査区北側を基本層序として表示する。なお、第1次調査（区）では、「標準土色帖」を使用していない。

- I層-暗灰褐色土 表土及び攪乱土である。
- II層-赤褐色土 酸化鉄を含む砂礫層。
- III層-暗茶褐色土 土器・炭化物を僅かに含む。小礫を多量に含む。
- IV層-黒褐色土 炭化物を僅かに含む（1号溝状遺構覆土）。
- V層-明茶褐色土 ローム粒子を多く含む。シルト及び細砂の混合土。第1次調査区では本層と明黄褐色土（ローム）が遺構確認層である。
- なお明黄褐色土（2.5YR5/6）は、第3次調査区と第4次調査区の東側まで確認できるが、西方に向かうにつれ、オリーブ褐色（2.5Y4/4）に変化していく。
- VI層-黄褐色土 シルト及び細砂層。第1・2次調査区のみ確認。他は礫層（VII層）。



第6図 土層断面図



第7図 トレンチ断面図

第IV章 遺構と遺物

第1節 古墳周溝

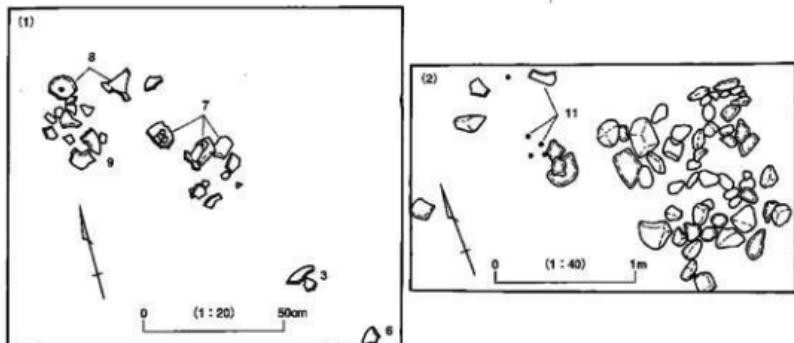
1号古墳

遺構（第8・9図） K-19～M-21グリッドに位置し、本遺跡地の東端部にあたる段丘縁に立地する。本遺構は、1号集石炉、2・3・6・7・10・12号土坑を切り、2号溝状遺構に切られる。

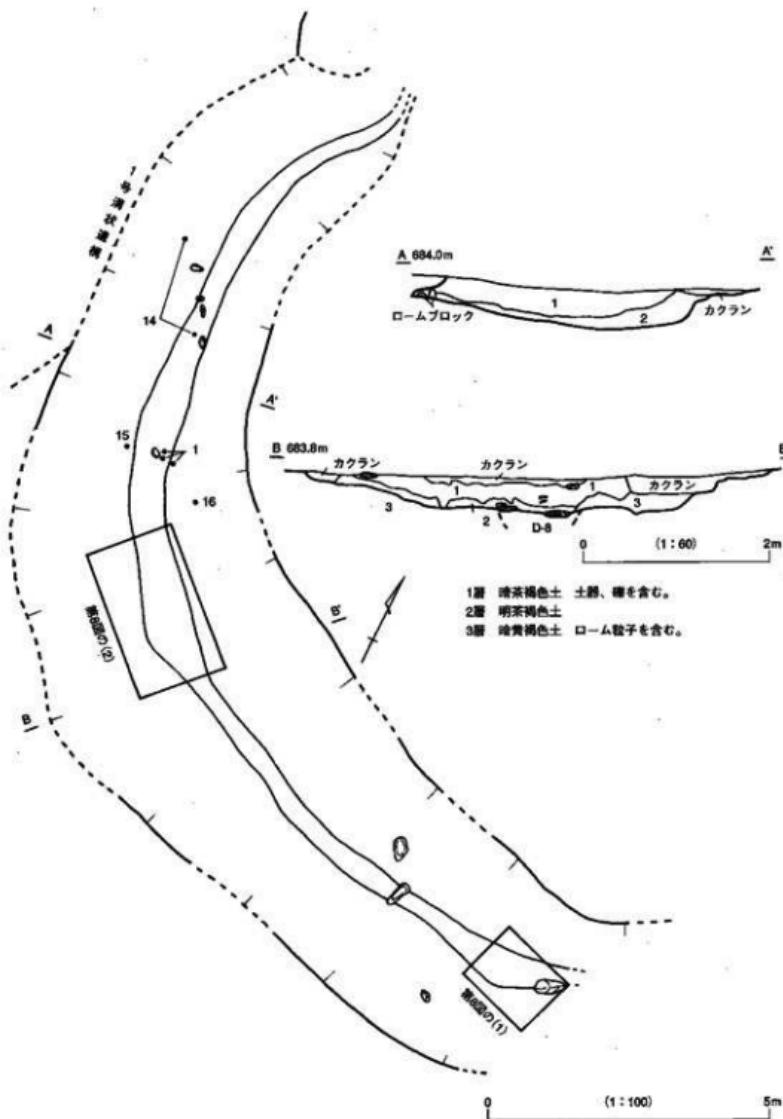
遺構は、当初単なる三日月形の溝状遺構と捉えていたが、溝内より出土する遺物の組成とその諸特徴から、古墳周溝の残存部として認識を改めた。墳丘及び主体部は既に破壊され、その形跡すらなく、また周溝が継続する東側は段丘崖にかかるて崩落したと思われ、北東側は大きく擾乱され検出はできなかった。

推定される古墳の規模は、周溝を含めた全体径（周溝外径）がおよそ20～22m、墳丘径（周溝内径）はおよそ12～14mを測る。周溝はおむね半円形を呈することから、古墳の形状は円墳であった可能性が高い。溝の幅は、3.6～4.0m、深さ70～80cmで、緩やかな立上がりを持つ。覆土は3層からなり、周溝の底面及び法面には拳大前後の転石がみられ、部分的にそれが集中する箇所も見られた（第8図-(2)）。

遺物（第38図） 本遺構からは、土器が壺（4・5）、高壺（6～9）、鉢（10）、壺（12）が、須恵器は蓋（1・2）、壺（3）、壺（11）、横瓶（13）、短頸壺（14）、腹（15）が出土している。金属器及び石製品は出土していない。弥生土器も、後期の横描波状文を施す壺の小破片と、壺か壺の底部片（16～17）が見られるが混入遺物であろう。



第8図 1号古墳周溝内遺物出土状況(1)・(2)



第9図 1号古墳周辺実測図

出土した土師器と須恵器は、その出土量こそ多くないが、周溝の底面直上ないしそれに近い覆土にまとまっている。特に、6~9を含むおよそ6個体の高杯は、形状及び大きさがほぼ統一され胎土も均一であり、製作技法にも同じ手法（特に坯部及び脚部の粘土帯にみられる各部位の連結方法や、ミガキやナデ、ケズリ等の調整法の共通性等）が用いられていると言える。これらは周溝東部にあたる、およそ1m四方の特定された範囲内のみで出土している（第8図-（1））。これらの土師器・須恵器の諸特徴から本遺構は、古墳時代後期（6世紀前葉～中葉）と考えたい。

第2節 溝状遺構

1号溝状遺構

遺構（第10図） J-19～N-19グリッドに位置し、1号古墳と8・9号土坑と重複し、これらを切っている。

遺構は、南北方向に全長20.2mの確認でほぼ直線状に検出し、北側に隣接する河川へ緩やかに傾斜して走っている。また遺構の南側は、削平により破壊されその継続状況は不明である。溝幅は2.5～3.8mで、深さは20～45cmを測り、法面はおおむね直線で断面は緩やかなV字形を呈する。覆土は3層から構成され、部分的に拳大程度の転石が集石状に堆積し、遺物の出土もその箇所に集中する。

遺物（第38図） 須恵器、土師器、灰釉陶器が出土しているが、その出土量は少ない。（18）は弥生後期土器とみられ、混入物と思われる。19の壺は1号古墳からの混入物と思われる。灰釉陶器の煙頭壺（20）は、光ヶ丘1号窯式の諸特徴を有する。本遺構は9世紀後半にその時期設定を考えたい。

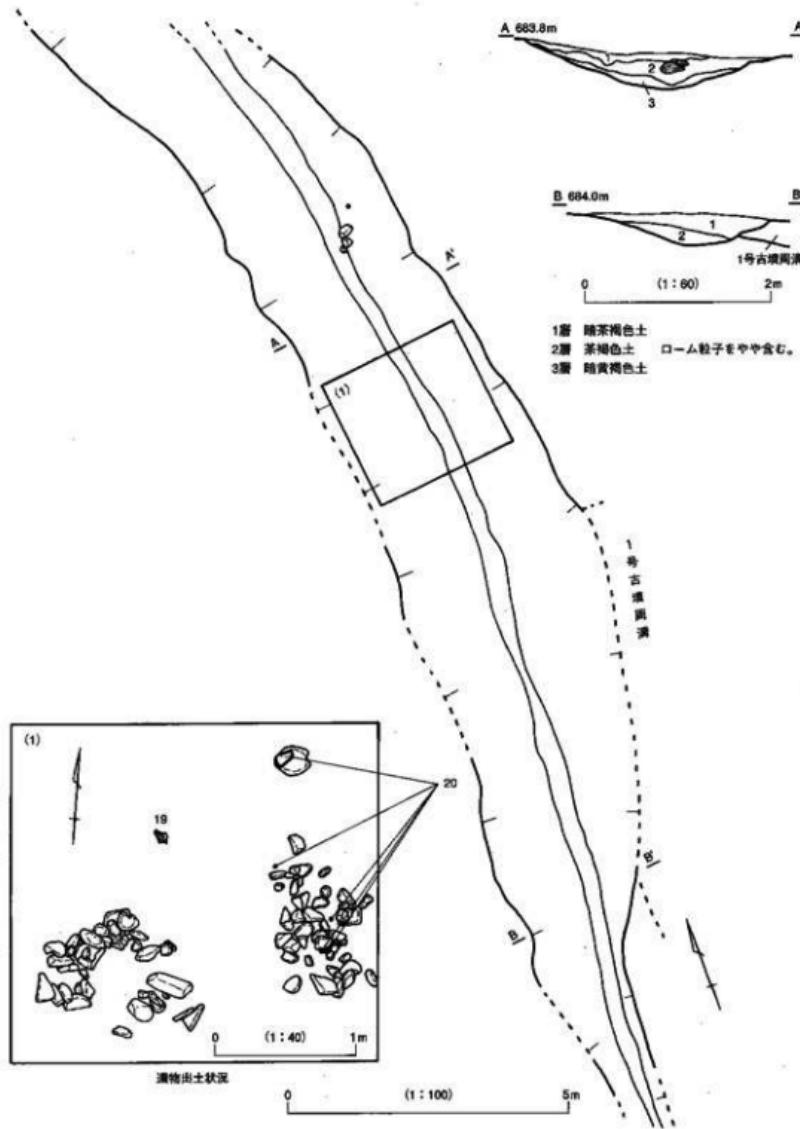
2号溝状遺構

遺構（第11図） 本遺構は、F・G-10～G-12グリッドの範囲に全長21.5mを検出したが、4本のトレンチによる掘削のみで、概ねの規模と特徴を確認しただけである。

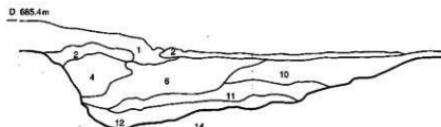
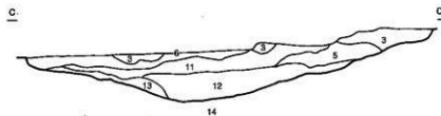
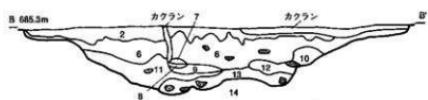
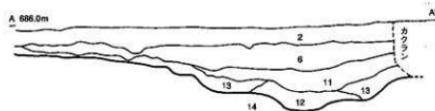
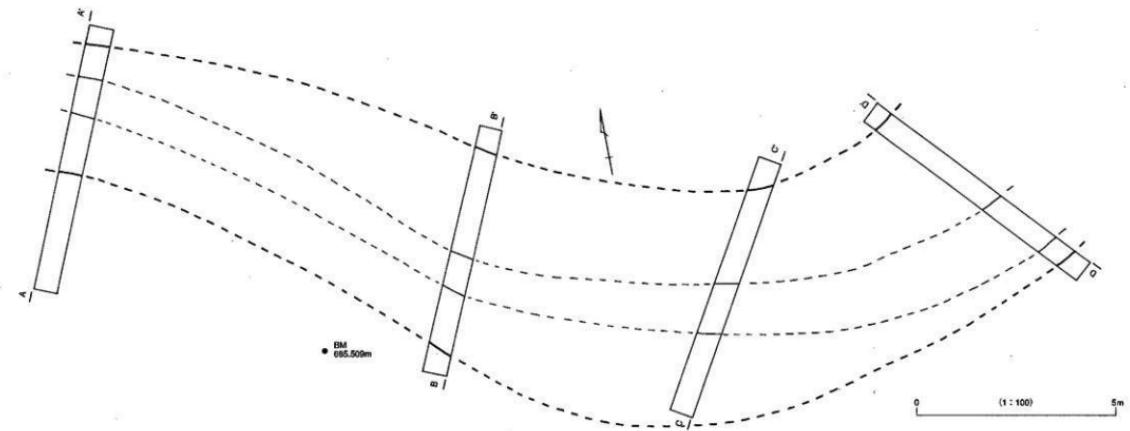
溝幅は3.8～5.8m、深さは0.85～1.5mを測り、掘形は基本的に薬研状を呈すると思われるが、法面と底面には部分的に凹凸がみられ、その状況は一定していない。覆土は13に分層され、上部を除けば砾をまばらに含む黒色ないし黒褐色土により構成され、規則性のある自然堆積により埋没したものと推測される。

なお、本遺構は20号土坑に切られる。

遺物（第39図） 繩文土器、黒曜石が出土している。土器はすべて小破片で、縩文前期末、中期初頭が主体であり、各層から出土した。また僅かであるが、6層上部より晩期前半の土器がみられ、その中でも38は、口縁部及び胴部の縩文による施文部に赤色塗彩が残存する。



第10図 1号溝状追構実測図

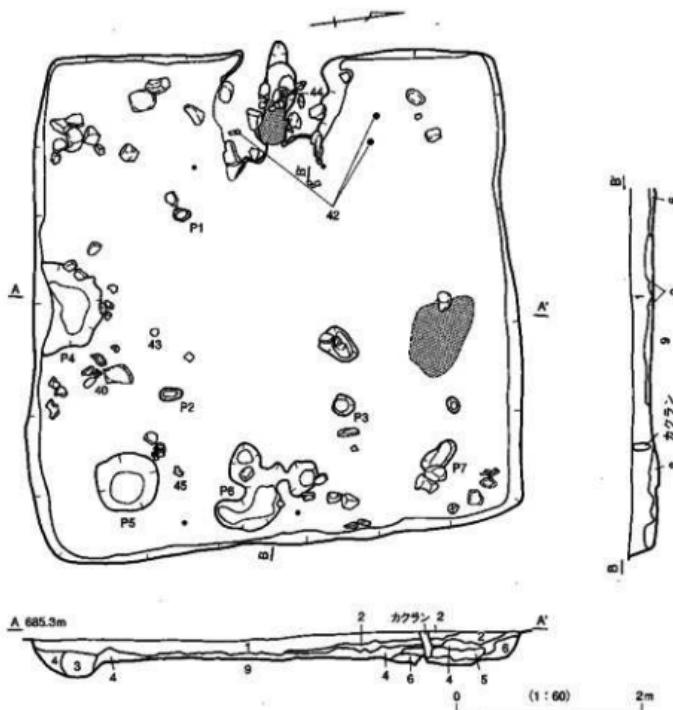


- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1層7.SYR3/3 (黒褐色) 径0.5~10cmの礫を50%含む種類。 | 8層7.SYR2/3 (黒褐色) |
| 2層7.SYR2/1 (黒色) 田の林土 岩片率を1%、径1~5cmの礫を3%含む。 | 9層7.SYR2/1 (黒色) |
| 3層7.SYR3/3 (黒褐色) 径0.5~10cmの礫を3%含む。 | 10層7.YR2/2 (黒褐色) |
| 4層7.10YR2/3 (黒褐色) | 11層7.SYR2/2 (黒褐色) |
| 5層7.SYR3/4 (黒褐色) 径1~10cmの礫を10%含む。 | 12層7.SYR2/1 (黒褐色) 径5~10cmの礫を5%含む。 |
| 6層SYR3/4 (暗赤褐色) 上部に酸化鉄の層を含む。 | 13層7.SYR3/1 (黒褐色) |
| 7層7.SYR2/2 (黒褐色) | 14層2.SYR5/6 (明黄褐色) ローム層 |

第11図 2号溝状漬構

第3節 壇穴住居址

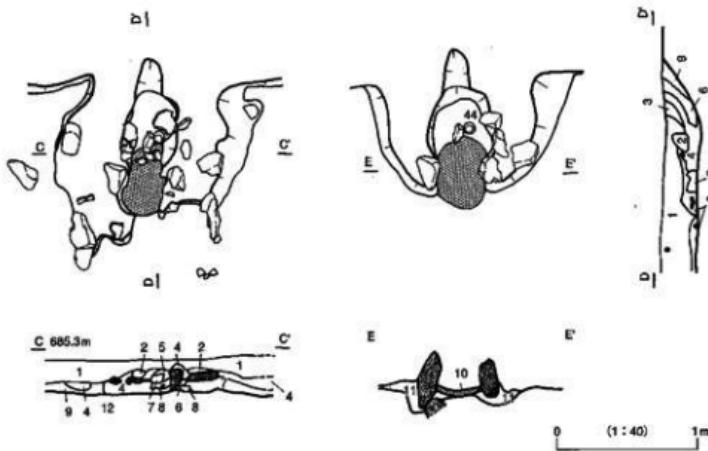
壇穴住居址は、不明確なものも含め19棟を検出している。その内、1～4・12・14・17・18号住の8棟が古墳時代後期、15・23号住の2棟が奈良時代、5・7～9・13号住の5棟が平安時代前期に属するものと判断した。残る16・19・20・21号住の4棟については、伴出する土器等の遺物が乏しく、その時期判定は不明確と言わざるを得なかった。尚、各住居址については、それぞれ別表にて記述した。



- 1層10YR2/3 (黒褐色) ローム粒子を3%含む。
- 2層10YR4/4 (褐色) ローム粒子を20%含む。
- 3層10YR3/4 (暗褐色) ローム粒子を5%含む。
- 4層2.5YR4/8 (赤褐色) 粘土を50%含む。
- 5層7.5YR2/2 (黒褐色) ローム粒子を10%含む。
- 6層10YR2/2 (黒褐色) 粘土を5%含む。
- 7層10YR2/2 (黒褐色) ローム粒子を3%、炭化物を1%含む。
- 8層10YR3/2 (黒褐色) ローム粒子を20%、粘土を35%含む。
- 9層7.5YR6/8 (褐色) ローム層。

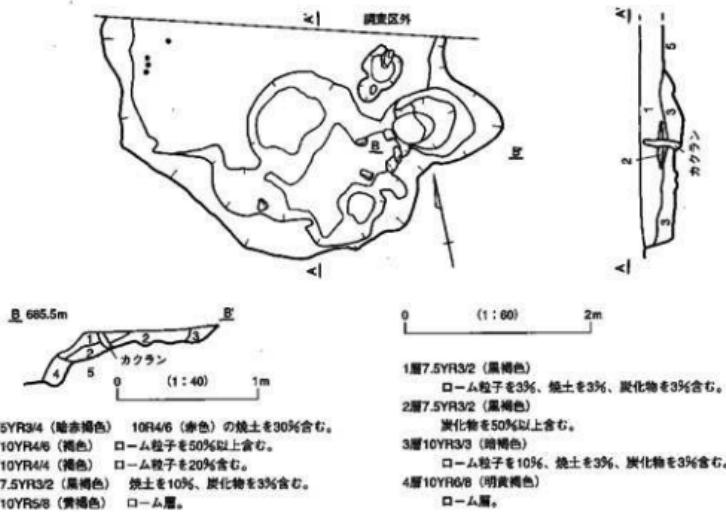
第12図 1号住居址実測図

今回注目される住居址としては、第4号住居址が上げられよう。一辺が8mにも及ぶ大型住居としての規模も去ることながら、十数点もの鉄滓とそれが付着する羽口が出土している。作業を行ったと思われる直接的な施設は明確に確認できなかったものの、小鍛冶の工房住居としての可能性が何える。また、偏平な筒状の枕形土製品が、西壁に位置するカマドの袖の部材として石材と共に使用されていた（第50図183・184）。この土製品は、外面こそ丁寧に面取りされ形が整えられているものの、内面に輪積痕と指圧痕が残り、撫で等による調整はほとんど行われておらず、粗雑な作りである。周辺地域に類例が少ないため、他の使用目的としての廃絶による転用なのか、部材目的のために製作された物か、それを特定することはできない。

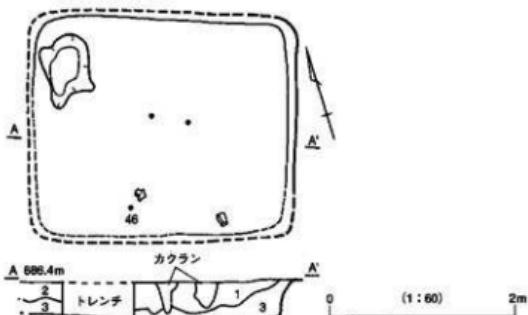


- 1層10YR2/3 (黒褐色) ローム粒子を3%含む。
- 2層10YR3/2 (茶褐色) 燐土・炭化物を5%含む。
- 3層10YR3/1 (黒褐色) 7.5GY4/1 (暗緑褐色) を30%含む強塑な粘土。
- 4層10YR3/1 (黒褐色) 7.5GY4/1 (暗緑褐色) を20%、燐土・炭化物を10%含む。
- 5層10YR3/3 (暗褐色) 燐土を3%含む。
- 6層2.5YR4/8 (赤褐色) 燐土を50%以上、炭化物を3%含む。
- 7層10YR3/2 (黒褐色) 燐土を5%、炭化物を5%含む。
- 8層10YR3/1 (黒褐色) 7.5GY4/1 (暗緑褐色) を20%、燐土・炭化物を10%含む。
- 9層10YR4/3 (にぶい黄褐色) ローム粒子を10%含む。
- 10層2.5YR4/8 (赤褐色) 粘土を50%以上、炭化物を3%含む。
- 11層2.5YR3/2 (黒褐色) 燐土を5%、2.5Y4/1 (黄褐色) を30%含む。
- 12層10YR5/6 (黄褐色) ローム層。

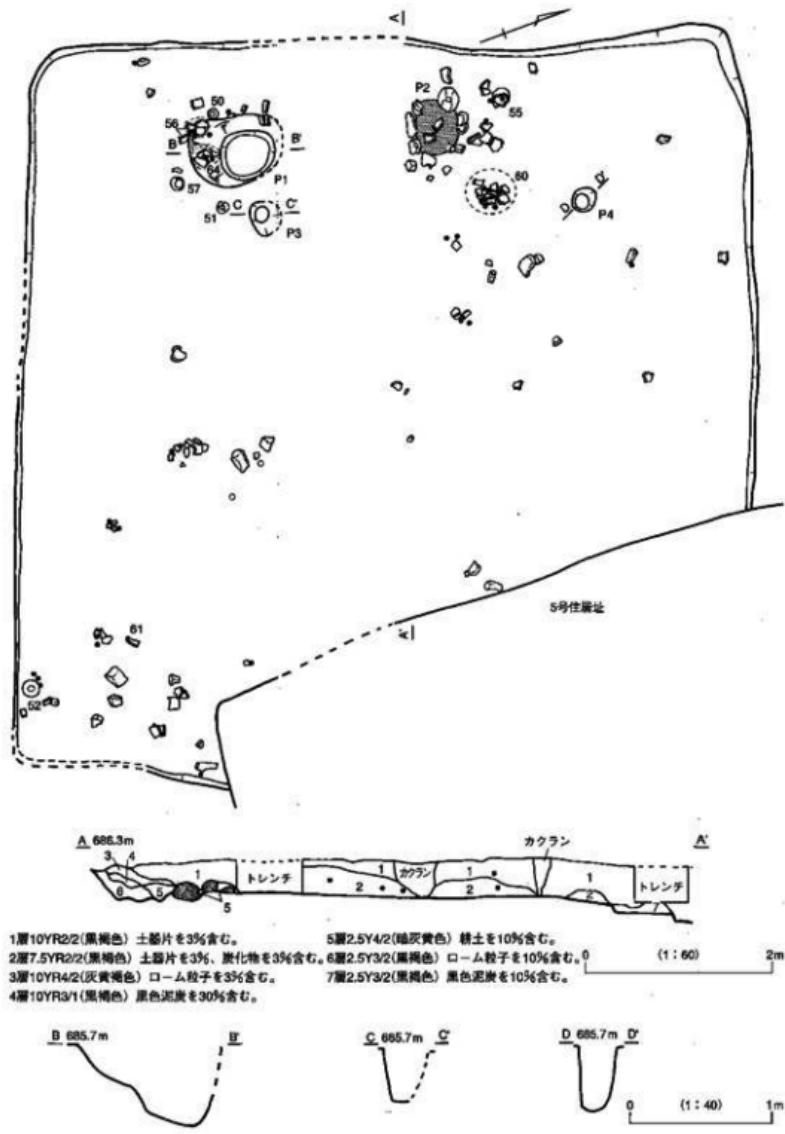
第13図 1号住居址カマド実測図



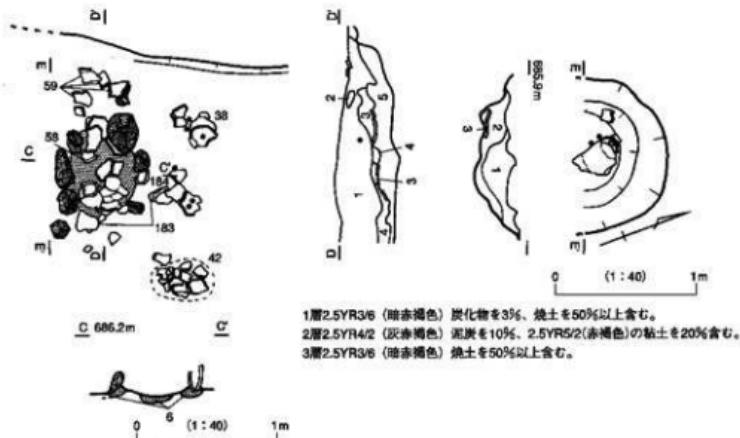
第14図 2号住居址実測図



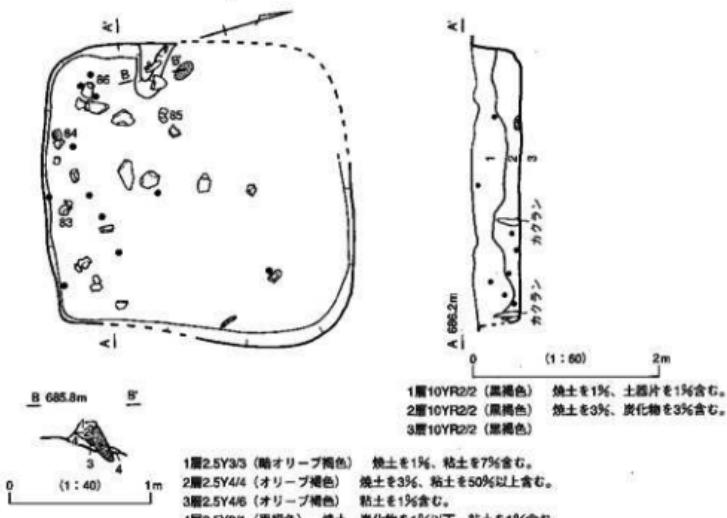
第15図 3号住居址実測図



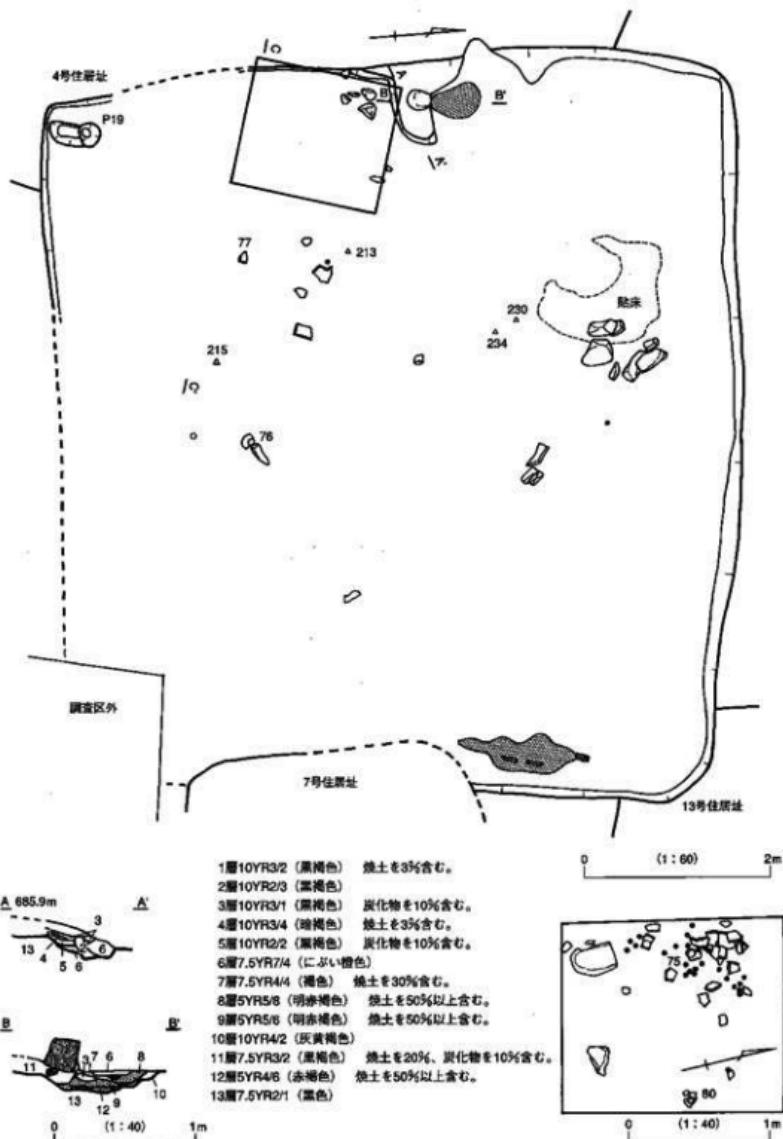
第16図 4号住居址実測図



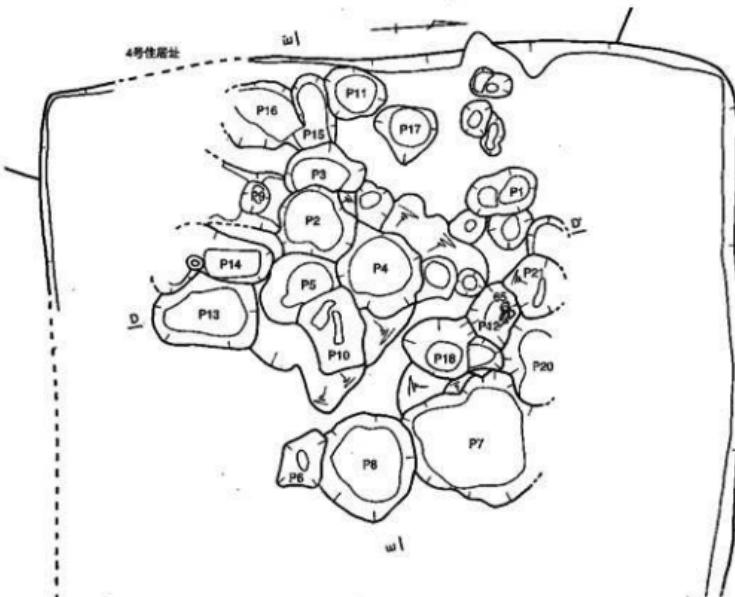
第17図 4号住居址カマド・ピット2実測図



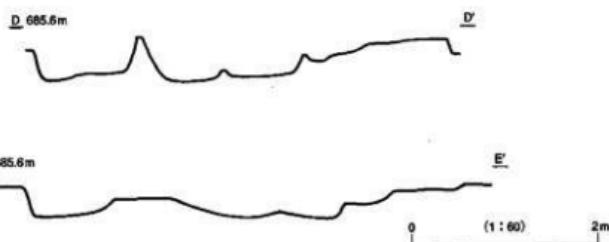
第20図 7号住居址実測図



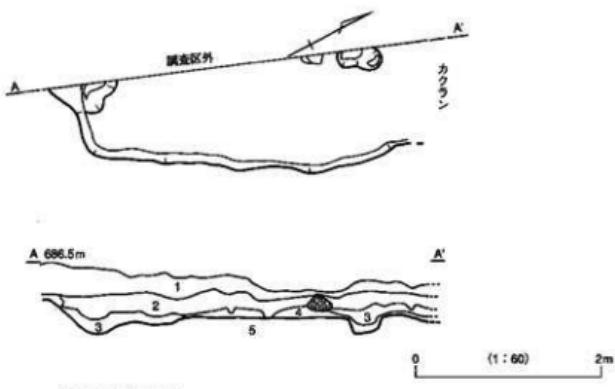
第18図 5号住居址実測図



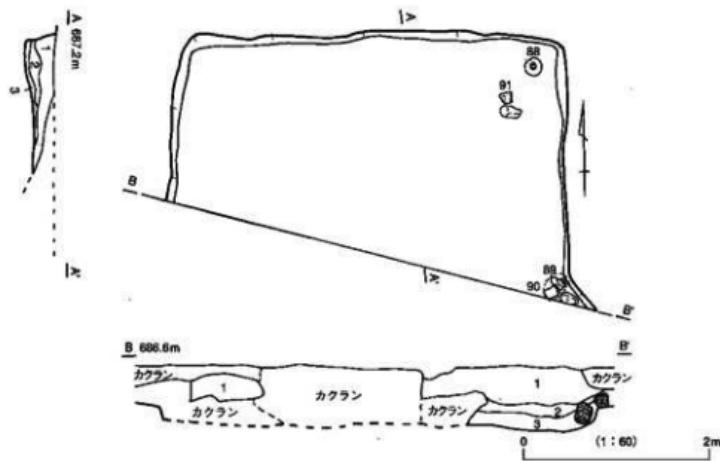
1層10YR2/2 (黒褐色) 土器を3%含む。
 2層10YR3/2 (暗褐色) 土器を3%、ローム粒子を5%含む。
 3層10YR3/2 (黒褐色) ローム粒子を3%含む。



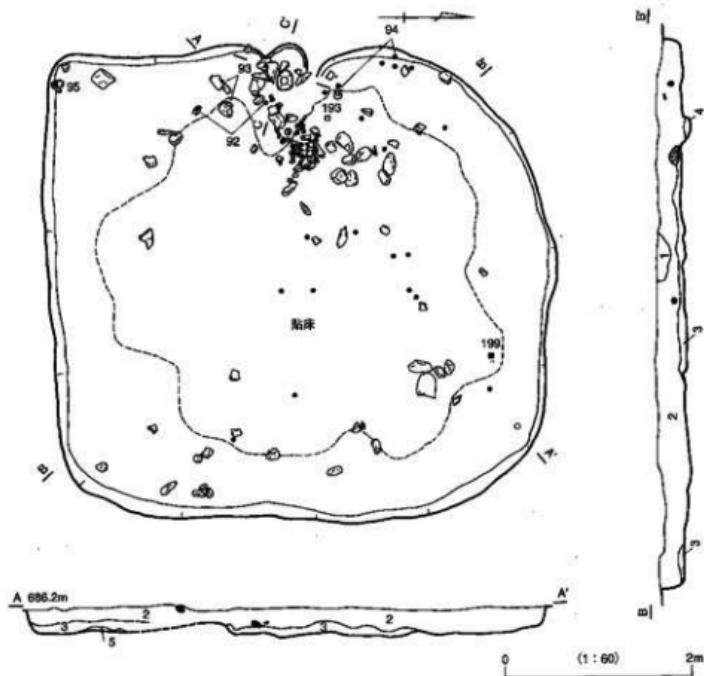
第19図 5号住居址掘り方実測図



第21図 8号住居址実測図



第22図 9号住居址実測図

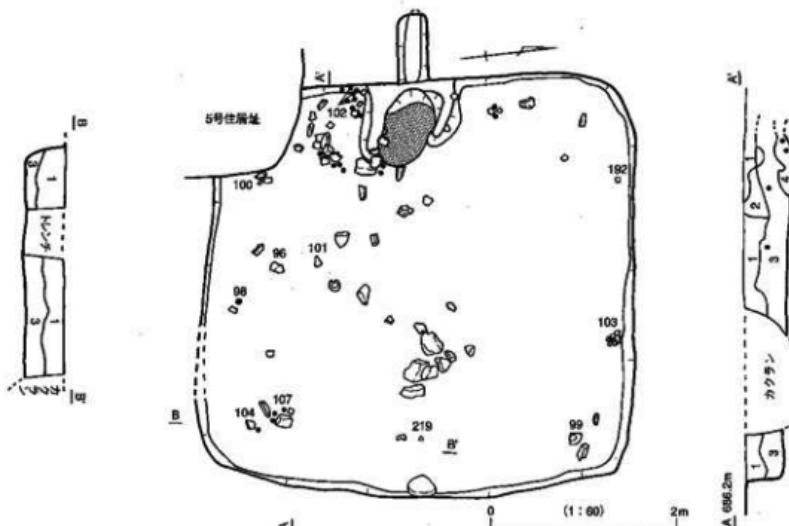


- 1層10YR3/3 (暗褐色) SY7/3 (浅黄色) を5%、焼土を5%含む。
- 2層10YR3/3 (暗褐色) SY7/3 (浅黄色) を5%含む。
- 3層10YR3/3 (暗褐色) SY7/3 (浅黄色) を10%、7.5Y2/1 (黒色) をブロック状に20%含む。
- 4層SY3/2 (オリーブ黒色)
- 5層10YR4/3 (にいぶい黄褐色) SY6/6 (オリーブ色) を3%、焼土を3%含む。

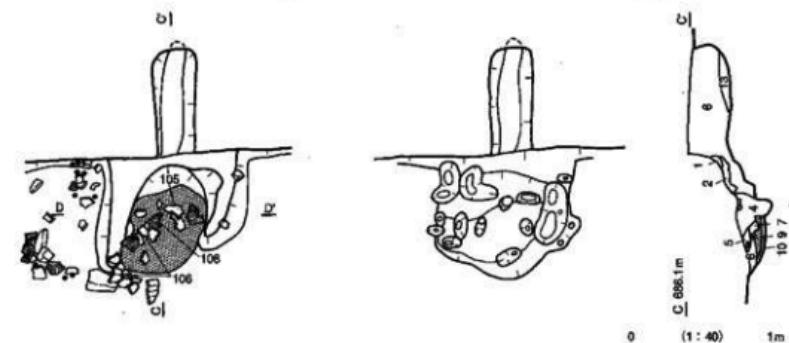


- 1層10YR3/4 (暗褐色) 粘土を10%含む。
- 2層10YR2/2 (黒褐色)
- 3層5YR2/4 (緑暗褐色) 焼土を10%含む。
- 4層10YR1.7/1 (黒色)
- 5層10YR3/2 (黒褐色) 10YR6/6 (明黄褐色) の粘土を10%、10YR1.7/1 (黒色) を5%含む。
- 6層5YR3/4 (暗褐色) 粘土を20%含む。

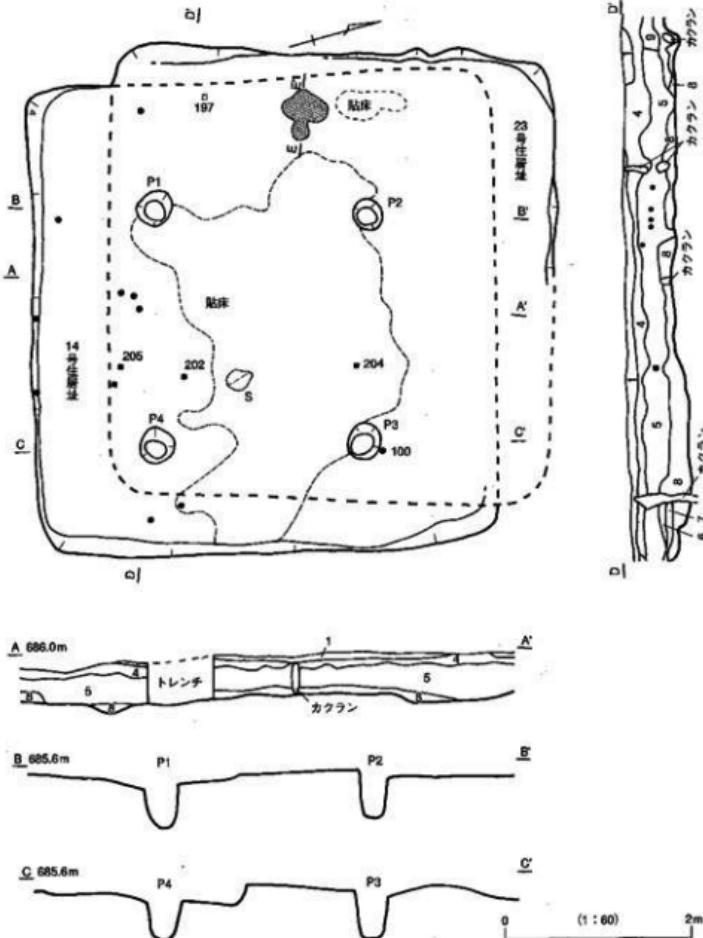
第23図 12号住居址実測図



1層10YR4/3 (にぶい黄褐色) 10YR3/2 (黒褐色) を20%、土器片を10%、径0.5~3cmの礫を3%含む。
 2号10YR4/3 (にぶい黄褐色) 土器片を10%、径0.5~3cmの礫を3%含む。
 3号10YR4/3 (にぶい黄褐色) 土器片を5%、焼土を部分的に10%含む。
 4層7.5YR2/3 (無暗褐色) 土器片を10%、焼土を10%、炭化物を3%、SY7/3 (淡黄色) の粘土を3%含む。

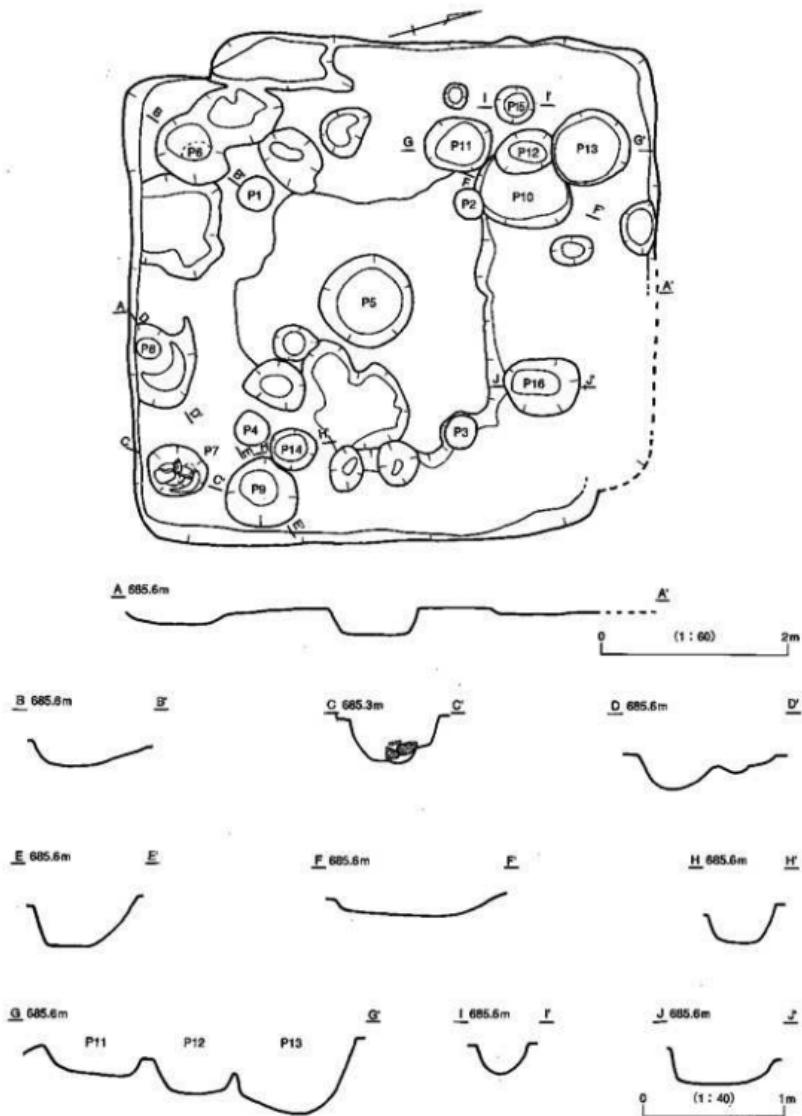


第24図 13号住居址実測図

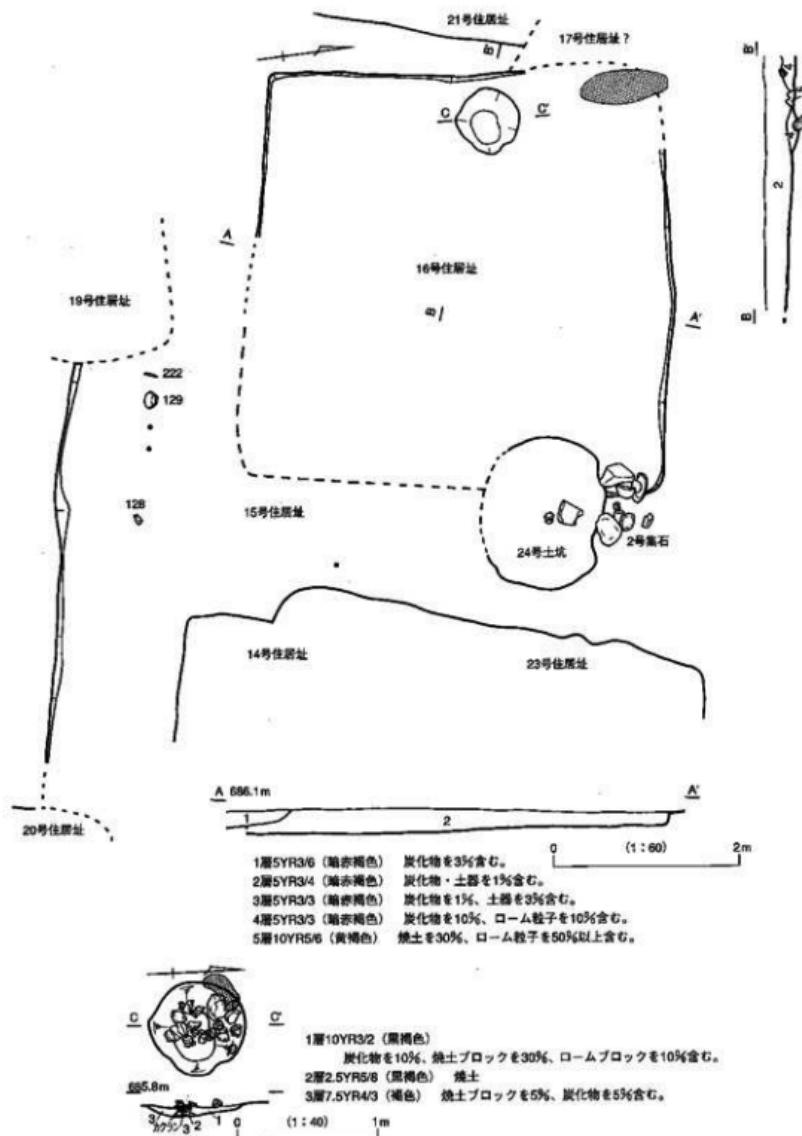


- 1層10YR4/2 (灰黄褐色) 焼土・炭化物を5%、土器を含む。
- 2層2.5YR5/2 (灰赤色) 焼土を5%未満、炭化物を含む。
- 3層10YR3/1 (黒褐色) 焼土・炭化物を5%、SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。
- 4層10YR4/1 (褐灰色) 焼土・炭化物を5%、SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。
- 5層10YR3/1 (黒褐色) 焼土・炭化物を5%、SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。
- 6層10YR3/1 (黒褐色) 焼土・炭化物を5%、SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。
- 7層10YR3/1 (黒褐色) 焼土・炭化物を5%、SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。
- 8層10YR3/1 (黒褐色) SY6/3(オリーブ黄色)を10%含む。
- 9層10YR4/2 (灰黄褐色) 焼土・SY6/3(オリーブ黄色)を5%含む。

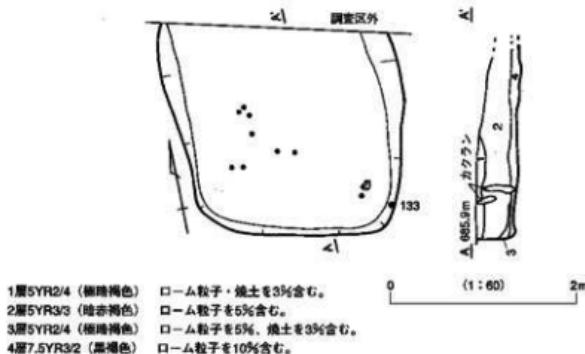
第25図 14号・23号住居址実測図



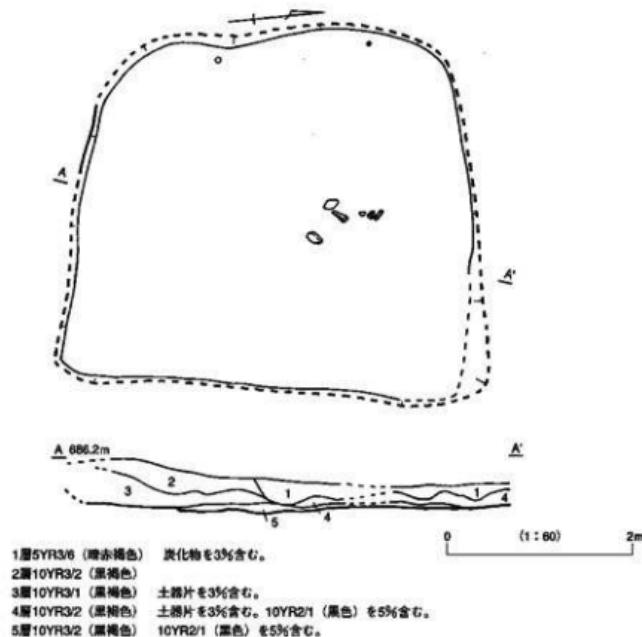
第26図 14号・23号住居址掘り方図



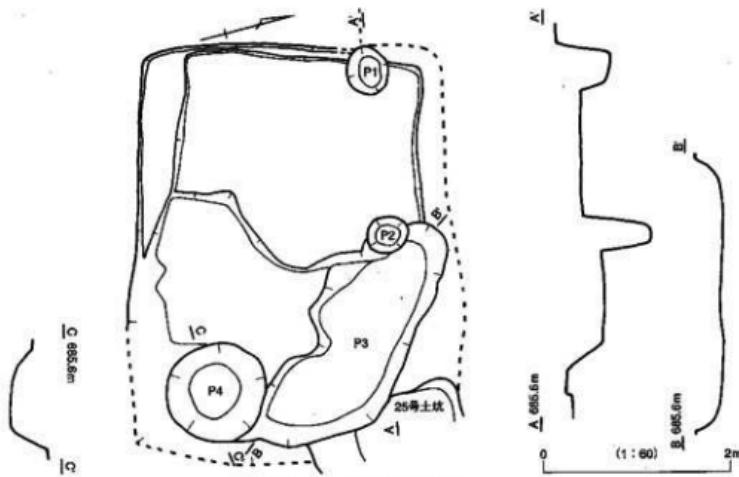
第27図 15号・16号・17号住居址実測図



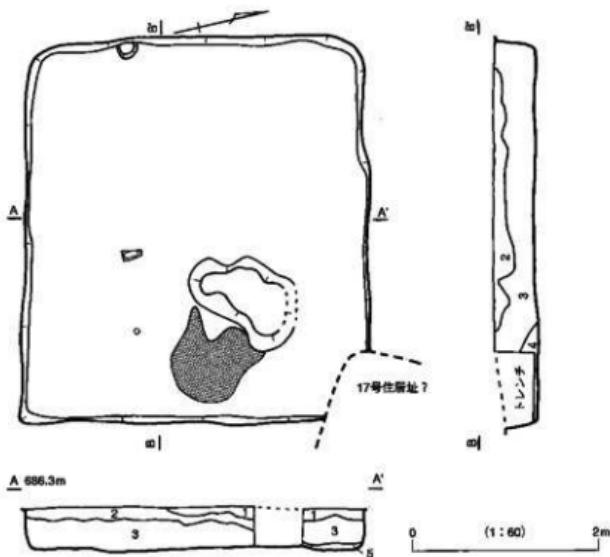
第28図 18号住居址実測図



第29図 19号住居址実測図



第30図 20号住居址実測図



第31図 21号住居址実測図

- 1層5YR3/6 (暗赤褐色) 炭化物を3%含む。
- 2層10YR3/3 (暗褐色) 10YR5/4 (にぶい黄褐色) のロームブロックを10%、焼土を1%含む。
- 3層5YR3/6 (暗赤褐色) 土被・炭化物を3%、ローム粒子を10%、7.5YR2/1 (黒色) を20%含む。
- 4層10YR4/3 (にぶい黄褐色) ローム粒子を10%、焼土を3%含む。
- 5層7.5YR3/3 (暗褐色) 7.5YR2/1 (黒色) を20%含む。

第2表 住居址一覧表

1号住居址

| | | | |
|-----|---|------|---------------------|
| 位 置 | F-11グリッド | 重複関係 | 21・22号土坑に切られる。 |
| プラン | 方形 | 規 模 | 5.3×5.4m |
| 壁残高 | 17~30cm | 床の状況 | 全般的に床は堅固に叩き締められている。 |
| ピット | P1~P3は柱穴と考えられる。 | | |
| カマド | 石芯粘土カマドで、西壁中央に付設される。両袖に開まれた前方部に火焼面があり、その奥に脚石が残る。周囲にカマドを構成していたと考えられる石材が散らばる(第13図)。 | | |
| 遺 物 | 土器類は土器器のみで、手握ね(39)、壺(40)、甕(41~42)、壺(43~45)がみられ、出土量は少ない。また、カマドの前方より管玉(201)が出土している。 | | |
| 時 期 | 古墳時代後期(5世紀末~6世紀前葉)と考える。 | | |
| 備 考 | | | |

2号住居址

| | | | |
|-----|---|------|--------------|
| 位 置 | F-11グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 不明(不成形) | 規 模 | 4.4×(2.5)m |
| 壁残高 | 29~35cm | 床の状況 | 部分的に堅固な床が残る。 |
| ピット | 焼土を多量に含む、不成形な土坑状の落ち込みが認められる。 | | |
| カマド | 遺構の東部に張り出しが形で、焼土と炭化物を多量に含むカマドの浅駆らしき跡跡を確認。 | | |
| 遺 物 | 土師器片が少量、覆土・床底より出土している。 | | |
| 時 期 | 古墳時代後期。 | | |
| 備 考 | 本址の北側は、調査区境界にかかり、遺構のおよそ50%は未調査。 | | |

3号住居址

| | | | |
|-----|---|------|------------|
| 位 置 | F-10グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 圓丸方形 | 規 模 | 2.8×2.5m |
| 壁残高 | 35~40cm | 床の状況 | 全般的に堅固である。 |
| ピット | 土坑状の浅いピット(P1)が1ヵ所みられる。 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 出土量は少なく、床底より土師器の环(46)がみられる。 | | |
| 時 期 | 古墳時代後期(7世紀前葉?)と考える。 | | |
| 備 考 | 遺構のはとんどが攤乱され、床の範囲及び僅かな壁の立上がりでプランと規模を確認。 | | |

4号住居址

| | | | |
|-----|---|------|-------------------|
| 位 置 | E-4, F-3・4グリッド | 重複関係 | 5号住居址に切られる。 |
| プラン | 方形 | 規 模 | 7.9×8.0m |
| 壁残高 | 35~40cm | 床の状況 | 全般的に軟弱で覆土との境が不明確。 |
| ピット | P3・P4は柱穴では、遺物を多量に包含する土坑状のピット(P1)がみられる。 | | |
| カマド | 西壁ほぼ中央に付設される。砾石及び鏡状の柱形土製品で構成し、粘土で覆われた形跡はなく、通道も未確認。火焼面の下部に土坑状の落ち込みがあり、焼土・灰を含む。 | | |
| 遺 物 | 主にカマド内、その周辺と東南コーナーの床底上、P1上部・内部より出土し、その量も多い。須恵器は环身(47)、土師器は环(48~53)、高环(54)、鉢(55~57)、広口壺(58)、甕(59~60~62)、壺(61~63~64)。他に白玉(203)、土鏡(185~191)、刀子(183~184)、枕形土製品(183~184)、羽口(194~195)、刀子(209~212)、鏡(229)、紺錦車(197)等。 | | |
| 時 期 | 古墳時代後期(6世紀中葉~後葉)と考える。 | | |
| 備 考 | 覆土及び床底上より灰津が小十数点と、灰津付着の羽口が出土しており、鍛冶工房住居としての可能性を示唆する。 | | |

5号住居址

| | | | |
|-----|--|------|---------------------------|
| 位 置 | E-4・5, F-4・5グリッド | 重複関係 | 4号住居址を切り、7号住居址に切られる? |
| プラン | 方形 | 規 模 | 7.9×7.4m |
| 壁残高 | 40~66cm | 床の状況 | 部分的に貼床が残るが、全般的に覆土との境が不明確。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 西壁中央やや北により、カマドの残骸と思われる火焼面を確認。 | | |
| 遺 物 | 覆土からの出土品で、床下の割り方からも多量に出土。須恵器は高台付环(65~66)、环(67~70)、土師器は环(71~75)、高环(81)、甕(77~78)、壺(80)。灰陶陶器は小瓶(79)の他、取手付底瓶がみられる。他に白玉(203)、土鏡(185~191)、刀子(213~215)、麻皮刺器(230)、鉢(231)、漆(234~235)、铁鍔車(236)、紺錦車(240)、釘(241)、灰津等が出土。 | | |
| 時 期 | 平安時代前期(9世紀中葉)と考える。 | | |
| 備 考 | 本時期としては大型の住居址であり、他に類例が少なく、遺物の時間幅を感じられることから、数軒の重複も考えられる。また床下に、2号壁穴式が含まれる。 | | |

7号住居址

| | | | |
|-----|---|------|-----------------------|
| 位 置 | E-5、F-5グリッド | 重複関係 | 5号住居址を切る？ |
| プラン | 隅丸方形 | 規 模 | 3.2×3.3m |
| 壁残高 | 15~52cm | 床の状況 | 全体的に軟弱で、部分的に貼床の痕跡を残す。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 石芯粘土カマドで、西壁中央に位置する。左袖と火焼面を残すが、擾乱による破壊が著しい。 | | |
| 遺 物 | 出土量は多くないが、比較的形状の良いな物は床直上から出土している。須恵器は壺(82~85)、灰釉陶器は長頸壺(86)、土師器は甕(87)が、他に刀子(216~217)、板状鉄器(233)、角釘(242)が出土。 | | |
| 時 期 | 平安時代前期(9世紀前半)と考える。 | | |
| 備 考 | 調査時に於ける5号住居址との新旧関係が不明確なため、帰属時期に疑問点が残る。 | | |

8号住居址

| | | | |
|-----|--------------------------------|------|--------------|
| 位 置 | F-3グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 隅丸方形? | 規 模 | (3.6)×(1.0)m |
| 壁残高 | 25~30cm | 床の状況 | 軟弱で貼床の形跡はない。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 出土量は極少量で、固化不可能な土師器の甕等が出土。 | | |
| 時 期 | 平安時代 | | |
| 備 考 | 本址の西側は調査区外のため未調査。また北側は擾乱により不明。 | | |

9号住居址

| | | | |
|-----|---|------|---------------|
| 位 置 | F-3・4グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 方形? | 規 模 | 4.7×(2.8)m |
| 壁残高 | 50~68cm | 床の状況 | 堅固であるが貼床は未確認。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 石芯粘土カマドで東壁のほぼ中央に位置するが、調査区外との境からの検出で、左袖と煙道の張り出しの一部を確認するのみ。 | | |
| 遺 物 | カマド周辺の床直上に出土が集中。出土量は少ない。土師器は壺(88)、甕(89~90)、灰釉陶器は長頸壺(91)がみられる。 | | |
| 時 期 | 平安時代前期(9世紀中葉)と考える。 | | |
| 備 考 | 本址の南側およそ50%が調査区外。検出した範囲の50%が擾乱される。 | | |

12号住居址

| | | | |
|-----|--|------|---------------------------|
| 位 置 | D-4・5、E-4・5グリッド | 重複関係 | 本址の北側は、他造構と重複の可能性あり(未確認)。 |
| プラン | 隅丸方形? | 規 模 | 5.0×5.4m |
| 壁残高 | 25~31cm | 床の状況 | 中央部は貼床による堅固な床を有するが、周囲は軟弱。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 西壁のほぼ中央に位置する石芯粘土カマド。両袖は残存状態が悪く、右袖は不明確。火焼面はあまり火熱をうけた痕跡はないが、支脚石が抜けたと考えられる小穴が確認できた。 | | |
| 遺 物 | カマドの周辺を中心に、覆土及び床直上から比較的多量に出土。土師器は壺(92)、小口甕(93~94)、壺(95)、須恵器の甕。他に石製筋輪車(199)、十翼丸玉(193)、角釘(243~244)、鐵滓等が出土。 | | |
| 時 期 | 古墳時代中期(5世紀後半)と考える。 | | |
| 備 考 | カマドの前方に転石が集中して出土するが、内容は不明。 | | |

13号住居址

| | | | |
|-----|---|------|----------------------|
| 位 置 | E-5グリッド | 重複関係 | 5号住居址に切られる。 |
| プラン | 隅丸方形 | 規 模 | 4.5×4.5m |
| 壁残高 | 40~45cm | 床の状況 | カマド前方部に貼床施すが、全体的に軟弱。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 西壁のほぼ中央に位置する石芯粘土カマド。石材が抜き取られ、裸の盛り土のみ残存し、烟道が外に突き出る。火焼面は著しく焼け込み、割り方より支撑石の抜けた小穴を確認。 | | |
| 遺 物 | 覆土からの出土量が主であるが、カマド内・カマドの左側に集中し、床直上ではほぼ全域から出土を確認。須恵器は壺(96)、高台付壺(97~98)、壺(99~101)が、土師器は小口甕(103)、壺(102~104~107~109)、長削甕(108)で、ロクロ形成と輪縁形成の両者が出土。他に土瓶(192)、刀子(219)、鐵滓等がみられる。 | | |
| 時 期 | 奈良時代末~平安時代前期(8世紀末~9世紀前半)と考える。 | | |
| 備 考 | 床直上ないし覆土中に、火焼状況の痕跡のある転石が散乱する。 | | |

14号住居址

| | | | |
|-----|--|------|-------------------------|
| 位 置 | E-6グリッド | 重複関係 | 15・23号住居址に切られる。 |
| プラン | 隅丸方形 | 規 模 | 5.0×4.9m |
| 壁残高 | 5~15cm | 床の状況 | 中央部に地山を叩き締めた堅固な床。周囲は軟弱。 |
| ピット | P1~P4は柱穴と思われる。床下掘り方より大小14基の土坑状の落ち込みを確認。 | | |
| カマド | 不明確（西壁下の火燒面は23号住居址に伴うものと思われる）。 | | |
| 遺 物 | 覆土からの出土量が豊富であるが、23号住居址の遺物と混在する。床下からの遺物が主に固形化。土器器は壺(110~115)、高杯(116~117)、小型壺(118)、甕(119~126~127)、広口甕(120~121)、甕(122~125)。他に管玉(202)、白玉(204~208)、土製筋鉢車(196~197)、刀子(220~221)がみられる。 | | |
| 時 期 | 古墳時代中期（5世紀中葉～後葉）と考える。 | | |
| 備 考 | 調査当初は1軒としていたが、掘り方を観察して23号住居址との重複状況が確認できた。床下のピットは本址との重複が想定できるが、遺物に差が感じられないため本址に含めた。 | | |

15号住居址

| | | | |
|-----|---|------|---------------------------|
| 位 置 | E-6グリッド | 重複関係 | 14号住居址を切る？19~20号住居址に切られる？ |
| プラン | 不明確 | 規 模 | (4.2)×--- |
| 壁残高 | 25~31cm | 床の状況 | 軟弱で14号住居址との差が不明確である。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 出土量は少ない。須恵器は壺(128~129)、土器器は甕の小破片のみ。他に大型の刀子(222)がみられるが、短刀の可能性あり。 | | |
| 時 期 | 奈良時代（8世紀中葉？）と考える。 | | |
| 備 考 | 他の遺構との重複関係が不明確で、全体像をつかめなかった。 | | |

16号住居址

| | | | |
|-----|--|------|--------------------|
| 位 置 | E-6グリッド | 重複関係 | 2号集石、20号土坑に切られる？ |
| プラン | 方形 | 規 模 | 4.5×4.4m |
| 壁残高 | 25~30cm | 床の状況 | 全体的に堅固で、部分的に貼床を施す。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 西壁下中央に転石（火熱を受けた）を伴う、部分的に火焼面を残す浅い落ち込みを確認。カマドの残骸か？ | | |
| 遺 物 | 土器類の出土量は他址と比較しても少ない。甕を主とする小破片のみ確認。他に刀子(224)、鐵鐵(237)、鐵矛が出土。 | | |
| 時 期 | 不明 | | |
| 備 考 | 北西コーナーに焼土マウンドを確認。 | | |

17号住居址

| | | | |
|-----|---|------|----------------------|
| 位 置 | E-6グリッド | 重複関係 | 16・21号住居址に切られる。 |
| プラン | 不明 | 規 模 | 不明 |
| 壁残高 | 不明 | 床の状況 | 床と思われる硬化面が僅かに残存していた。 |
| ピット | 不明 | | |
| カマド | 不明 | | |
| 遺 物 | 出土量は少ない。器形を判別できるものは、土器器の壺(139)1点のみであった。 | | |
| 時 期 | 古墳時代中期と考える。 | | |
| 備 考 | 2種の住居址に切られ、搅乱も著しく、住居址としての痕跡は僅かであり、同時期の遺物を含む別の遺構の可能性もある。 | | |

18号住居址

| | | | |
|-----|--------------------------------------|------|-----------------|
| 位 置 | E-7グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 隅丸長方形？ | 規 模 | 2.5×(2.2)m |
| 壁残高 | 35~40cm | 床の状況 | 堅固で、地山を叩き締めている。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 出土量は少ない。土器器の高杯(131)、甕(132~133)がみられる。 | | |
| 時 期 | 古墳時代中期と考える。 | | |
| 備 考 | 本址の北側は調査区境にかかり、全体の規模・形状は不明。 | | |

19号住居址

| | | | |
|-----|---|------|--------------------|
| 位 置 | E-6グリッド | 重複関係 | 15号住居址を切る。 |
| プラン | 隅丸方形? | 規 模 | (4.6) × (3.9)m |
| 壁残高 | 30~50cm | 床の状況 | 全体的に堅固で、部分的に貼床を施す。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 土器類の出土量は少ない。刀子 (223)、角釘 (245~246)、櫛? (247) の他、他址より鉄滓の出土量が目立つ。 | | |
| 時 期 | 不明 (平安時代か?) | | |
| 備 考 | 上面でのプラン確認はほとんど不可能で、床の範囲でプラン・規模を確認した。 | | |

20号住居址

| | | | |
|-----|--|------|------------------|
| 位 置 | E-7グリッド | 重複関係 | 15号住居址と25号土坑を切る。 |
| プラン | 長方形? | 規 模 | (4.4) × (3.2)m |
| 壁残高 | 20~32cm | 床の状況 | やや軟弱で地山を叩き沈めている。 |
| ピット | P1・2は本址と無関係か? P4・5は床下。 | | |
| カマド | 未確認 | | |
| 遺 物 | 出土量は少なく、床下からが主である。土師器の壺 (134・135)、蓋 (136~138) を確認。 | | |
| 時 期 | 古墳時代中期? | | |
| 備 考 | ピット (P1・2) は掘立建物址の可能性あり。床面に、方形で住居址状の落ち込みがみられたが、重複する別の住居址としての確認はできなかった。 | | |

21号住居址

| | | | |
|-----|--|------|----------------------|
| 位 置 | E-5・6グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 方形 | 規 模 | 4.1 × 3.7m |
| 壁残高 | 45~48cm | 床の状況 | 全体的に堅固で貼床が施され、床下は軟弱。 |
| ピット | 未確認 | | |
| カマド | 東壁下中央に火焼状況を示す痕跡が確認できるが、カマドの残骸によるものかは不明。 | | |
| 遺 物 | 出土量は少ない。須恵器は壺 (139) が、土師器は壺と思われる小破片のみを確認。他に刀子 (225)、鉄滓がみられる。 | | |
| 時 期 | 不明 | | |
| 備 考 | 焼土を含むマウンドが、火焼面の西に隣接して床直上に確認したが、性格等は不明。 | | |

23号住居址

| | | | |
|-----|---|------|-------------------|
| 位 置 | E-6-7グリッド | 重複関係 | 14号住居址を切る。 |
| プラン | 隅丸方形 | 規 模 | (4.8) × 4.7m |
| 壁残高 | 5~15cm | 床の状況 | 14号住居址との差が不明確である。 |
| ピット | 未確認 (14号住居址との差が不明確である)。 | | |
| カマド | 西壁下中央に火焼面を確認。残骸と思われる。 | | |
| 遺 物 | 覆土からの出土量が豊富であるが、14号住居址の遺物と混在し、明らかに特徴の違うものを本址の遺物と捕らえた。須恵器は壺壺 (140)、高台付壺 (141)、土師器は小型壺 (142)、長胴壺 (143~145)。 | | |
| 時 期 | 奈良時代 (8世紀前葉~中葉) と考える。 | | |
| 備 考 | | | |

第4節 竪穴址

竪穴住居址と判断する条件に乏しく、土坑よりも大型のプラン形状の竪穴を竪穴址として区分した。本調査範囲から2基の竪穴址を検出したが、詳細についてはそれぞれ別表にて記述した。

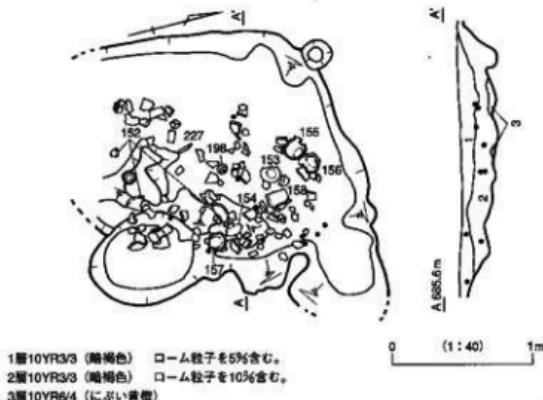
第3表 竪穴址一覧表

1号竪穴址

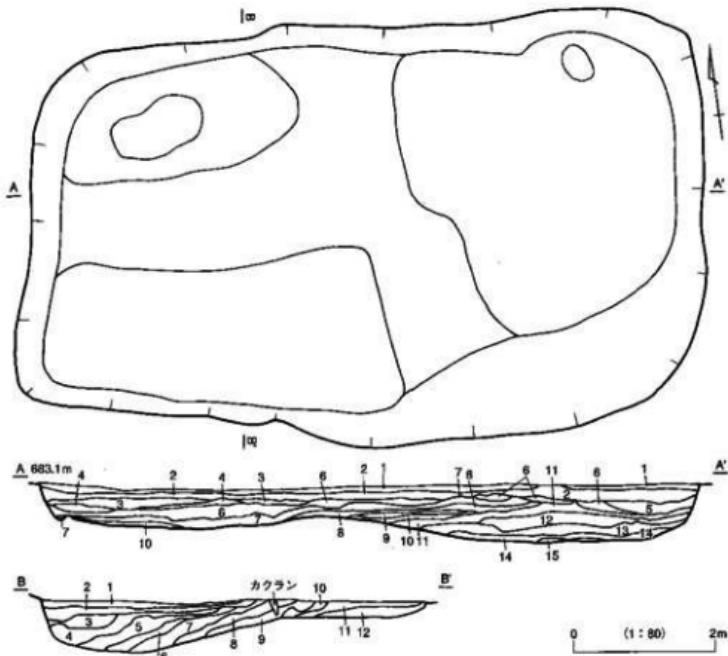
| | | | |
|-----|---|------|--------------------|
| 位 置 | K-15-16グリッド | 重複関係 | なし |
| プラン | 長方形 | 規模 | 9.4×5.9m |
| 壁残高 | 25~80cm | 床の状況 | 全体的に軟弱で、南東方向に傾斜する。 |
| ピット | なし | | |
| 遺 物 | 主に古墳時代後期の土器部の壺(146~148)、釜(149)、蓋(151)の他、奈良時代の長胴壺(150)や、網文及び芯生後期土器片も混在して出土する。また底面より、炭化物のブロックとともに発見の小破片が数点出土している。 | | |
| 時 期 | 近・現代? | | |
| 備 考 | 性格等は不明。 | | |

2号竪穴址

| | | | |
|-----|---|------|------------------|
| 位 置 | E-4グリッド | 重複関係 | 5号住居址の床下より検出。 |
| プラン | 不整円形 | 規模 | 1.8×(2.0)m |
| 壁残高 | 5号住居址床面より20cm | 床の状況 | 全体的に軟弱で、凹凸がみられる。 |
| ピット | なし | | |
| 遺 物 | 覆土中及び底面直上より出土し、その量も多い。須恵器は蓋(162)1点のみで、土師器は壺(153)、高壺(154)、甕(155~157)、長胴甕(158)がみられる。他に刀子(221)、鉄鎌(238)がみられる。 | | |
| 時 期 | 奈良時代(8世紀中葉)と考える。 | | |
| 備 考 | 性格等は不明。 | | |



第32図 2号竪穴址実測図



- 1層7.5YR4/2 (灰褐色) 田の数 酸化鉄を10%含む。
 2層10YR5/6 (黄褐色) ローム粒子を30%、酸化鉄を10%含む。
 3層10YR6/3 (にぶい黄褐色) 径2~5mmの礫を50%含む。
 4層10YR3/2 (黒褐色) ローム粒子を5%、径5~10cmの礫を5%含む。
 5層10YR5/6 (黄褐色) ローム粒子を50%、径2~10cmの礫を20%含む。
 6層10YR4/2 (灰黄褐色) ローム粒子を10%、径2~5cmの礫を10%含む。
 7層10YR5/6 (黄褐色) 径5cmの礫を10%含む。
 8層10YR4/6 (褐色) ローム粒子を30%、径2~5cmの礫を5%含む。
 9層10YR7/6 (明黄褐色) ローム粒子を50%、無砂を50%以上含む。
 10層10YR5/6 (黄褐色) ローム粒子を40%、径5~10cmの礫を20%含む。
 11層10YR4/3 (にぶい黄褐色) 径5~10cmの礫を20%含む。
 12層10YR5/6 (黄褐色) 10YR4/4 (褐色) を30%、径5~10cmの礫を30%含む。
 13層10YR4/4 (褐色) 10YR5/6 (黄褐色) を30%、径5~10cmの礫を5%含む。
 14層10YR3/2 (黒褐色) 径5~10cmの礫を5%含む。
 15層10YR4/3 (にぶい黄褐色) 径5~10cmの礫を30%含む。

第33図 1号竖穴址実測図

第5節 集石炉・集石

集石炉は、直形90cmの円形プランで深さ35cmを測る掘り鉢状を呈する竪穴に、検出面である上部より何れも火熱をうけ赤褐色をおびた、147個を数える拳大の砂岩及び泥岩の円礫を主体に構成される。層位が変わる中面には、28個を数える拳大から人頭大の平坦な礫が敷か

れていたが、上部の礫ほど火熱は受けていなかった。炭化物は多くみられるものの、1点のみ出土した土器片では時期を特定することはできなかった。集石は、特に多くの礫を伴うものを土坑と類別した。

第6節 土 坑

堅穴住居址等の付属施設と考えられるものを除く、円形ないし椭円形を呈するプラン形状の小穴26基を土坑と捉えた。遺物を伴う土坑の多くは、覆土中からのものでその量も少なく、必ずしも各遺構の時期を特定することは難しい。

縄文時代の土坑としては、3・5・12・14号の4基を確認し、前者の3基が前期末で14号は中期中葉の特徴を示す土器片を伴出する。比較的に円形ないし椭円形の整ったプラン形状を呈し、底面もほぼ平らで垂直ぎみに掘り込まれる。特に3号土坑より出土した159の土器は、器形、文様、薄手の器厚及び胎土の諸特徴から、北白川下層式と思われる。7号は弥生時代中期初頭、2・6・10号は弥生時代後期、1・19・25号は古墳時代後期、26・24号は奈良時代、20号は平安時代の各特徴を示す土器等を伴出する。

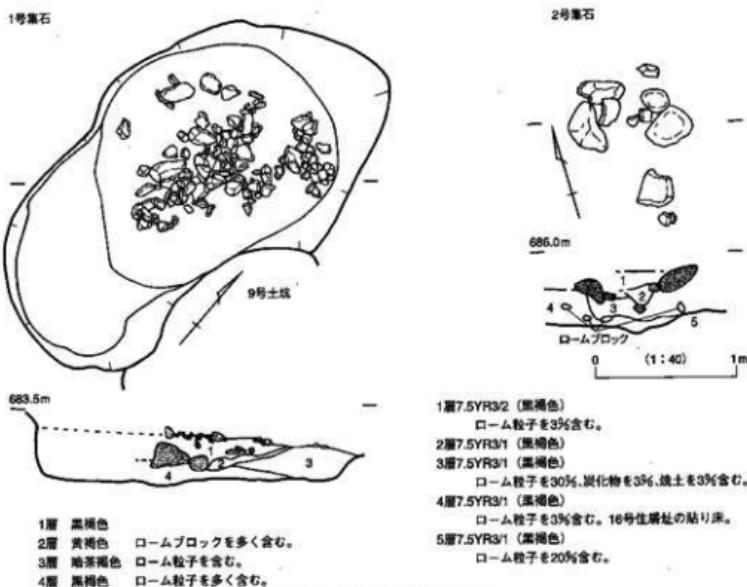
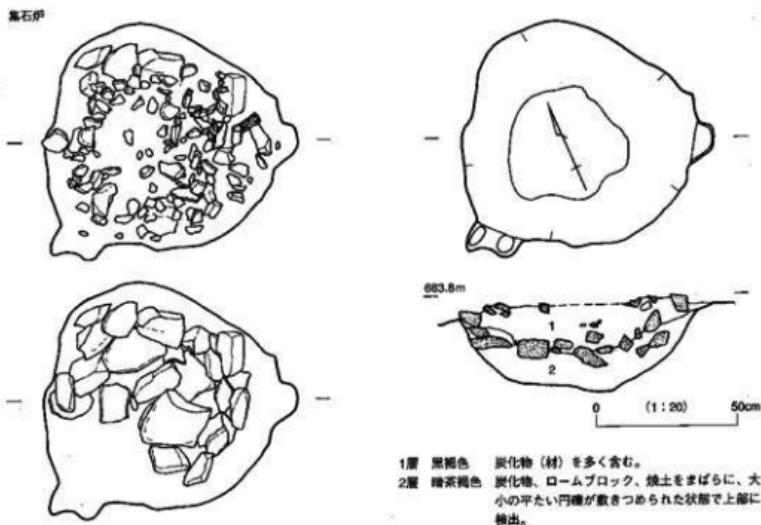
尚、特出すべき土坑としては、動物遺体を伴う11号土坑があげられる。遺体は既に白骨化した馬の下顎骨部と思われ、前方に6本からなる前臼歯と左右6本からなる後臼歯、後臼歯を連結する顎骨の一部と後臼歯の更に後方に下顎頭の一部と思われる骨片が確認できた。また上顎骨を含む胴体部等はまったく出土していない。歯は硬質で残存状態がよいが、顎骨は検出段階より破損が著しく劣化が進んでいた。遺構は、馬の墓坑として考えられようが、下顎骨のみの出土だけではそれ以上の追究は困難であり、1号古墳との関連性も確証できない。また時期を特定するような遺物の出土もみられない。

第7節 遺構外出土遺物

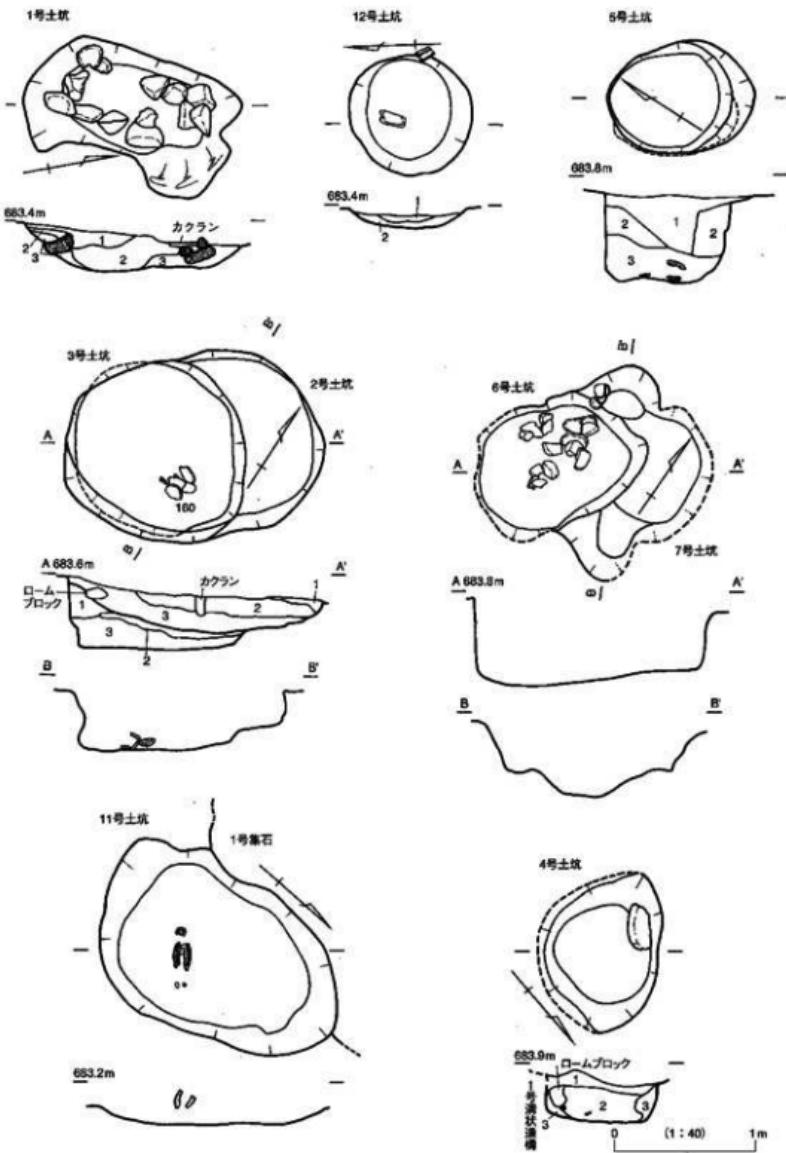
各調査区において、主に遺構上面確認作業中に出土した、各遺構に伴わない遺物を総括して紹介する。

縄文時代の遺物としては、土器が縄文時代前期末の特徴を示す羽条縄文を施すものや、中期初頭と思われる平行沈線文土器がみられ、石器は石錐等黒曜石による薄片石器、打製石斧等が出土している。弥生時代は、中期初頭の条痕文を施す壺及び甕(167・168)、中期後半の外面赤色塗彩を施す小型壺(169)、後期は横描波条文及び単線文を施す壺(170・175)や甕(176~181)等がみられる。古墳時代は、前期と思われる高坏もしくは坏の小破片が数点みられ、中期の高坏(182)も出土している。

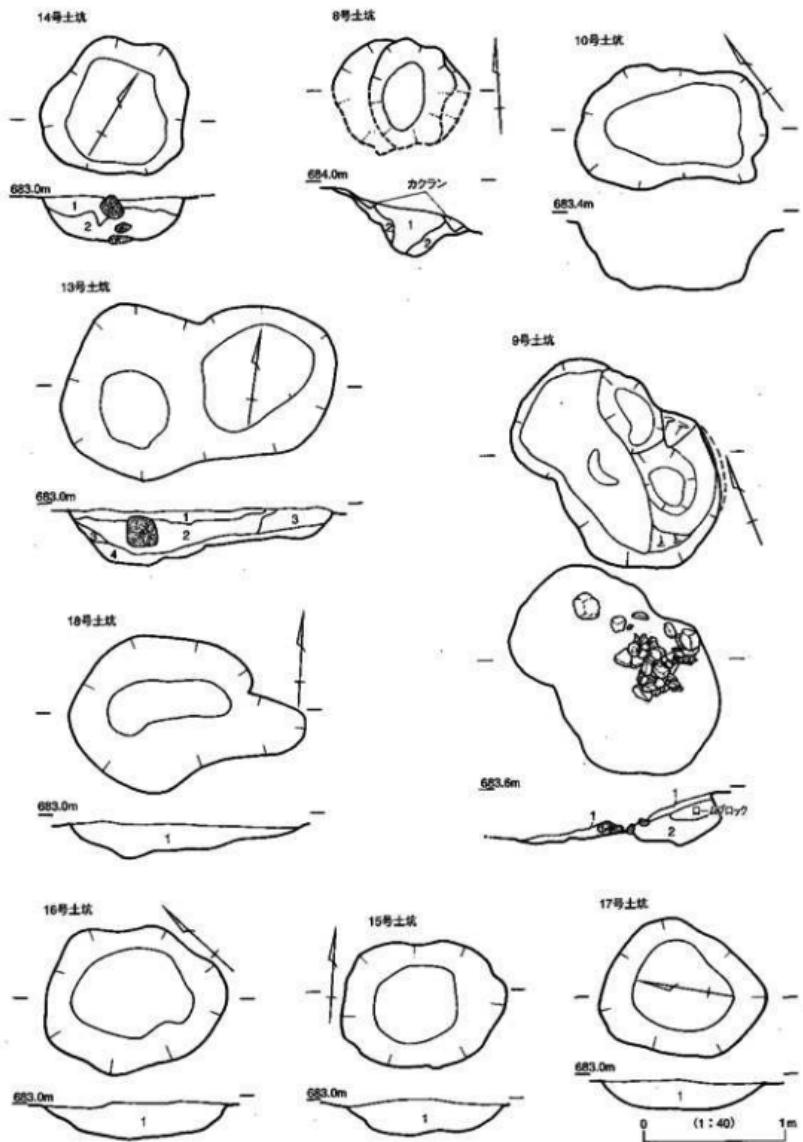
その他、鉄軸の碗及びすり鉢等の中世後半の所産と思われる陶器や、近世から近代にかけての鉢・染付の皿が僅かに出土している。



第34図 集石炉・集石実測図

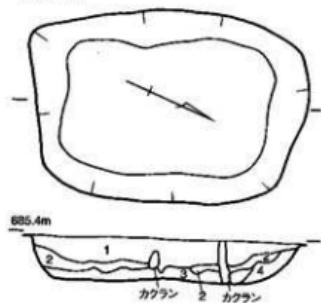


第35図 土坑実測図1

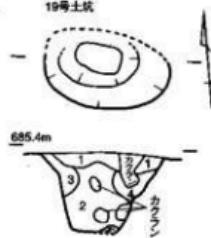


第36図 土坑実測図2

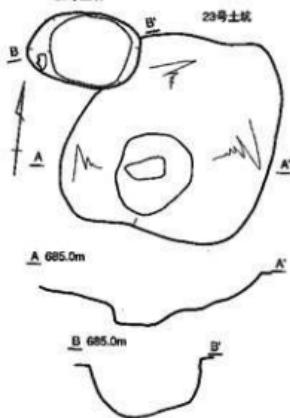
20号土坑



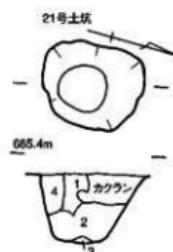
19号土坑



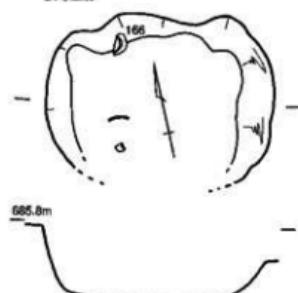
26号土坑



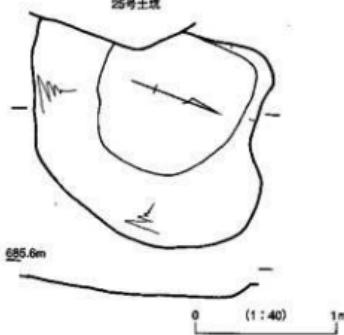
23号土坑



24号土坑



25号土坑

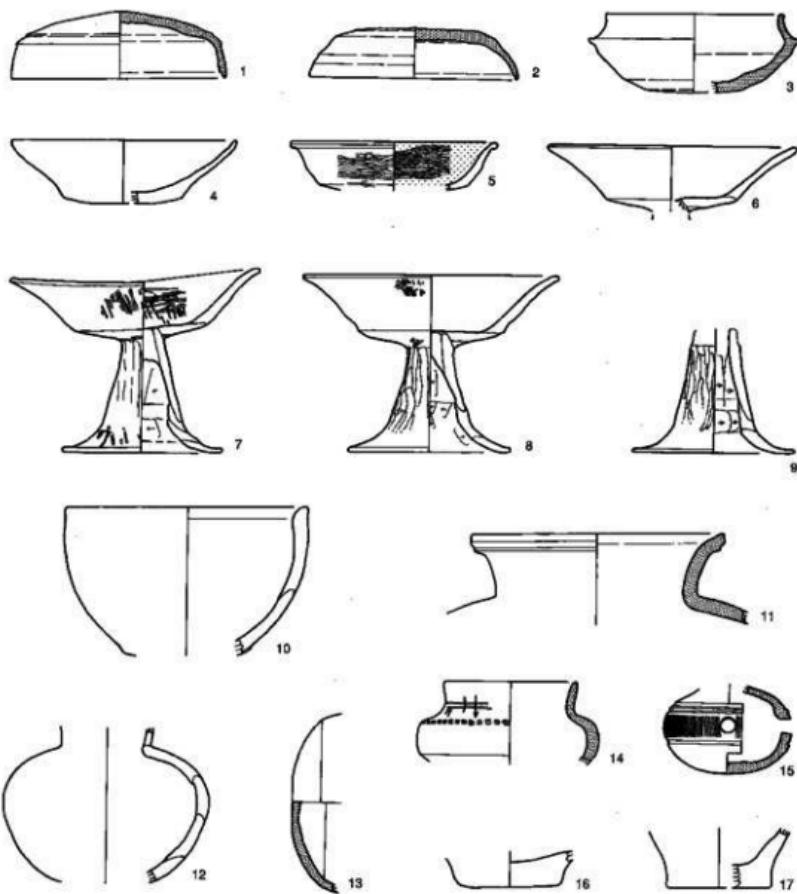


第37図 土坑実測図3

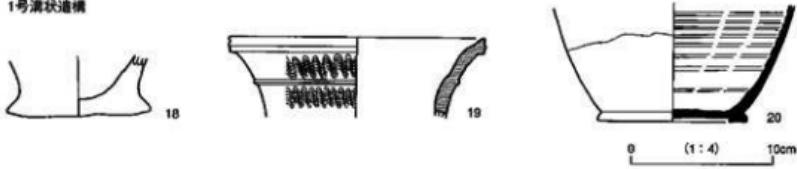
第4表 土坑一覧表

| NO | 規模(cm) 長 煙 濱 | 平面形 | 断面形 | 覆 土 | 粘性 繊り | | 備 考 |
|---------------|-----------------|-----|-----|--|------------------|------------------|---------------------|
| | | | | | 中 | 弱 | |
| 1 150 69 36 | 不整形 | 半円形 | | 1層茶褐色 2層茶褐色 ローム粒子混じり 3層暗茶褐色 | 中 中 弱 | 中 中 強 | |
| 2 182 125 26 | 円 形 | 半円形 | | 1層土 2層黒褐色 3層茶褐色 | 中 中 中 | 弱 中 中 | 土坑3と重複 |
| 3 127 127 45 | 円 形 | 台 形 | | 1層黄褐色 2層黄褐色 細砂混じり 3層暗茶褐色 | 中 中 中 | 中 中 強 | 土坑2と重複 遺物159-160 |
| 4 117 86 34 | 椭円形 | 台 形 | | 1層暗茶褐色 2層暗茶褐色 炭化物をわずかに含む 3層黄褐色 ローム粒子を多く含む | 強 強 強 | 中 中 中 | |
| 5 105 75 63 | 椭円形 | 台 形 | | 1層暗茶褐色 2層茶褐色 ローム混じり 3層茶褐色 硫混じり | 中 中 中 | 中 弱 弱 | 遺物161-162 |
| 6 114 92 47 | 椭円形 | 台 形 | | | | | 土坑7と重複 |
| 7 156 - 61 | 不整形 | 台 形 | | | | | 土坑6と重複 |
| 8 96 - 33 | 椭円形 | 半円形 | | 1層茶褐色 2層暗茶褐色 | 中 中 | 中 中 | |
| 9 161 90 32 | 椭円形 | 不整形 | | 1層茶褐色 2層暗茶褐色 ローム混じり | 中 中 | 中 中 | |
| 10 135 72 33 | 椭丸方形 | 椭円形 | | | | | |
| 11 192 116 14 | 椭円形 | 半円形 | | | | | 馬頭骨出土 |
| 12 89 81 15 | 円 形 | 半円形 | | 1層暗茶褐色 地上 炭化物をまばらに含む 2層赤褐色 | 弱 弱 | 強 強 | |
| 13 195 95 36 | 不整形 | 台 形 | | 1層7.YR4/4(褐色) 径2~5cmの礫を3%含む 2層7.YR3/2(黒褐色) 径2~5cmの礫を5%含む 3層7.YR5/6(明褐色) 径2~5cmの礫を7%含む 4層7.YR5/5(明褐色) 径5~10cmの礫を50%含む | 中 中 中 中 | 強 強 強 強 | |
| 14 107 93 32 | 不整形 | 半円形 | | 1層7.YR3/4(暗褐色) 径5~10cmの礫を40%含む 2層10YR2/2(黒褐色) 径5~10cmの礫を含む | 中 中 | 強 中 | 遺物163 |
| 15 120 86 26 | 椭円形 | 半円形 | | 1層SYR4/6(赤褐色) 径3~15cmの礫を多く含む | 弱 | 中 | |
| 16 129 96 24 | 椭円形 | 半円形 | | 1層SYR5/8(明赤褐色) 径10cm以上の礫を40%, 碳化鉄を30%含む | 中 | 中 | |
| 17 117 90 20 | 椭円形 | 半円形 | | 1層5YR2/2(黒褐色) 径3cmの礫を多く含む | | | |
| 18 166 108 26 | 不整形 | 半円形 | | 1層7.YR5/5(明褐色) 径5~15cmの礫を20%, 碳化鉄を1%含む | 中 | 強 | |
| 19 90 54 80 | 椭円形 | 半円形 | | 1層10YR3/2(黒褐色) 2層10YR3/3(暗褐色) ローム粒子を5%含む 3層7.YR4/6(褐色) ローム粒子を30%含む 4層10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を10%含む | 強 中 中 強 | 中 弱 中 弱 | |
| 20 201 134 32 | 椭丸方形 | 長方形 | | 1層10YR4/3(にじい黄褐色) 粘土を2%、土壌を1%含む 2層10YR4/3(にじい黄褐色) 炭化物を10%, 土器を1%含む 3層10YR4/3(にじい黄褐色) 炭化物を50%以上粘土を3%含む 4層7.YR4/6(褐色) 燃土を5%含む | 強 強 中 中 | 中 弱 中 中 | |
| 21 74 59 33 | 不整形 | 台 形 | | 1層10YR2/2(黒褐色) 2層10YR3/3(暗褐色) 径1~3cmの礫を3%含む 3層10YR5/2(黒褐色) ローム粒子を10%含む 4層10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を5%含む | 中 強 強 中 | 中 強 強 中 | |
| 22 36 30 48 | 円 形 | 長方形 | | | | | |
| 23 141 138 38 | 椭丸方形 | 不整形 | | 1層2.5YR2/4(極暗赤褐色) 燃土を10%, 炭化物を3%、ローム粒子を5%含む | 中 | 中 | |
| 24 159 144 48 | 椭丸方形 | 台 形 | | 1層10YR2/3(黒褐色) ローム粒子を10%, 10YR2/1の黑色土をまばらに含む | 中 | 強 | 遺物166 |
| 25 207 158 11 | 不整形 | 不整形 | | | | | |
| 26 65 51 39 | 椭円形 | 椭円形 | | | | | 遺物164-165 |

1号古墳

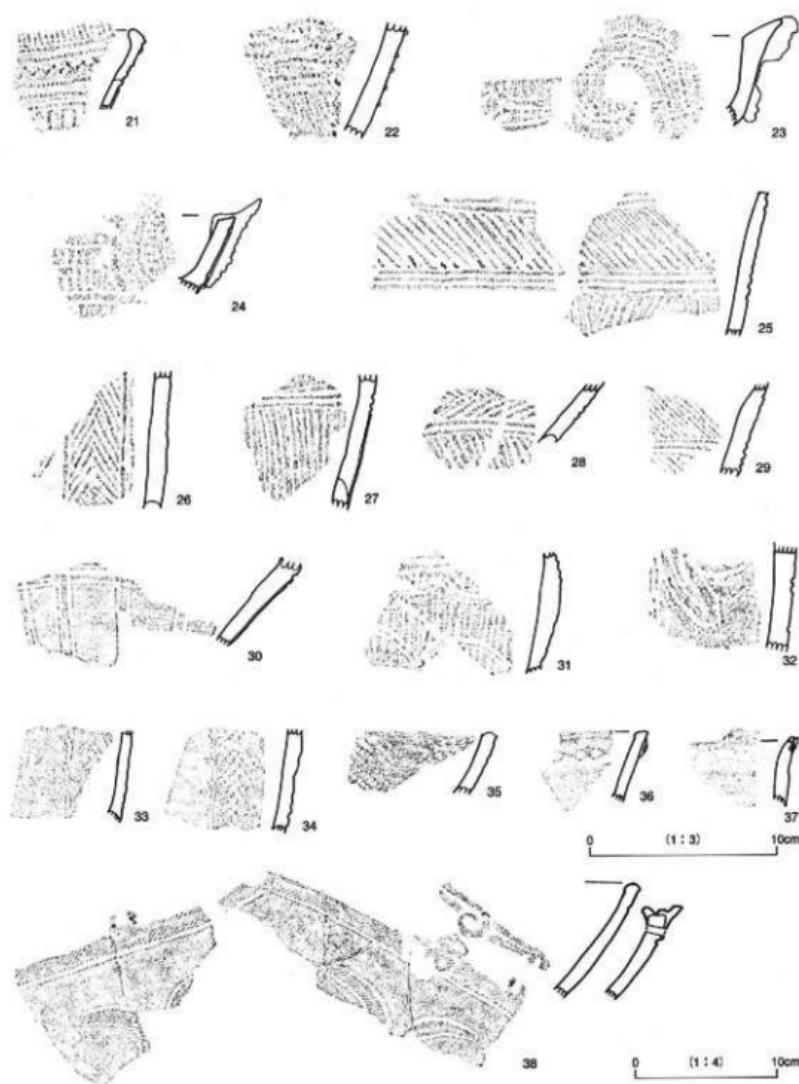


1号清状遺構



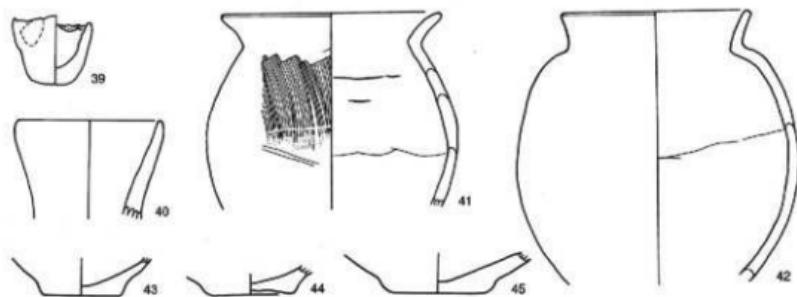
第36図 土器実測図1

2号溝状遺構

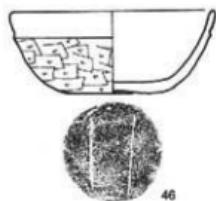


第39図 土器拓影図

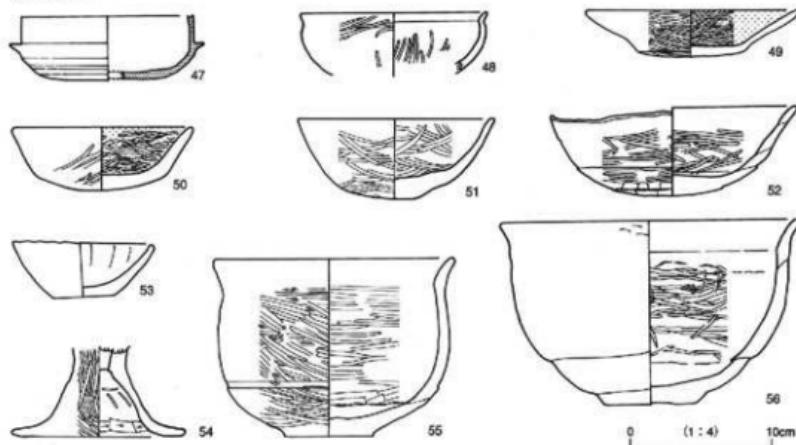
第1号住居址



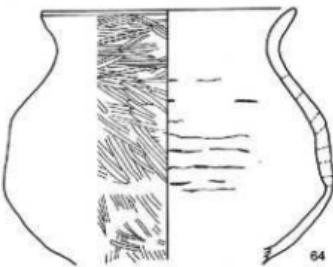
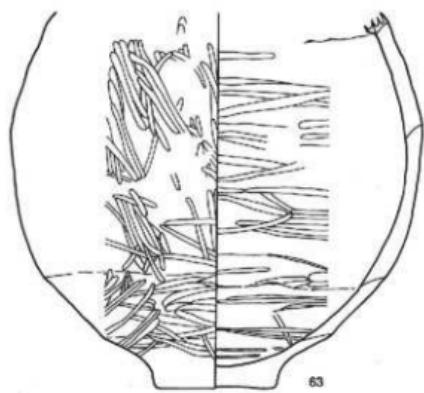
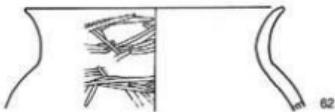
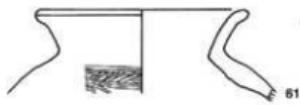
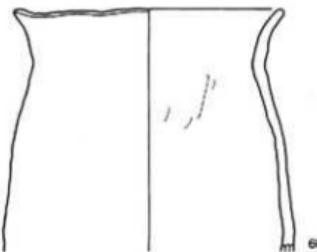
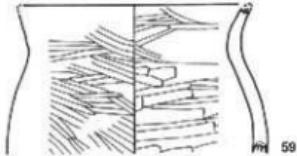
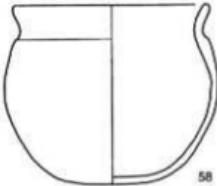
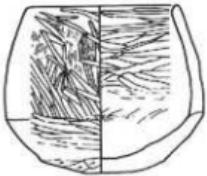
第3号住居址



第4号住居址



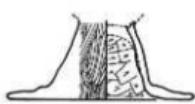
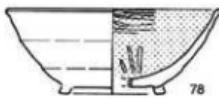
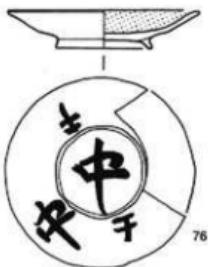
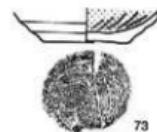
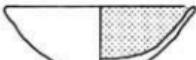
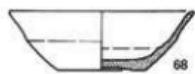
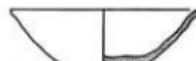
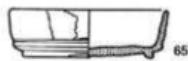
第40図 土器実測図2



0 (1 : 4) 10cm

第41図 土器実測図3

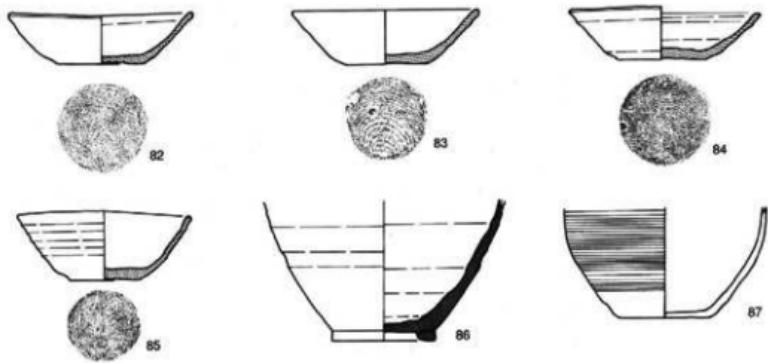
第5号住居址



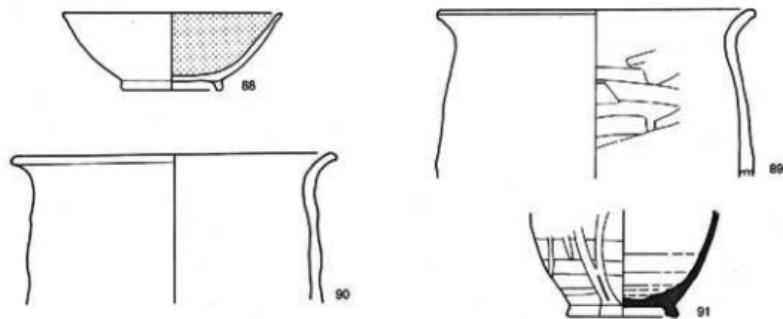
0 (1 : 4) 10cm

第42図 土器実測図4

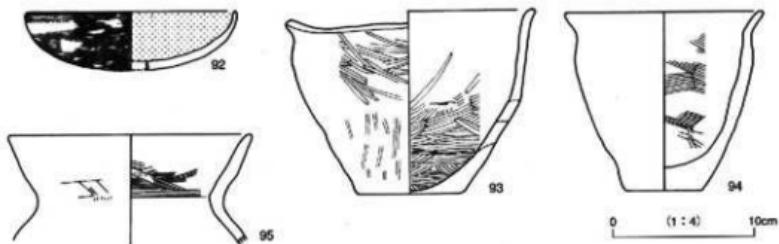
第7号住居址



第9号住居址



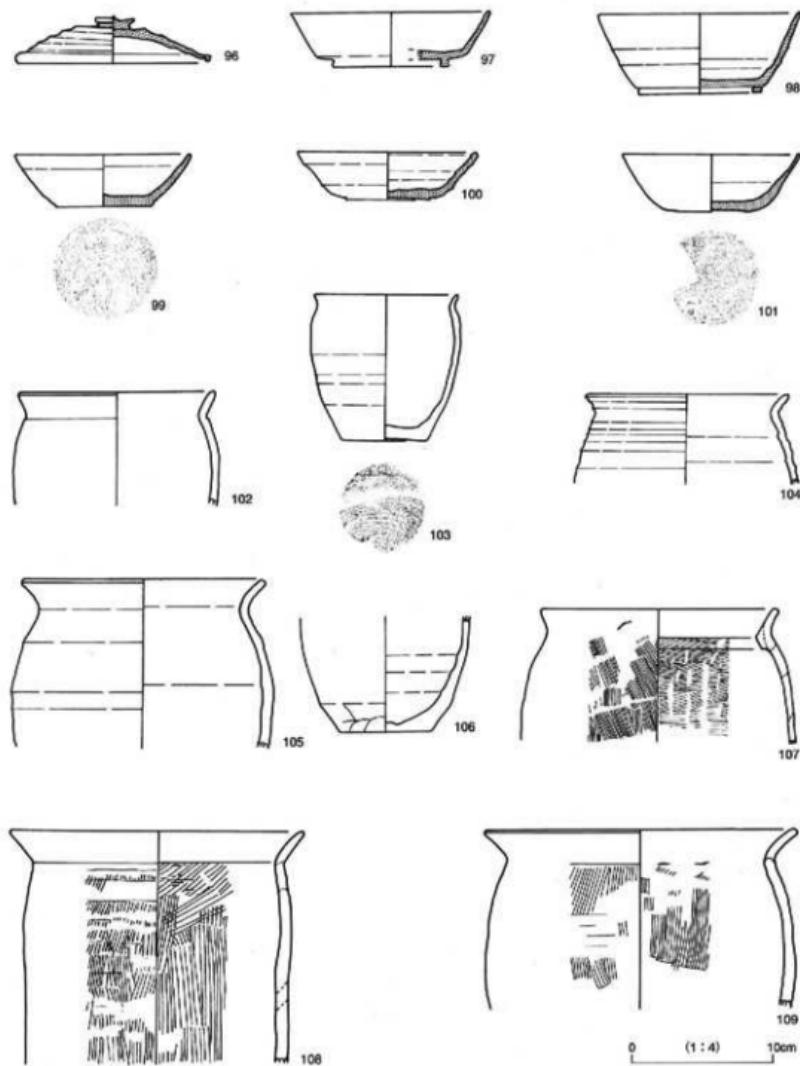
第12号住居址



0 (1 : 4) 10cm

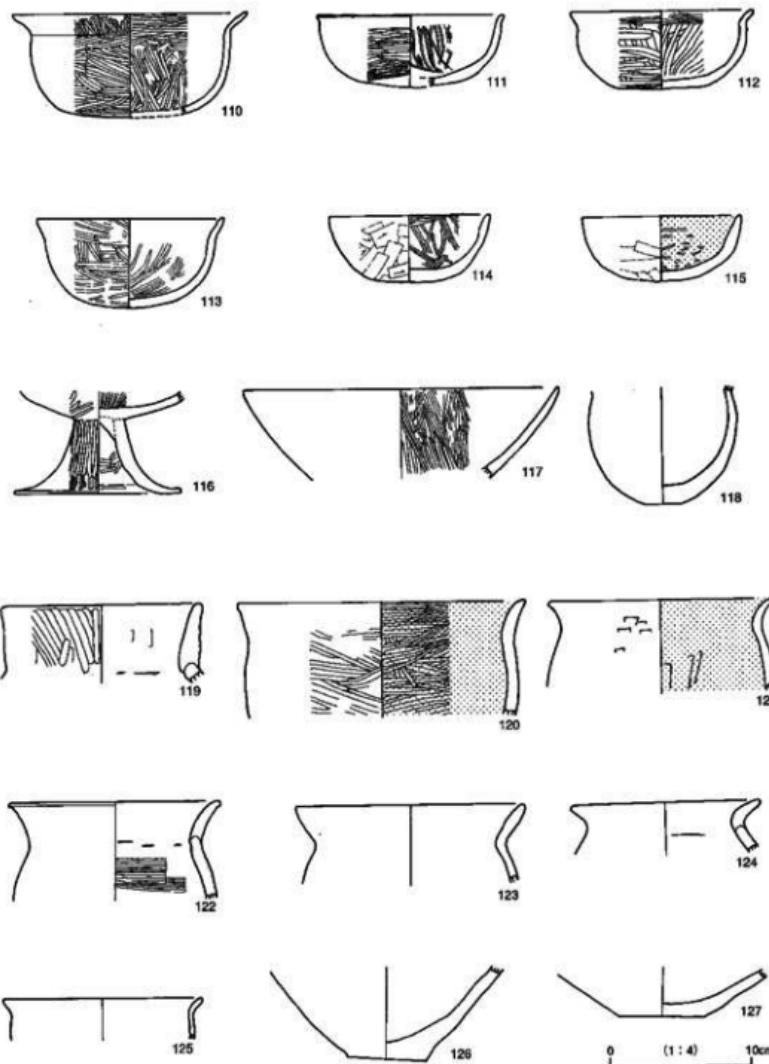
第43図 土器実測図5

第13号住居址



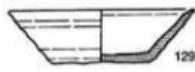
第44図 土器実測図6

第14号住居址



第45图 土器实测图7

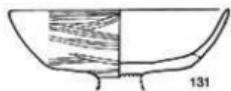
第15号住居址



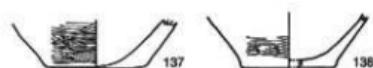
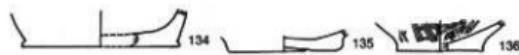
第17号住居址



第18号住居址



第20号住居址

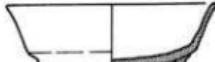
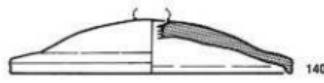


137

138

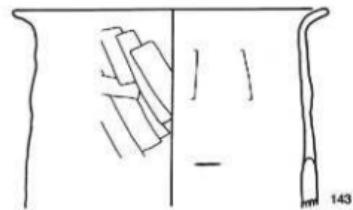
139

第21号住居址



140

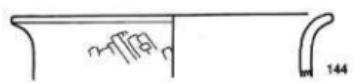
141



143



144

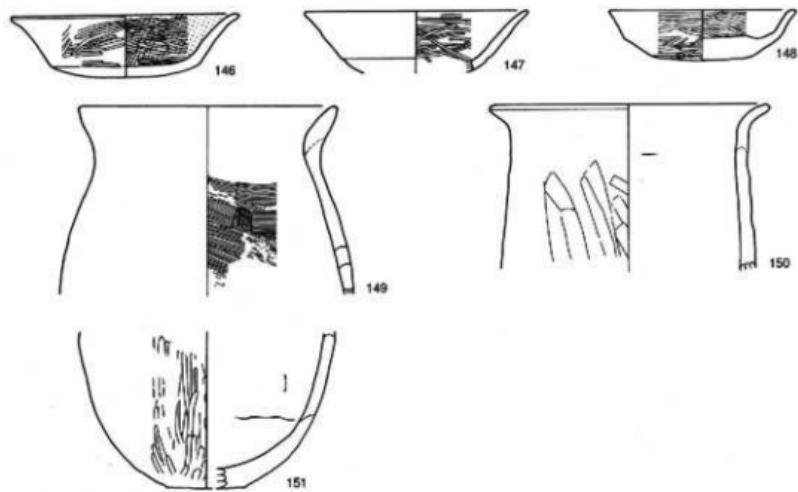


145

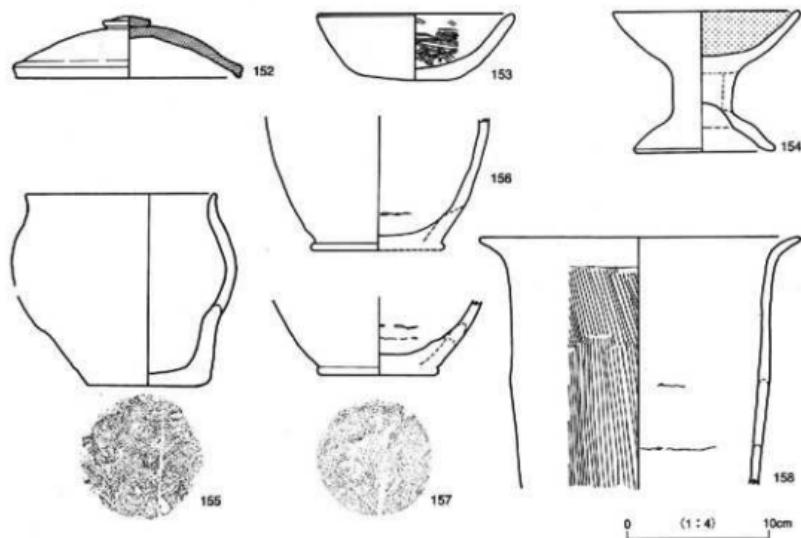
0 (1 : 4) 10cm

第46图 土器实测图8

1号壁穴址

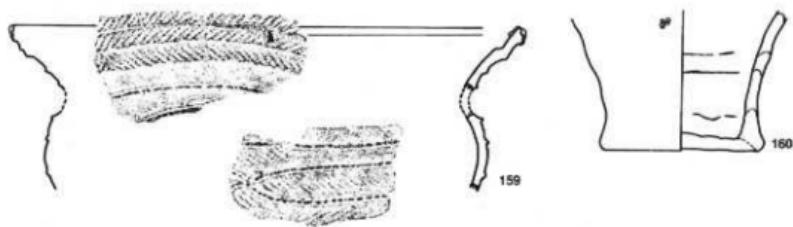


2号壁穴址

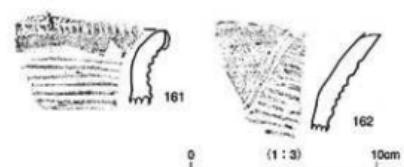


第47図 土器実測図9

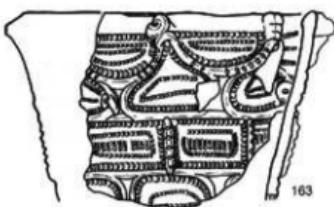
3号土坑



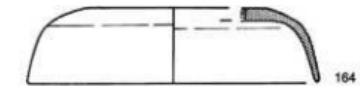
7号土坑



14号土坑



26号土坑

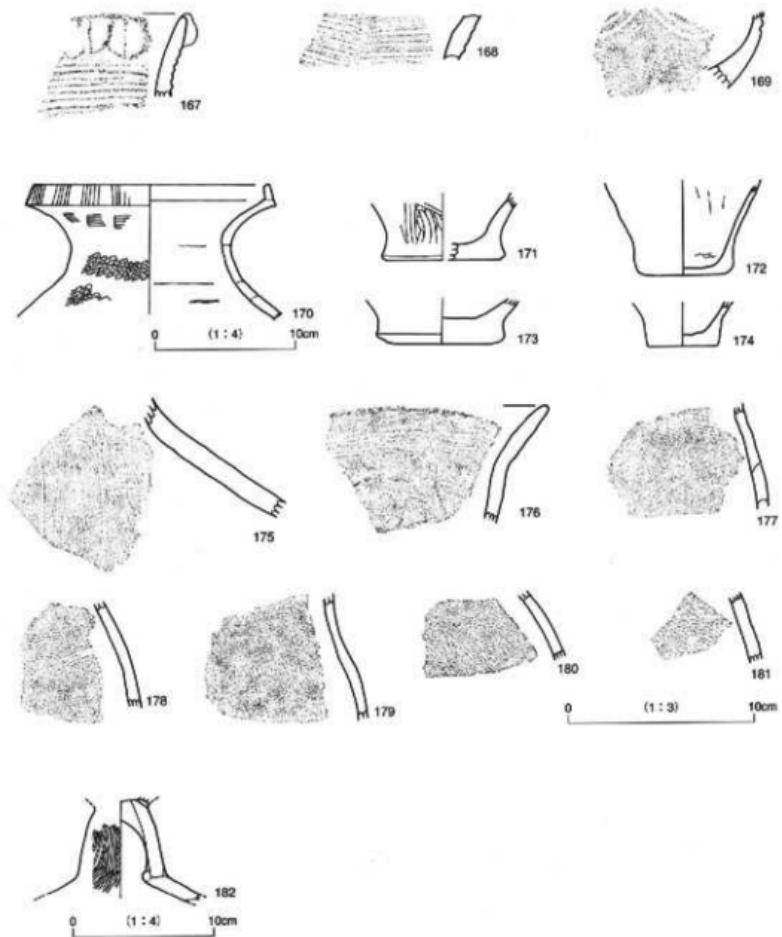


24号土坑

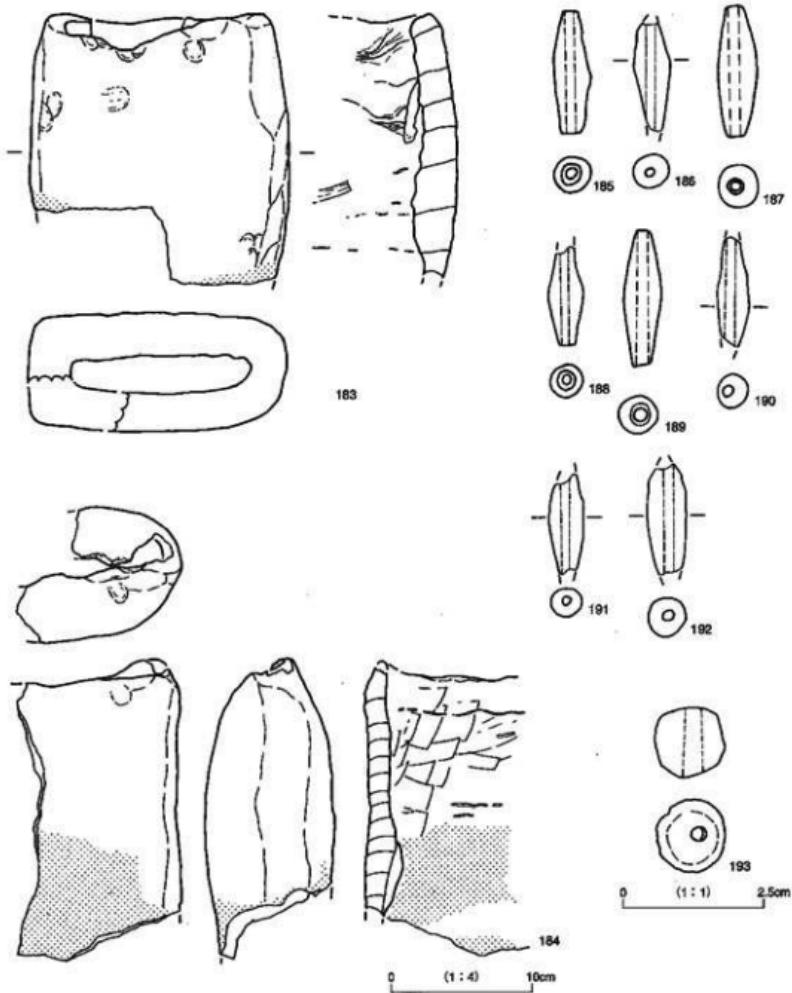


第48図 土器実測図・拓影図1

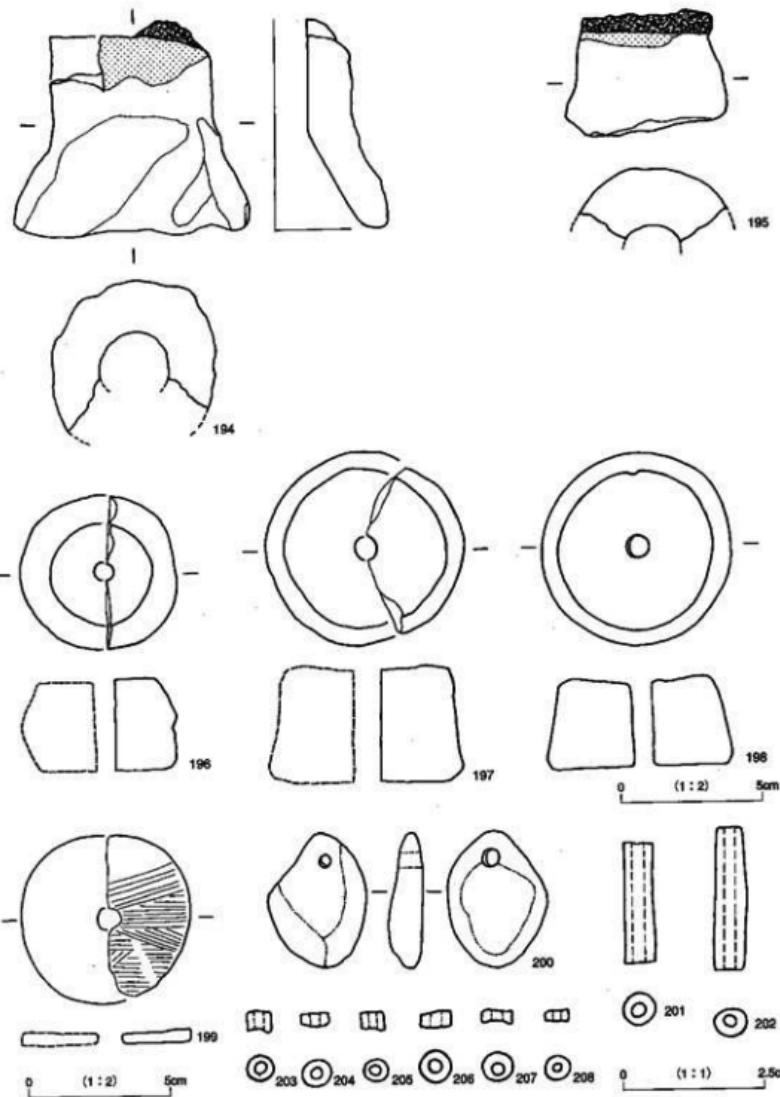
遺構外出土遺物



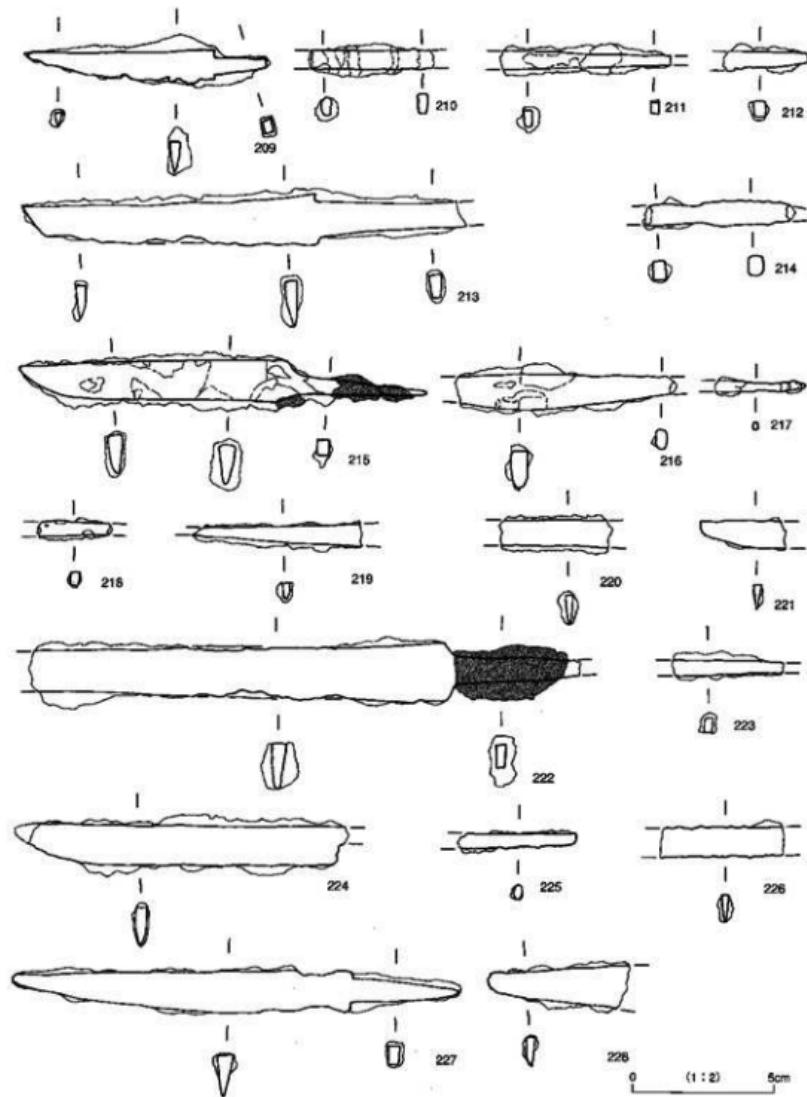
第49図 土器実測図・拓影図2



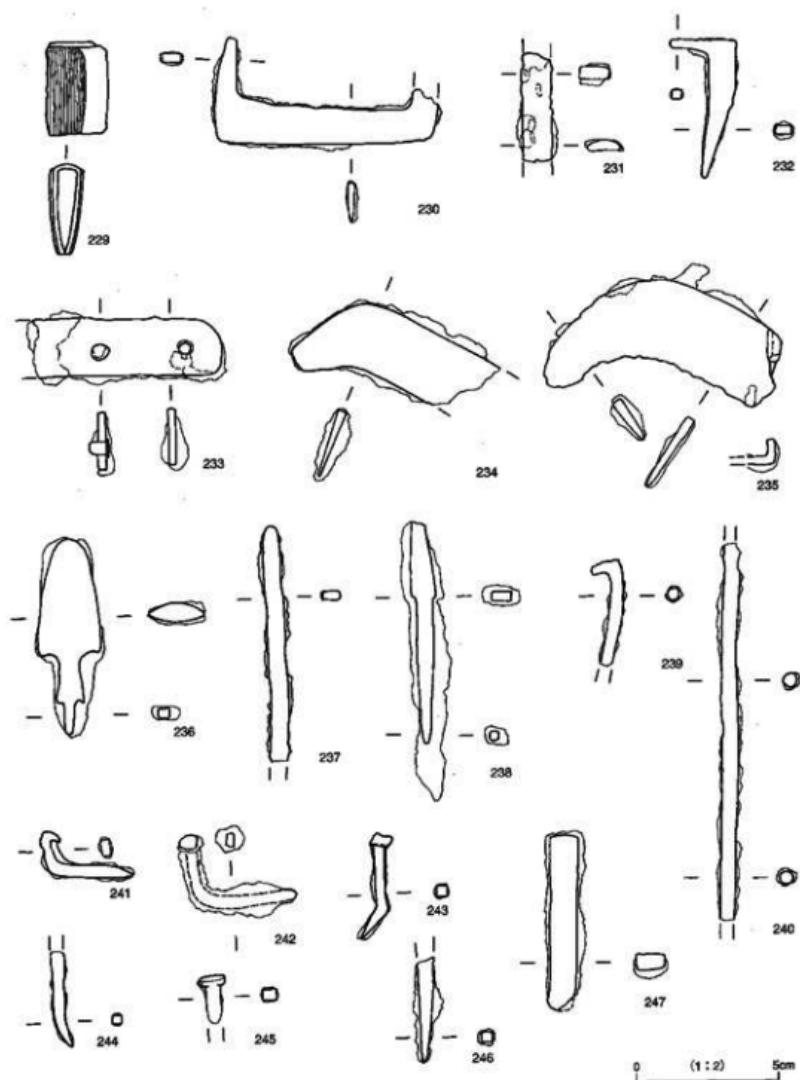
第50図 土製品実測図



第51図 土製品・石製品実測図



第52図 金属器実測図1



第53図 金属器実測図2

第5表 出土土器観察表

(法量単位cm)

| 番号 通巻名 | 器種 | 法量 | 成形・器形の特徴 | 文様・調査 | 備考 |
|-----------|-------------|--------------------------|--|--|--|
| 1 1古 | 壺 蓋 | (15.0) — 4.8 | ロクロ成形。 体部に溝状の蓋受けを有し、口縁部は直線的に立ち上がる。 | 外面一ロクロナデ 頂部鋸版ヘラケズリ 内面一クロコナデ | 焼成良好 胎土に小塵、砂粒を含む 10G6/1(青灰) |
| 2 1古 | 壺 蓋 | (14.7) — 3.5 | ロクロ成形。 | 外面一ロクロナデ 頂部鋸版ヘラケズリ 内面一クロコナデ | 焼成良好 胎土に小塵、砂粒を含む 5B4/1(暗青灰) |
| 3 1古 | 壺 | (12.5) — (5.6) | ロクロ成形。丸底。 体部に溝状の蓋受けを有し、口縁部は直線的に立ち上がる。 | 外面一ロクロナデ 回転ヘラケズリ 内面一ロクロナデ | |
| 4 1古 | 壺 | (15.8) (4.6) 4.5 | 口縁部は縛状に大きく外反し、体部は縫をもって頭状となる。 | 外面一ナデ 内面一ナデ | 内面に炭化物付着 胎土に小塵、砂粒を含む 7.5YR7/6(橙) |
| 5 1古 | 壺 | (14.6) (7.6) (3.4) | 口縁部は縛状に大きく外反し、体部は縫をもって頭状となる。 | 外面一ヨコナデ、ヘラミガキ 内面一ヨコナデ、ヘラミガキ 内面褐色処理 | 外面上に炭化物付着 胎土に小塵、砂粒を含む 10YR5/8(黄褐) |
| 6 1古 | 高 壺 | (17.6) (2.6) (4.7) | 口縁部は後をもって大きく外反し開く。 | 外面一ナデ後ヘラミガキ 内面一ナデ後ヘラミガキ 縛部ヘラケズリ ヨコナデ | 胎土に砂粒を含む 7.5YR7/6(橙) |
| 7 1古 | 高 壺 | (17.6) 11.1 13.1 | 口縁部は後をもって大きく外反し外反する。柱状部は円錐状に下降してラッパ状に広がる。 | 外面一ナデ後ヘラミガキ 内面一ナデ後ヘラミガキ | 胎土に砂粒を多く含む 7.5YR7/6(橙) |
| 8 1古 | 高 壺 | (18.0) 11.4 12.5 | 口縁部は後をもって口縁部が大きく外反する。柱状部は円錐状に下降してラッパ状に広がる。 | 外面一ナデ後ヘラミガキ 内面一ナデ後ヘラミガキ 縛部ヘラケズリ ヨコナデ | 口縁部の内外に多量の炭化物付着 胎土に砂粒を多く含む 7.5YR7/6(橙) |
| 9 1古 | 高 壺 | — 11.4 8.8 | 柱状部が円錐状に下降し、ラッパ状に広がる。 | 外面一ナデ後ヘラミガキ 内面一ナデ後ヘラミガキ 縛部ヘラケズリ ヨコナデ | 風化している 胎土に砂粒を多く含む 7.5YR7/6(橙) |
| 10 1古 | 鉢 | 12.0 (7.2) (10.5) | 口縁部は肥厚し、縫を有する体部は頭状を呈する。 | 外面一ナデ(ミガキ?) 内面一ナデ | 内面に炭化物付着 胎土に砂粒を多く含む 5YR7/6(橙) |
| 11 1古 | 甌 | 17.8 — (5.4) | ロクロ成形。 口縁部は帯状を呈す。 | 外面一ナデ 内面一ナデ | 口縁部に自然釉付着 焼成良好 胎土に砂粒を含む 5B5/1(青灰) |
| 12 1古 | 甌 | (6.6) (6.2) (12.7) | 胴部は球形状を呈する。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ナデ? | 風化が激しい 胎土に砂粒を含む 7.5YR6/6(橙) |
| 13 1古 | 横 瓶 | — (5.9) | — | 外面一ヘラケズリ ナデ 内面一ナデ | 胎土に小塵・砂粒を含む 5GY6/1(オリーブ灰) |
| 14 1古 | 短 甌 蓋 | 9.3 — (5.9) | ロクロ成形。 口縁部は短く直線的に立ち上がる。 | 外面一繩模文(列状)、ナデ 内面一ナデ | 胎土に砂粒を含む 7.5YR6/1(灰) |
| 15 1古 | 甌 | — (6.3) | ロクロ巻き上げ成形。 胴部に施成前穿孔。 | 外面一ヘラ模様文(列状)、ナデ後ヘラケズリ 内面一ナデ | 胎土に砂粒を含む 7.5R6/1(青灰) |
| 16 1古 | 甌 | (6.0) (2.6) | 共生後期土器? | 外面一ナデ 内面一ナデ | 底部に粘土付着 胎土に雲母、小塵を含む 10YR6/4(にじいろい黄緑) |
| 17 1古 | 甌 | — (7.2) (4.3) | 共生後期土器? | 外面一ナデ 内面一ナデ | 胎土に雲母・小塵・砂粒を含む 5YR6/6(橙) |
| 18 1湧 | 甌 | — (7.5) (4.2) | 共生後期土器? | 外面一ナデ 内面一ナデ | 底部に粘土付着 胴部外側に炭化物付着 胎土に雲母、小塵を含む 10YR6/4(にじいろい黄緑) |
| 19 1湧 | 甌 | (18.0) — | ロクロ成形。 口縁部はラッパ状に外反する。 | 外面一繩帶を挟んで2条の繩模文 状文、ナデ 内面一ナデ | 内面に自然釉付着 胎土に小塵、砂粒を含む 10BG4/1(暗青灰) |
| 20 1湧 | 短 甌 蓋 | (5.7) (10.4) (8.4) | ロクロ成形。付高台。 胴部は内溝ぎみに立上がる。 | 外面一ロクロ回転ヘラケズリ 内面一ロクロナデ(数条の溝有) | 焼成良好 10Y6/1(灰) (無釉-10Y5/2オリーブ灰) |
| 39 1住 | 手 捏 ね | 5.4 1.5 4.9 | 手捏ね。 | 外面一指圧痕 内面一指圧痕 | 胎土に雲母、小塵、砂粒を含む 7.5YR5/6(明褐) |
| 40 1住 | 壺 | (10.0) — (7.3) | 口縁部が直線的に外離する。 | 外面一ナデ後ミガキ 内面一ナデ | 胎土に雲母、砂粒を含む 7.5YR5/6(明褐) |

| 番号 選択名 | 器種 | 法式 | 成形・器形の特徴 | 文様・調査 | 備考 |
|-----------|-----|--------------------------|--|---------------------------------------|---|
| 41 1住 | 甕 | (15.6) (13.8) | 口縁部は短く「く」の字に外反し 肩部は球形状に膨らむ。 | 外面-ナデ、ハケ 内面-ナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/6 (明褐色) |
| 42 1住 | 甕 | (18.1) — (19.4) | 口縁部は短く「く」の字に外反し 肩部は球形状に膨らむ。 | 外面-ナデ 内面-ナデ | 二次焼成痕あり 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR4/4 (褐) |
| 43 1住 | 壺 | — 5.2 (2.7) | 輪模成形。 | 外面-肩部は風化激しく観測不可 底部はヘラケズリ 内面-ナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR6/6 (棕) |
| 44 1住 | 壺 | — 5.8 (1.9) | 輪模成形。 | 外面-ハラナデ、底部ハラケズリ 内面-ハラナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR4/6 (褐) |
| 45 1住 | 壺 | — (6.4) (2.9) | 輪模成形。 | 外面-ナデ 内面-ナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR6/8 (棕) |
| 46 3住 | 坏 | (14.4) (6.1) 5.8 | 口縁部は内湾気味に開く。 | 外面-ナデ後ハラケズリ、底部木 灰 内面-ナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR6/6 (棕) |
| 47 4住 | 坏 身 | (12.1) (6.2) (4.5) | 体部に縦状の収受けを有し、口縁 部は直線的に立ち上がる。 ロクロ成形。 | 外面-クロロナデ 回転ハラケズ リ 内面-クロロナデ | 難成直好、粘土に砂粒を含む 外面-SBA/1 (暗青色) 断面-2.5Y5/2 (暗灰黄) |
| 48 4住 | 坏 | (13.0) — (4.4) | 体部は内湾し、口縁部は「く」 字に短く外反する。 | 外面-ハラミガキ 内面-ハラミガキ | 粘土に小礫、砂粒を含む 5YR4/6 (赤褐) |
| 49 4住 | 坏 | (16.0) (7.8) (3.2) | 口縁部が卵状に大きく外反し、体 部は段をもって直立となる。 | 外面-ミガキ 内面-ミガキ、黒色処理 | 粘土に砂粒を含む 7.5YR6/4 (にじい紫) |
| 50 4住 | 坏 | 13.0 2.2 4.4 | 口縁部は直線的に開き、体部は板 をもって底部は丸底。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ後ハラミガキ 黑色処理 | 粘土に雲母を含む 5YR7/3 (にじい紫) |
| 51 4住 | 坏 | (13.8) (4.0) 5.7 | 口縁部はほぼ直線的に開き、底部 は丸底。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ後ハラミガキ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にじい紫) |
| 52 4住 | 坏 | 17.6 2.3 6.2 | 口縁部は内湾気味に開き、底部 は丸底。 輪模成形。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ後ハラミガキ | 粘土に雲母、砂粒を含む 2.5YR4/3 (にじい赤褐) |
| 53 4住 | 坏 | 9.7 4.3 3.9 | 口縁部は内湾気味に開き、底部 は平底。 | 外面-ナデ 内面-ハラナデ | 粘土に雲母、砂粒を含む 5YR4/6 (赤褐) |
| 54 4住 | 高 坏 | — (11.0) 6.4 | 肩部は大きく「ハ」の字状に開く。 | 外面-ハラミガキ 内面-ハラケズリ | 坏部欠損、外面に炭化物付着 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にじい紫) |
| 55 4住 | 鉢 | (18.9) 6.2 (13.1) | 口縁部は短く外反し、肩部はやや 球形状に膨らむ。 輪模成形。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ後ハラミガキ | 肩部外面に炭化物付着 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にじい紫) |
| 56 4住 | 鉢 | (16.9) 6.1 12.6 | 口縁部は短く外反し、肩部はやや 球形状に膨らむ。 輪模成形。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ後ハラミガキ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 10YR6/4 (にじい黄橙) |
| 57 4住 | 鉢 | (10.6) (4.0) 11.9 | 口縁部はやや内湾気味に立上がり 肩部は下伏れで丸底。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 底部にX印あり 内面-ハラミガキ、ナデ | 底部外面に炭化物付着 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にじい紫) |
| 58 4住 | 広口壺 | (13.7) — 12.7 | 口縁部は短く「く」の字状に外反 し、肩部は球形状に膨らみ、底部 は丸底。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ハラミガキ | 粘土に雲母、砂粒を含む 7.5YR6/4 (にじい紫) |
| 59 4住 | 甕 | (16.7) — (10.5) | 口縁部は短く開き、肩部は中位で 膨らむ。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ハラナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR6/6 (棕) |
| 60 4住 | 長胴甕 | 19.0 — (17.3) | 口縁部は短く外反し、肩部は中位 で膨らむ。 | 外面-ナデ 内面-ハラナデ | 粘土に雲母を含む 10YR5/4 (にじい黄褐) |
| 61 4住 | 壺 | (14.6) — (5.9) | 口縁部は短く「く」の字状に外反 し、肩部は球形状に膨らむ。 | 外面-ナデ後ハラミガキ 内面-ナデ | 粘土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR4/8 (赤褐) |
| 62 4住 | 甕 | (18.2) — (7.4) | 口縁部は短く「く」の字状に外反 し、肩部は球形状に膨らむ。 | 外面-ハラミガキ 内面-ナデ | 粘土に雲母、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐) |

| 番号 登場名 | 器種 | 法量 | 成形・器造の特徴 | 文様・刺繡 | 備考 |
|-----------|------|--------------------------|--|---|--|
| 63 4住 | 壺 | — 8.0 (26.6) | 胴部は球形状を呈し、下部でやや後を残す。 輪郭成形。 | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 内外面共に炭化物付着 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐色) |
| 64 4住 | 瓶 | (17.8) (18.0) | 口縁部は短く「く」の字状に外反し、副部と頸部に綾を残し球形状に膨らむ。 輪郭成形。 | 外側一ヘラミガキ 内面一ミガキ | 瓶下部内外面に炭化物付着 胎土に雲母、砂粒を含む 7.5YR6/5 (にぶい褐色) |
| 65 5住 | 高台付壺 | 11.1 9.3 3.4 | ロクロ成形。付高台。 口縁部は直線的に立ち上がる。 | 外側一ロクロナデ 底部回転ヘラ 切り 内面一ロクロナデ | 内外面共に自然釉付着 焼成良好 5Y7/1 (灰白) (地-10Y4/2オリーブ色) |
| 66 5住 | 高台付壺 | (18.1) (9.3) 3.9 | ロクロ成形。付高台。 口縁部は直線的に立ち上がる。 | 外側一ロクロナデ 底部回転ヘラ 切り 内面一ロクロナデ | 焼成良好 胎土に小礫、砂粒を含む 10BG5/1 (青灰) |
| 67 5住 | 壺 | (13.2) 5.8 3.9 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 焼成不良 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 10YR7/4 (にぶい黄褐色) |
| 68 5住 | 壺 | (13.1) (4.2) 7.2 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部四輪糸切り 内面一ロクロナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む N4/0 (灰) |
| 69 5住 | 壺 | (13.8) (7.3) 3.9 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む N5/0 (灰) |
| 70 5住 | 壺 | — (5.8) (2.3) | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 焼成良好 胎土に小礫、砂粒を含む N4/0 (灰) |
| 71 5住 | 壺 | (11.0) 5.8 4.0 | ロクロ成形。 体部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 「田」らしと墨青あり 内面一ヘラミガキ 黒色処理 | 10YR6/6 (明青褐) |
| 72 5住 | 壺 | 13.4 5.7 4.1 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ後ハラミガキ 黒色処理 | 口縁部に炭化物付着 胎土に小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐色) |
| 73 5住 | 壺 | — (6.0) (2.4) | ロクロ成形。 体部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ後ハラミガキ 黒色処理 | 胎土に砂粒を含む 10YR5/4 (にぶい黄褐色) |
| 74 5住 | 壺 | (11.8) (4.6) (3.6) | ロクロ成形。 体部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ後ハラミガキ | 胎土に砂粒を含む 5YR4/6 (赤褐色) |
| 75 5住 | 壺 | (12.5) (5.2) (3.6) | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 7.5YR6/ (橙) |
| 76 5住 | 里 | (13.4) (6.7) 2.6 | ロクロ成形。 口縁部は直線的に開き、端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 「中」「干」の墨青あり 内面一ミガキ 黑色処理 | 胎土に砂粒を含む 7.5YR7/6 (橙) |
| 77 5住 | 瓶 | (15.3) (7.0) 5.3 | ロクロ成形。付高台。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ 墨青あり 底部に「干」による沈澱あり 内面一ヘラミガキ 黑色処理 | 胎土に小礫、砂粒を含む 7.5YR7/6 (橙) |
| 78 5住 | 瓶 | (15.1) (6.6) — | ロクロ成形。付高台。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ 内面一ヘラミガキ 黑色処理 | 底部に高台のはげたあと痕あり 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR6/8 (橙) |
| 79 5住 | 小瓶 | — 5.8 (5.0) | ロクロ成形。 副部は下張れで、取手の痕跡あり。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 瓶部外面底部内面に自然釉付着 10GY6/1 (綠灰) |
| 80 5住 | 塵 | — 7.4 (4.0) | ロクロ成形。 底部から直線的に開く。 | 外側一ハケ 底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 底部外面に炭化物付着 胎土に砂粒を含む 2.5YR5/6 (明赤褐) |
| 81 5住 | 高壺 | — (11.8) (5.5) | 柱状部はやや膨らみを持ち、脚部は「く」の字に屈曲し、脚部に広がる。 | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラケズリ | 环形欠損 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 2.5YR4/8 (赤褐) |
| 82 7住 | 壺 | 12.9 6.0 3.4 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 胎土に小礫、砂粒を含む 7.5Y7/1 (灰白) |
| 83 7住 | 壺 | (13.0) 5.7 3.8 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 焼成不良 — 胎土に小礫、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐色) |
| 84 7住 | 壺 | 13.2 6.3 3.7 | ロクロ成形。 口縁部は内湾ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外側一ロクロナデ底部回転糸切り 内面一ロクロナデ | 胎土に小礫を多く含む 7.5Y5/1 (灰) |

| 番号 通称名 | 器種 | 法並 | 成形・器形の特徴 | 文様・溝茎 | 備考 |
|------------|------|--------------------------|--|--|--|
| 85 7住 | 坏 | 12.1 4.9 4.9 | ロクロ成形。 口縁部は内溝ぎみに立上がる。 | 外面-ロクロナデ底部回転糸切り 内面-ロクロナデ | 粘土に小穂を多く含む 5B5/1(青灰) |
| 86 7住 | 長颈壺 | - (9.8) | ロクロ成形。付高台。 肩部は内溝ぎみに立上がる。 | 外面-ロクロ両軸ヘラケズリ 内面-ロクロナデ | 釉付着、焼成良好 7.5Y5/1(灰) (釉墨-10YR4/4場) |
| 87 7住 | 壺 | - (6.4) (7.8) | ロクロ成形。 肩部は内溝ぎみに立上がる。 | 外面-ハケ 底部回転糸切り 内面-ナデ | 肩部外面に炭化物付着 粘土に砂粒を含む 10YR7/4(にぶい黄緑) |
| 88 9住 | 瓶 | (15.4) (6.3) (5.6) | ロクロ成形。付高台。 口縁部は内溝ぎみに立上がり端部で外反する。 | 外面-ロクロナデ底部回転糸切り 内面-ヘラミガキ 黒色処理 | 粘土に小穂、砂粒を含む 10R6/8(赤棕) |
| 89 9住 | 壺 | (22.2) - (11.9) | 輪積成形。 口縁部は「く」の字状に短く屈曲し、肩部は緩やかに膨む。 | 外面-ナデ 内面-ハラナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR6/4(にぶい紫) |
| 90 9住 | 壺 | (22.5) - (10.6) | 輪積成形。 口縁部は「く」の字状に短く屈曲し、肩部は直線的に下降する。 | 外面-ナデ 内面-ナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR6/6(紫) |
| 91 9住 | 長颈壺 | - 7.7 (7.5) | ロクロ成形。付高台。 肩部は内溝ぎみに立上がる。 | 外面-ヘラケズリ ロクロ両軸糸切り 内面-ナデ | 自然釉付着 粘土に砂粒を含む 5Y6/1(灰) |
| 92 12住 | 坏 | (14.6) - (4.1) | 内溝ぎみに立上がる。丸底。 | 外面-ヘラケズリ 赤色透影 口縁部にヘラミガキ 内面-ナデ、原色処理 | 粘土に砂粒を含む 5YR6/8(橙) (赤彩-2.5YR4/8赤闇) |
| 93 12住 | 小腹壺 | 17.4 7.8 13.0 | 輪積成形。 肩部はあまり膨まず、口縁端部で外反する。全体的に歪んでいる。 | 外面-ヘラミガキ 内面-ナデ後ヘラミガキ | 肩部外面に炭化物付着 粘土に雲母、石英を含む 10YR5/4(にぶい黄褐) |
| 94 12住 | 小腹壺 | (13.9) 5.2 12.7 | 輪積成形。 肩部はあまり膨まず、口縁端部で外反する。全体的に歪んでいる。 | 外面-ハラナデ 内面-ハケ状の工具によるナデ 底部はヘラナデ | 肩部に二次焼成痕あり 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 2.5Y5/3(赤褐) |
| 95 12住 | 壺 | 17.1 - (7.8) | 口縁部は「く」の字に屈曲する。 | 外面-ハケ後ナデ 内面-ハケ後ナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR5/4(にぶい鶴) |
| 96 13住 | 坏 | 13.5 - 3.3 | ロクロ成形。横脚貼付け。 底盤に開き、受けはほぼ直角に屈曲する。焼き済み。 | 外面-ロクロナデ、頂部両軸ヘラケズリ 内面-ロクロナデ | 内面に自然釉付着 粘土に小穂、砂粒を含む 5B5/1(青灰) |
| 97 13住 | 高台付坏 | (14.0) (8.2) 4.2 | ロクロ成形。付高台。 口縁部は直線的に開く。 | 外面-ロクロナデ 内面-ロクロナデ | 粘土に小穂、砂粒を含む N4/0(灰) |
| 98 13住 | 高台付坏 | (14.3) 8.7 5.7 | ロクロ成形。付高台。 口縁部はほぼ直線的に開く。 | 外面-ロクロナデ底部静止糸切り 内面-ロクロナデ | 焼成魚肝 粘土に小穂、砂粒を含む 10R6/1(青灰) |
| 99 13住 | 坏 | 12.4 6.8 3.7 | ロクロ成形。 口縁部はほぼ直線的に開く。 | 外面-ロクロナデ底部回転糸切り 内面-ロクロナデ | 焼成やや不良 粘土良好 10YR6/6(にぶい黄褐) |
| 100 13住 | 坏 | (12.6) 5.8 3.4 | ロクロ成形。 口縁部はほぼ直線的に開く。 | 外面-底部回転糸切り 内面-ロクロナデ | 焼成良好 粘土に小穂、砂粒を含む 7.5Y5/1(灰) |
| 101 13住 | 坏 | (12.4) (4.8) 4.0 | ロクロ成形。 口縁部はほぼ直線的に開く。 | 外面-ナデ、底部回転糸切り 内面-ナデ | 粘土に小穂、砂粒を多く含む 5Y5/2(灰オリーブ) |
| 102 13住 | 壺 | (13.7) - (8.0) | 輪積成形。 口縁部は短く「く」の字に開く。 | 外面-ナデ 内面-ナデ | 肩部外面に炭化物付着 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR6/6(橙) |
| 103 13住 | 小腹壺 | 10.1 5.8 (10.4) | ロクロ成形。 口縁部は短く「く」の字に開き、肩部は緩やかに膨む。 | 外面-ロクロナデ底部静止糸切り 内面-ロクロナデ | 二次焼成による変色、風化あり 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 2.5YR4/8(赤褐) |
| 104 13住 | 壺 | (14.4) - (6.4) | ロクロ成形。 口縁部は短く「く」の字に開く。 | 外面-ロクロナデ 内面-ロクロナデ | 肩部外面に炭化物付着 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR4/8(赤褐) |
| 105 13住 | 壺 | (16.9) - (12.0) | ロクロ成形。 肩部は緩やかに膨む。 | 外面-ロクロナデ 内面-ロクロナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR5/6(明赤褐) |
| 106 13住 | 壺 | - 6.5 (8.1) | ロクロ成形。 肩部は緩やかに膨む。 | 外面-ロクロナデ 底部及び胴下 面-ヘラケズリ 内面-ロクロナデ | 風化が激しい 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR5/4(にぶい黄褐) |

| 器皿名 | 器種 | 法量 | 成形・器形の特徴 | 文様・調整 | 備考 |
|------------|------|------------------------|----------------------------|---|--|
| 107 13住 | 甕 | (16.8) — (9.4) | 輪積成形。 口縁部は短く「く」の字に聞く。 | 外面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ 内面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ | 胴部内外共に炭化物付着 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YRS/6 (明赤褐色) |
| 108 13住 | 長削甕 | (20.8) — (16.5) | 輪積成形。 口縁部は短く「く」の字に聞く。 | 外面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ 内面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ | 胎土に雲母、石英を含む 10YR4/3 (にぶい黄褐色) |
| 109 13住 | 甕 | (21.9) — (12.7) | 輪積成形。 口縁部は短く「く」の字に聞く。 | 外面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ 内面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ | 胴部は二次焼成による変色あり 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 10YR5/4 (にぶい黄褐色) |
| 110 14住 | 坏 | (16.8) — (7.4) | 体部は内溝し、口縁部は「く」の字に短く聞く。丸底。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 2.5YR4/8 (赤褐色) |
| 111 14住 | 坏 | (13.2) — (5.1) | 体部は内溝し、口縁部は短く外反する。丸底。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 2.5YR5/8 (明赤褐色) |
| 112 14住 | 坏 | (12.8) — 5.5 | 体部は内溝し、口縁部は短く外反する。丸底。 | 外面一ヘラミガキ 胴部ハケ 内面一ヘラミガキ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR4/6 (赤褐色) |
| 113 14住 | 坏 | (13.2) — 5.1 | 体部は内溝し、口縁部は「く」の字に短く聞く。丸底。 | 外面一ヘラミガキ 胴部ヘラケズリ 内面一ヘラミガキ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 2.5YR5/8 (明赤褐色) |
| 114 14住 | 坏 | (11.4) — (4.7) | 体部は内溝する。丸底。 | 外面一ヘラケズリ 内面一ヘラミガキ | 胎土に砂粒を含む 7.5YR4/6 (褐) |
| 115 14住 | 坏 | (13.2) — (5.3) | 体部は内溝する。丸底。 | 外面一ヘラケズリ 内面一ヘラミガキ 黒色処理 | 胎土に雲母、小礫を含む 5YR3/2 (暗赤褐色) |
| 116 14住 | 高 坏 | (12.0) (7.3) | 坏部は内溝し、脚部は短く「ハ」の字に外反する。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 胎土に雲母、小礫を含む 2.5YR4/6 (赤褐色) |
| 117 14住 | 高 坏 | (22.4) — (5.7) | 口縁部は内溝ぎみに聞く。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 脚部欠損 胎土に雲母、砂粒を含む 5YR4/8 (赤褐色) |
| 118 14住 | 小型 罐 | — (2.4) (8.3) | 胴部は球状を呈する。 | 外面一ナデ、ヘラケズリ? 内面一ナデ | 底部と外面共に炭化物付着 胎土に雲母、砂粒を含む 10YR6/4 (にぶい黄褐色) |
| 119 14住 | 甕 | (13.8) — (5.6) | 輪積成形。 口縁部は直線的に立ち上がる。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR5/8 (明赤褐色) |
| 120 14住 | 広口 罐 | (20.4) — (8.1) | 口縁部は緩やかに短く立ち上がる。 | 外面一ヘラナデ 内面一ヘラナデ 黒色処理 | 胎土に雲母、小礫を含む 10R4/4 (赤褐色) |
| 121 14住 | 広口 罐 | (15.8) — (6.2) | 口縁部は「く」の字に外反する。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ 黒色処理 | 胎土に雲母、石英を含む 7.5YR5/2 (灰褐色) |
| 122 14住 | 甕 | (14.7) — (7.0) | 輪積成形。 口縁部は「く」の字に外反する。 | 外面一口縁部ヨコナデ 胴部ヘラ ミガキ 内面一口縁部ヨコナデ 胴部ハケ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 123 14住 | 甕 | (16.2) — (6.7) | 口縁部は「く」の字に聞く。 | 外面一ナデ 内面一ナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 10YR2/1 (黒) |
| 124 14住 | 甕 | (13.1) — (3.7) | 輪積成形。 口縁部は「く」の字に聞く。 | 外面一ヨコナデ 内面一ヨコナデ | 外面に二次焼成灰あり 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 10YR6/4 (にぶい黄褐色) |
| 125 14住 | 甕 | (14.1) — (2.9) | 全体的に溝手。 口縁部は短く「く」の字に聞く。 | 外面一ヨコナデ 内面一ヨコナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 126 14住 | 甕 | — 5.6 (6.7) | 胴部は直線的に聞く。 | 外面一ヘラミガキ 内面一ナデ | 底部外面に炭化物付着 胎土に雲母を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐) |
| 127 14住 | 甕 | — 6.2 (3.4) | 胴部は直線的に聞く。 | 外面一ヘラナデ 底部ヘラケズリ 内面一ヘラナデ | 胎土に雲母、石英を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐) |
| 128 15住 | 坏 | (14.8) (7.1) 4.2 | クロ成形。 口縁部は直線的に聞く。 | 外面一クロナデ底部ヘラケズリ 内面一クロナデ | 胎土に雲母、小礫、砂粒を含む N3/0 (暗灰) |

| 番号 登録名 | 器種 | 法量 | 成形・器形の特徴 | 文様・調査 | 備考 |
|------------|-------------|--------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|--|
| 129 15住 | 坏 | (13.3) 7.0 (3.7) | ロクロ成形。 口縁部は直線的に開く。 | 外側一ロクロナデ底部へラケズリ 内面一ロクロナデ | 粘土に小穂・砂粒を含む 5B4/1 (暗青灰) (断面5R3/1 増率4%) |
| 130 17住 | 壺 | (9.8) — (4.2) | 口縁部は直線的に開く。 | 外側一ナデ後へラミガキ 内面一ナデ後へラミガキ | 粘土に砂粒を含む 2.5YR4/6 (赤褐色) |
| 131 18住 | 高 坏 | (15.4) — (4.0) | 口縁部は縦をもって内湾ぎみに開く。(脚部欠損)。 | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 粘土に砂粒を多く含む 2.5YR4/6 (赤褐色) |
| 132 18住 | 壺 | — 8.4 (4.1) | 輪模成形。 腹部は内湾ぎみに立上がる。 | 外側一ヘラナデ、底部木葉痕 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、石英を含む 7.5YR4/6 (緑) |
| 133 18住 | 壺 | — (9.6) (3.2) | | 外側一ヘラナデ、底部木葉痕 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、石英を含む 7.5YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 134 20住 | 壺 | — (11.0) (2.6) | | 外側一ナデ 内面一ヘラナデ | 粘土に石英、砂粒を含む 10YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 135 20住 | 壺 | — (7.8) (1.1) | | 外側一ナデ、底部木葉痕 内面一ナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR7/6 (緑) |
| 136 20住 | 壺 | — (6.2) (2.0) | | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 2.5YR5/6 (明赤褐色) |
| 137 20住 | 壺 | — (7.2) (3.3) | 底部は極めて薄い。 | 外側一ヘラミガキ底部へラケズリ 内面一ヘラミガキ | 粘土に石英、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 138 20住 | 壺 | — (6.8) (3.6) | | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラナデ | 粘土に石英を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 139 21住 | 坏 | (13.5) (7.0) (3.6) | ロクロ成形。 口縁部は内湾気味に開き、底部は平底。 | 外側一ロクロナデ底部へラケズリ 内面一ロクロナデ | 外側共に火漆あり 粘土に砂粒を多く含む 10BG4/1 (暗青灰) |
| 140 23住 | 坏 蓋 | (19.7) — (3.6) | ロクロ成形。 直線的に開き、受けはほぼ直角に延びる。 | 外側一ロクロナデ 内面一ロクロナデ | つまみ欠損 粘土に小穂、砂粒を含む N7/0 (灰白) |
| 141 23住 | 高台付坏 | (14.7) (10.3) 4.5 | ロクロ成形。付高台。 口縁部は直線的に開き、腹部でやや外反する。 | 外側一ロクロナデ 底部回転へラケズリ 内面一ロクロナデ | 粘土に小穂、砂粒を含む 7.5YR7/1 (灰白) |
| 142 23住 | 小 型 壺 | (9.4) — (6.3) | 口縁部は「く」の字に外反する。 | 外側一ヘラナデ、ヘラケズリ 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、石英を含む 10YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 143 23住 | 長 肩 壺 | (22.1) — (13.9) | 輪模成形。 口縁部は鋭く開く。 | 外側一ヘラナデ (ハケ?) 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR6/4 (にぶい黄緑) |
| 144 23住 | 長 肩 壺 | (22.3) — (4.5) | 輪模成形。 口縁部は短く開く。 | 外側一ヘラナデ (ハケ?) 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、砂粒を含む 10YR7/4 (にぶい黄緑) |
| 145 23住 | 長 肩 壺 | (22.3) — (7.0) | 輪模成形。 口縁部は短く開く。 | 外側一ヨコナデ ヘラケズリ 内面一ヨコナデ ヘラナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR7/6 (緑) |
| 146 1堅穴 | 坏 | (16.1) (4.0) (4.4) | 口縁部が縦に大きく外反し、体部は底をもって皿状となる。 | 外側一ヘラミガキ底部へラケズリ 内面一ヘラミガキ 黒色処理 | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 147 1堅穴 | 坏 | (15.9) — (4.4) | やや内湾気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。 | 外側一ナデ 内面一ナデ後へラミガキ | 粘土に雲母、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 148 1堅穴 | 坏 | (13.2) 7.6 3.5 | 輪模成形。 底部は厚く、不安定。 | 外側一ヘラミガキ 内面一ヘラミガキ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい黄緑) |
| 149 1堅穴 | 壺 | (18.0) — (13.5) | 輪模成形。 口縁部は緩やかに開く。 | 外側一ヨコナデ ヘラナデ 内面一ヨコナデ ハケ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR6/8 (橙) |
| 150 1堅穴 | 壺 | (19.2) — (11.9) | 輪模成形。 口縁部は短く外反し、腹部は直線的に下降する。 | 外側一ヘラナデ 内面一ヘラナデ | 粘土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR6/4 (にぶい黄緑) |

| 番号 | 器種 | 法量 | 成形・器形の特徴 | 文様・調査 | 備考 |
|--------------------|-------------|---------------------------|--|---|---|
| 151 1型六 | 蓋 | — (5.4) (11.1) | 輪積成形。 肩部は球状に膨らむ。 | 外面—ヘラミガキ 内面—ヘラミガキ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR4/6 (赤褐色) |
| 152 2型六 | 蓋 | 15.7 — 4.4 | ロクロ成形。底部貼付け。 「S」字状に開き、受は「く」の字に屈曲する。 | 外面—頂部ヘラケズリロクロナデ 内面—ロクロナデ | 便成良好 胎土に小穂、砂粒を含む 7.5Y5/1 (灰) |
| 153 2型六 | 坏 | 13.8 7.1 4.7 | 底部に窪みがあり。内湾ぎみに立上る。 | 外面—ヘラミガキ (風化) 内面—ヘラミガキ | 胎土に雲母、石英、砂粒を含む 7.5YR6/6 (橙) |
| 154 2型六 | 高 坏 | 13.0 9.7 10.0 | 环部は内湾気味に開き、柱状部は緩く直線的、脚部は内湾ぎみに開く。 | 外面—ヘラミガキ 内面—ヘラミガキ、黒色処理 | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 2.5YR7/4 (淡赤褐色) |
| 155 2型六 | 小型 蓋 | (13.3) 7.8 13.5 | 輪積成形。 全体的に歪んでいる。 | 外面—風化が激しく剥離不可能 底部木葉模あり 内面—ヨコナデ | 二次的成形あり 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐色) |
| 156 2型六 | 壺 | — 9.4 (9.4) | 輪積成形。 底部は横に短く張出し、肩部は緩やかに膨らむ。 | 外面—ナデ 底部木葉模 内面—ヘラナデ | 二次的成形あり 胎土に雲母、砂粒を含む 7.5YR5/3 (にぶい褐色) |
| 157 2型六 | 壺 | — 8.2 (5.3) | 輪積成形。 底部は横に短く張出し、肩部は緩やかに膨らむ。 | 外面—ナデ、底部木葉模あり 内面—ヘラナデ | 外縁に炭化物付着 胎土に雲母、砂粒を含む 7.5YR6/4 (にぶい褐色) |
| 158 2型六 | 長脚 蓋 | (22.6) — (17.6) | 輪積成形。 口縁部は短く外反し、肩部は直線的に下降する。 | 外面—ヨコナデ ハケ 内面—ヨコナデ ヘラナデ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR5/4 (にぶい黄褐色) |
| 159 深 鉢 (陶文) | 鉢 | (28.0) — (12.0) | 輪積成形。 口縁部は「く」の字に屈曲し、底部で内湾する。 | 外面—地文に單脚 R し縄文を施し 基盤造り後、爪形押引文 内面—ナデ | 胎土に雲母、砂粒を含む 5YR4/8 (赤褐色) |
| 160 深 鉢 (陶文) | 鉢 | 10.8 (9.8) | 輪積成形。 肩部は直線的に開く。 | 外面—单脚 L R 縄文後ナデ施し 内面—ナデ | 胎土に雲母、砂粒を含む 2.5Y6/4 (にぶい黄) |
| 161 14土 | 深 鉢 (陶文) | (20.4) — (13.4) | 輪積成形。 口縁部は直線的に開く。 | 外面—直線で輪形、三角、四角に 区別された爪形押引文 内面—ナデ | 胎土に雲母、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 164 26土 | 坏 蓋 | (20.3) (12.5) (5.4) | ロクロ成形。 口縁部は直線的に開く。 | 外面—ロクロナデ ヘラケズリ 内面—ロクロナデ | 胎土に小穂、砂粒を含む N7/1 (灰白) |
| 165 26土 | 壺 | (22.2) — (10.0) | 輪積成形。 口縁部は短く外反し、肩部は直線的に下降する。 | 外面—ヘラナデ (ハケ?) 内面—ヘラナデ (ハケ?) | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR5/6 (明褐色) |
| 166 24土 | 高台付坏 | (4.4) (11.4) (4.9) | ロクロ成形。付高台。 口縁部は直線的に開く。 | 外面—ロクロナデ 内面—ロクロナデ | 胎土に小穂、砂粒を含む N7/0 (灰白) |
| 170 造傷外 (弥生) | 壺 | (17.0) — (9.4) | 輪積成形。 口縁部は大きく外反し、底部で「L」字に内曲する。 | 外縁—繩接波状・単線文 内面—ナデ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 2.5YR5/3 (黄褐色) |
| 171 造傷外 | 蓋 | — (8.0) (4.7) | 輪積成形。 底部から外反して立ち上がる。 | 外面—ヘラミガキ底部ヘラケズリ 内面—ナデ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR5/4 (にぶい褐色) |
| 172 造傷外 | 壺 | — 5.3 (6.7) | 輪積成形。 底部から外反して立ち上がる。 | 外面—ナデ 内面—ヘラナデ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 7.5YR7/6 (橙) |
| 173 造傷外 | 壺 | — 6.7 (3.3) | 輪積成形。 | 外面—風化が激しく剥離不可能 内面—風化が激しく剥離不可能 | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 10YR6/4 (にぶい黄褐色) |
| 174 造傷外 | 蓋 | — 5.0 (3.1) | 輪積成形。 底部から外反して立ち上がる。 | 外面—ナデ 内面—ナデ | 胎土に雲母、小穂、砂粒を含む 5YR5/6 (明赤褐色) |
| 182 造傷外 | 高 坏 | — — (7.1) | 柱状部は膨らみを持ち、「く」の字に屈曲して開く。 | 外面—ナデ後ヘラミガキ 赤色焼成を施している? 内面—ナデ | 坏頂欠損 胎土に雲母、石英、砂粒を含む 2.5YR4/4 (赤褐色) |

第6表 出土土製品観察表 (単位cm・g)

| 番号 | 遺構 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備考 |
|-----|-----|-------|--------|--------|-------|-------|------------------------------|
| 183 | 4住 | 柱形土製品 | (19.4) | 13.5 | 8.5 | 250.0 | 側面は面取りされ、縁は不整形。内面は直角と輪郭線で残る。 |
| 184 | 4住 | 柱形土製品 | (21.4) | (11.0) | (9.0) | 178.0 | 縁は不整形。内面はハラナデ(輪郭線残る)。二次焼成。 |
| 185 | 5住 | 土 縞 | 4.4 | 1.3 | | 5.9 | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 186 | 5住 | 土 縞 | (3.8) | 1.3 | | (4.0) | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 187 | 5住 | 土 縞 | 4.5 | 1.5 | | 6.5 | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 188 | 5住 | 土 縞 | (4.6) | 1.2 | | (3.7) | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 189 | 5住 | 土 縞 | 4.8 | 1.4 | | 7.2 | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 190 | 5住 | 土 縞 | (3.7) | 1.2 | | (3.7) | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 191 | 5住 | 土 縞 | (3.3) | 1.2 | | (3.7) | 長袖のそろばん跡状を呈する。縁は面取り。 |
| 192 | 13住 | 土 縞 | (3.9) | 1.4 | | (5.6) | 長袖のそろばん跡状を呈する。 |
| 193 | 12住 | 丸 玉 | 1.3 | 1.2 | | 1.9 | |
| 194 | 4住 | 羽 口 | (7.5) | 8.3 | | 226.0 | 縁は「ハ」の字に面く。縁に斜溝付着。二次焼成(内外面)。 |
| 195 | 4住 | 羽 口 | (4.3) | 5.7 | | 62.9 | 縁に斜溝付着。二次焼成(内外面)。 |

| 番号 | 遺構 | 種別 | 頂部径 | 基部径 | 高さ | 重量 | 備考 |
|-----|-----|-----|-------|-------|-----|-------|------------------|
| 196 | 14住 | 防護車 | (3.5) | (5.3) | 3.2 | 51.0 | 断面台形を呈する(やや不整形)。 |
| 197 | 14住 | 防護車 | (5.6) | (7.0) | 4.2 | 86.3 | 断面台形を呈する。 |
| 198 | 2壁 | 防護車 | 5.5 | 6.8 | 3.2 | 165.0 | 断面台形を呈する。 |

第7表 出土石製品観察表

| 番号 | 遺構 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------------------|--------------|
| 199 | 12住 | 防護車 | 6.0 | 0.5 | 14.1 | 粘板岩。端面残る。底板面の輪は直徑である。 | |
| 200 | 4住 | 勾玉? | 2.4 | 0.6 | 0.5 | 3.8 | ヒスイ製。一方より穿孔。 |
| 201 | 1住 | 管 玉 | 2.2 | 0.6 | | 1.4 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 202 | 14住 | 管 玉 | 2.5 | 0.6 | | 1.6 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 203 | 5住 | 白 玉 | 0.4 | 0.5 | | 0.1 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 204 | 14住 | 白 玉 | 0.2 | 0.5 | | 0.1 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 205 | 14住 | 白 玉 | 0.4 | 0.5 | | 0.2 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 206 | 14住 | 白 玉 | 0.3 | 0.5 | | 0.2 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 207 | 14住 | 白 玉 | 0.3 | 0.5 | | 0.1 | 滑石製。一方より穿孔。 |
| 208 | 14住 | 白 玉 | 0.2 | 0.5 | | 0.1 | 滑石製。一方より穿孔。 |

第8表 出土金属器観察表

| 番号 | 遺構 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備考 |
|-----|-----|-------|--------|-----|-----|-------|----------|
| 209 | 4住 | 刀 子 | (8.8) | 1.2 | 0.5 | 10.8 | |
| 210 | 4住 | 刀 子 | (4.4) | 0.8 | 0.4 | 6.1 | |
| 211 | 4住 | 刀 子 | (6.1) | 0.5 | 0.3 | 8.8 | |
| 212 | 4住 | 刀 子 | (3.1) | 0.6 | 0.5 | 2.4 | |
| 213 | 5住 | 刀 子 | (10.8) | 1.2 | 0.5 | 42.8 | |
| 214 | 5住 | 刀 子 | (5.3) | 0.8 | 0.4 | 4.1 | |
| 215 | 5住 | 刀 子 | 14.7 | 1.4 | 0.6 | 37.5 | 木質残。 |
| 216 | 7住 | 刀 子 | (7.6) | 1.2 | 0.6 | 13.9 | |
| 217 | 7住 | 刀 子 | (3.2) | 0.3 | 0.2 | 0.8 | |
| 218 | 10住 | 刀 子 | (2.1) | 0.5 | 0.4 | 1.8 | |
| 219 | 13住 | 刀 子 | (6.1) | 0.7 | 0.3 | 5.3 | |
| 220 | 14住 | 刀 子 | (4.0) | 1.0 | 0.3 | 5.7 | |
| 221 | 14住 | 刀 子 | (3.0) | 0.9 | 0.3 | 2.1 | |
| 222 | 15住 | 刀 子 | (19.7) | 1.5 | 0.5 | 110.0 | 木質残。 |
| 223 | 19住 | 刀 子 | (11.3) | 1.6 | 0.4 | 33.4 | |
| 224 | 16住 | 刀 子 | (4.0) | 0.5 | 0.3 | 4.1 | |
| 225 | 21住 | 刀 子 | (4.2) | 0.6 | 0.4 | 3.0 | |
| 226 | 26土 | 刀 子 | (4.4) | 1.0 | 0.3 | 3.6 | |
| 227 | 2要穴 | 刀 子 | 16.0 | 1.5 | 0.6 | 27.8 | |
| 228 | 36土 | 刀 子 | (5.1) | 1.0 | 0.3 | 10.4 | |
| 229 | 4住 | 箒? | 2.2 | 3.3 | 1.2 | 8.6 | 鉄造金網製。 |
| 230 | 5住 | 麻皮剥離器 | (8.2) | 1.4 | 0.2 | 14.4 | |
| 231 | 5住 | 箒? | (3.8) | 1.2 | 0.5 | 6.1 | |
| 232 | 19住 | 柳状剥離器 | 5.0 | 1.0 | 0.4 | 6.5 | |
| 233 | 7住 | 柳状剥離器 | (7.2) | 2.1 | 0.2 | 14.6 | 鉄板2枚所継認。 |
| 234 | 5住 | 箒? | (7.5) | 2.5 | 0.3 | 22.2 | |
| 235 | 5住 | 箒? | 8.2 | 2.9 | 0.3 | 26.8 | 返しは右側。 |
| 236 | 5住 | 箒? | (7.2) | 2.1 | 0.7 | 21.4 | 有茎平頭箒。 |
| 237 | 16住 | 箒? | (8.3) | 0.7 | 0.4 | 8.5 | |
| 238 | 2要穴 | 箒? | 10.0 | 0.7 | 0.4 | 13.3 | |
| 239 | 36土 | 新轍車? | (3.7) | 0.6 | 0.5 | 3.5 | 輪断面は円形。 |
| 240 | 5住 | 新轍車? | (13.4) | 0.6 | 0.5 | 10.5 | 輪断面は円形。 |
| 241 | 5住 | 箒? | 4.2 | 0.4 | 0.6 | 2.6 | |
| 242 | 7住 | 箒? | 5.6 | 0.5 | 0.3 | 6.3 | |
| 243 | 12住 | 箒? | 4.3 | 0.4 | 0.4 | 2.3 | |
| 244 | 12住 | 箒? | (3.4) | 0.3 | 0.3 | 1.9 | |
| 245 | 19住 | 箒? | (1.7) | 0.5 | 0.5 | 1.2 | |
| 246 | 19住 | 箒? | (3.6) | 0.4 | 0.4 | 3.9 | |
| 247 | 19住 | 箒? | (6.3) | 1.2 | 0.6 | 19.1 | |

第V章 まとめ

今回、天竜川西岸の第二段丘に連なる遺跡群に、初めてともいえる本格的な発掘調査を行うことができた。あくまでも、伝承と推測の域を脱することができなかつた遺跡群の持つ内容と性格の一端を、この仲町遺跡の調査によって知り得たことは、今後の地域一帯のみならず、伊那谷北部の原始から古代社会の成立に関わる解明の糸口と成りえるであろう。調査結果の詳細については、各章のとおりであるが、調査の進め方には不勉強の余りに多くの課題を残してしまひ、また本報告の編集についても不十分さは了承されたい。いずれにせよ本章では、各時代毎に可能な限りの推察と課題の提起をし、本書のまとめとしたい。

1. 繩文時代

住居址の確認には至らなかつたが、段丘の突端部に位置する第1及び第2次調査区を中心に前期末から中期中葉にかけての土坑を中心とする遺構が確認できた。また第3次調査区の2号溝状遺構の覆土からも、中期初頭と晩期の各遺物がほぼ層位的な形で出土をみた。

特記されるものとしては、3号土坑より出土した深鉢(159)が、前期末から中期初頭において本地域でも度々類例がみられる、西日本系外来土器と伺える。しかし、前述のとおり住居址の存在は確認できず、また同時期の土坑の確認数も少ないため、周辺部における集落の可能性の示唆だけに止めておきたい。

2. 弓生時代

本時代の遺構は、4基の土坑を検出しただけで、いずれも第1次調査区である。また出土した遺物は、同調査区を中心とした遺構上面確認作業時のものと、1号古墳周溝内混入品とでのほとんどを占め、またその出土量も決して多くない。ただ壺を主体とした後期の遺物が最も多く、更に僅かではあるが中期前・後半のものも数点出土しており、本時代全般に渡っていることが判った。それぞれ各期の集落が、段丘の突端部に集中して存在していた可能性が考えられるが、本調査区の状況をみると、古墳の築造期、またその後の開墾の繰り返し等によって、消滅してしまったのではなかろうか。やはり情報量が乏しいため、これ以上推論を進めるのはかなり厳しいものがある。

3. 古墳時代

未確認の後期古墳と、中期から後期にかけての集落跡を確認できたことは、今回の調査によって得られた最も特質できる成果である。また同地区は、松島王墓古墳南部の比較的近接地に

位置し、その出現前後の時期にあたることから、非常に重要な意味を持つものといえる。

古墳は、第1次調査区で段丘の末端部に位置している。石室はおろか墳丘すらその痕跡ではなく、周溝の一部だけの確認であったが、その存在は後述する集落との間に何らかの因果関係が指摘できよう。しかし、今回本古墳隣接箇所における土坑に伴う馬の頭骨出土が、本古墳に関連した馬の埋葬ではないかと指摘を受けた部分もあったが、その出土状況から関連性は掴めず、また科学的な分析等も行っていないので、その肯定はおろか否定することについても安易に判断することはできなかった。

集落は、段丘より西側によった第2～4次調査区の広い範囲でみられた。各住居址の出土土器の様相から明らかに混入品と思われるものを除けば、おおむね5世紀中葉から7世紀前葉に至るまで、4から5時期に細分できるのではなかろうか。しかしながら、町内でも今まで数時期に渡る状況での調査例はなく、また上伊那地域でもその報告が少ないため、当地域での編年の確立に至っていないのが今日の現状と思われる。今回の時期細分は、あくまでもその過程段階での思案として課題を提案したにすぎず、各研究者からの活発なご指摘を賜りたい。

続いて、4号住居址出土の枕形土製品（仮称）についても若干触れておきたい。今回出土したこの土製品は、断面形が長方形を呈し、明らかに面を意識したかのごとく形状が整えられていることから、ただ単に「枕形」という呼び方をしてしまったが、形態的特徴と成形及び調整等製作技法の面からも、いわゆる「円筒形土器」と称されるものと判断できよう。県内においても、近年その出土例が増加する中、1994年に山西克己氏が同土器の特徴と出土状況による用途及びその時期について論考を発表している（註1）。同氏によると、その用途は「カマドの構築材として作られ、カマドの天井材・袖芯材・煙道に用いられた。」とあり、また「……‘土器’ではなく、カマドの一部であり、……円筒形土製品や円筒形カマド材とも呼んだ方がいいのかも知れない。」とも述べている。また時期については「7世紀代に多く用いられ、早ければ6世紀末葉から7世紀初頭に用いられはじめた。」と論じている。よって本例と照らし合わせてみると、形状に若干の特徴がみられるがさほど大きな差異はみられず、またその出土状況も明らかにカマドの袖を構成していたものもあり、同氏の論考に添うものである。ただ本例は、共伴する一括土器からみて6世紀中葉まで逆上の可能性を示唆したい。

4. 奈良・平安時代

特に集落の位置と範囲は、第3・4次調査区である遺跡の西域に集中していた。

奈良時代における各遺構は、他の遺構との重複もあって十分な確認に到らなかったが、遺物としては良好な資料の出土もあり、後述する時期への継続性を見る上で、重要な位置を占めていると言えよう。

平安時代は、灰釉陶器の有無によって各住居址の細分が可能かと思うが、概ね9世紀台に形

成された集落が存在したことが判ったが、本時期以降の継続性はなく、中世後半まで空白となるようだ。各住居址からは土器類の他に、比較的どの住居址からも数点から十数点の鉄滓の出土がみられるが、4号住居址（古墳時代後期）のように羽口を伴っておらず、また製鉄を匂わせる施設の存在も確認できなかったので、その意味するものは何であろうか。

なお末筆にあたり、本事業に多大なご理解とご協力をいただいた、地元松島区の地域住民のみ様、そして直接調査にご尽力いただいた調査関係者皆様に、本書の刊行をもって改めてお礼を申し上げたい。

参考文献・引用文献（著者名50音順）

- 飯田市教育委員会 1986 「恒川遺跡群」
- 萩原三雄 他 1979 「郷土の歴史」「御坂町の埋蔵文化財」 御坂町教育委員会
- 小平和夫 1987 「信濃における奈良時代を中心とした編年と土器様相—伊那谷における土器様相—」『長野県考古学会誌55.56』長野県考古学会
- 小林正治 1994 「長野の古墳一下伊那の古墳時代埋葬馬ー」『日本考古学協会総会1994年度大会研究発表要旨』日本考古学協会
- 勤長野県埋蔵文化財センター 1990 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4
－松本市内その1－ 総論編
- 坂城町教育委員会 1993 「宮上遺跡」
- 西山克己 1996 「7世紀代に用いられた円筒形土器」「長野県考古学会誌79」
長野県考古学会（註1）
- 長野県教育委員会 1974 48「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書」箕輪町
- 長野県教育委員会 1990 「中央自動車道長野線埋蔵発掘調査報告書4」総論編
- 野県史刊行会 1985 長野県史 考古資料編 全1巻(2) 中・南信版
- 長野県史刊行会 1988 長野県史 考古資料編 全1巻(3) 造構・遺物
- 花岡 弘・西山克己 1995 「信濃の6世紀・7世紀の土器様相—現時点の概略として—」
『東国土器研究第4号』東国土器研究会
- 箕輪町誌編纂刊行委員会 1976 箕輪町誌 第1巻 自然・現代編
- 箕輪町誌編纂刊行委員会 1986 箕輪町誌 第2巻 歴史編
- 箕輪町教育委員会 1989 「堂地・中道遺跡」
- 箕輪町教育委員会 1996 「堂地・中道遺跡—第2次—」
- 箕輪町教育委員会 1997 「本城遺跡」

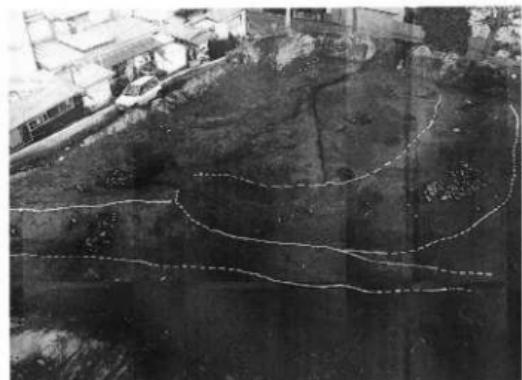
調査地近景1
(第1次調査区・南西より)



調査地近景2
(第3・4次調査区・東方より)



第1次調査区全景 (西方より)





第2次調査区全景（南西より）



第3次調査1区全景（南東より）



第3次調査2区全景（西方より）

図版3

第4次調査区全景（東方より）



1号古墳



1号古墳周溝土層堆積状況



1号古墳周溝内遺物出土状況



1号住居址



2号住居址



3号住居址



4号住居址



4号住居址カマド



5号住居址



7号住居址



8号住居址



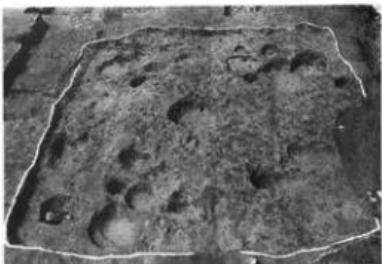
9号住居址



12号住居址



13号住居址



14·23号住居址



16号住居址



18号住居址



19号住居址



20号住居址



21号住居址



1号竖穴址



2号竖穴址



集石炉



2·3号土坑



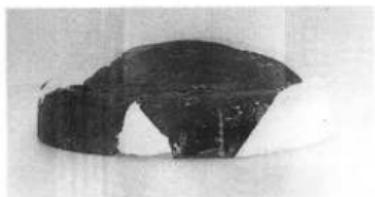
20号土坑



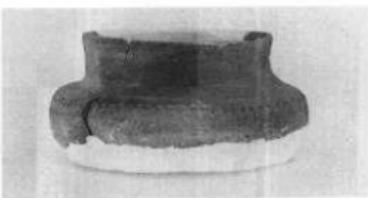
11号土坑·1号集石



11号土坑馬頭骨出土状况



1



14



7



8



10

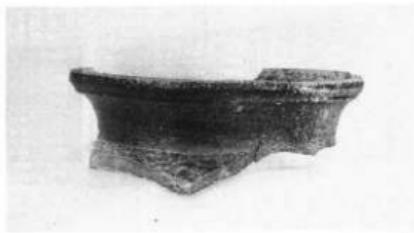


12

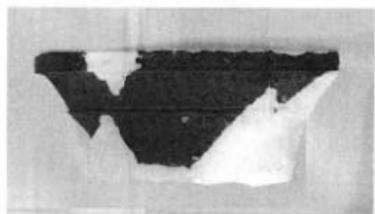


15

出土遺物1



11



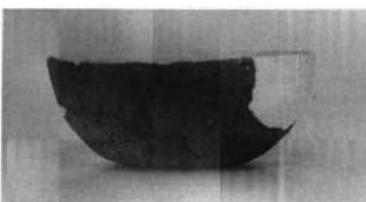
19



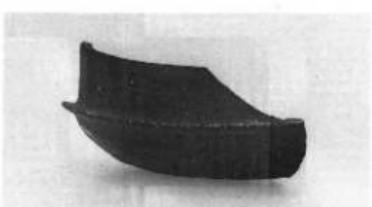
42



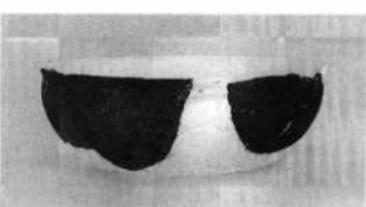
41



46



47



48

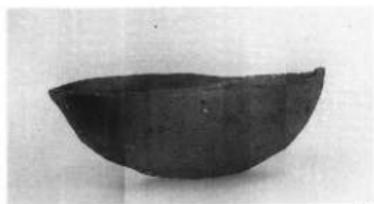


50

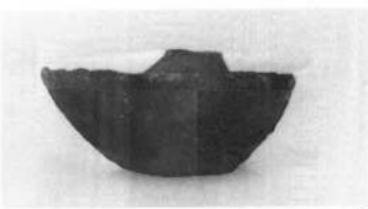


51

出土遺物2



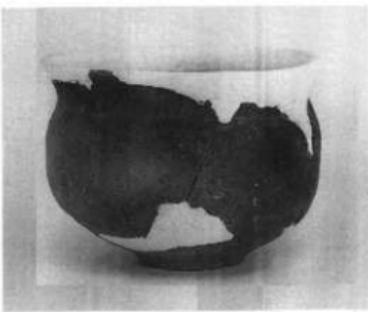
52



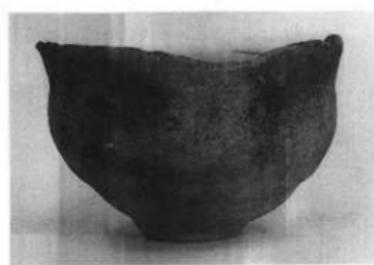
53



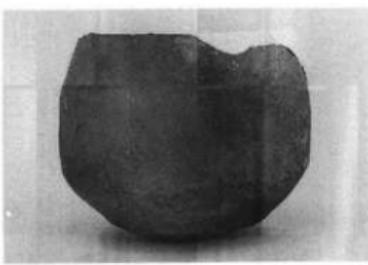
54



55



56



57



58

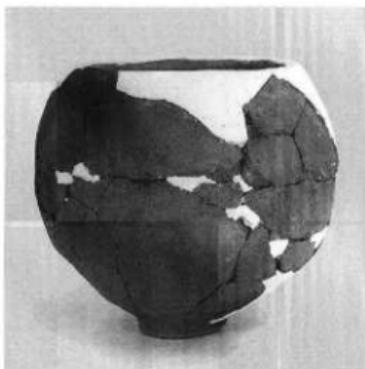


59

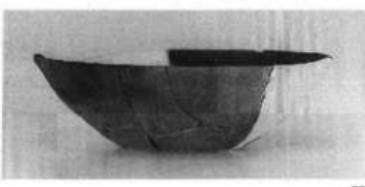
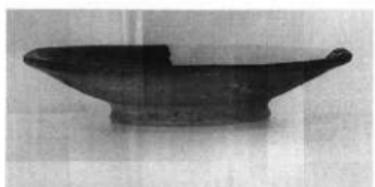
出土遺物3



60



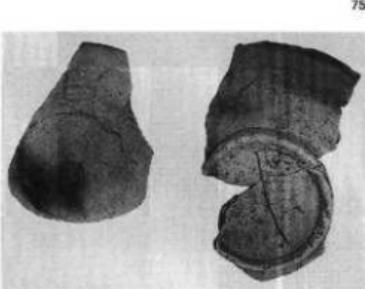
63



75



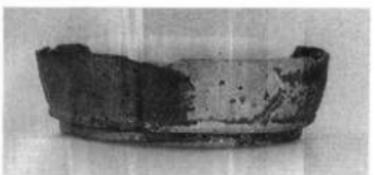
76



71



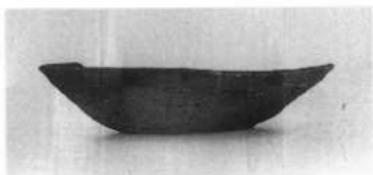
77



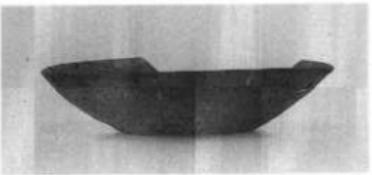
65



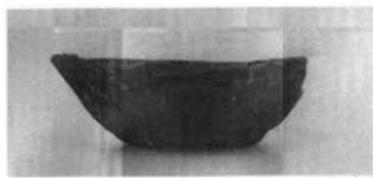
79



82



83



84



85



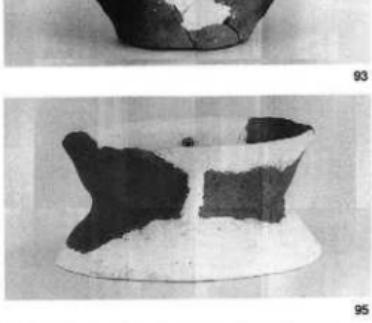
92



93



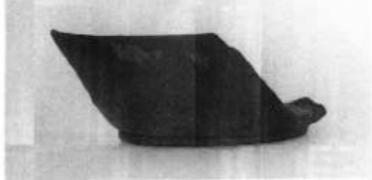
94



95



96

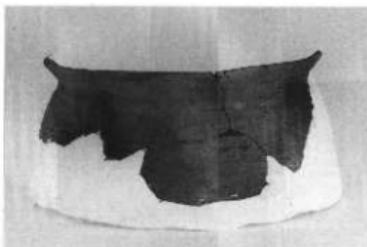


97

出土遗物5



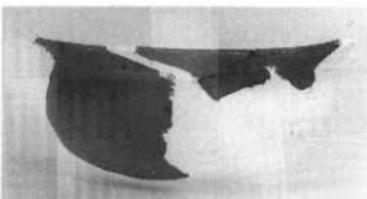
99



104



103



110



113

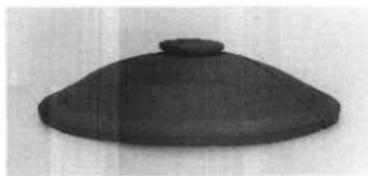


114



116

118



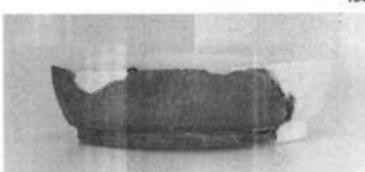
152



154



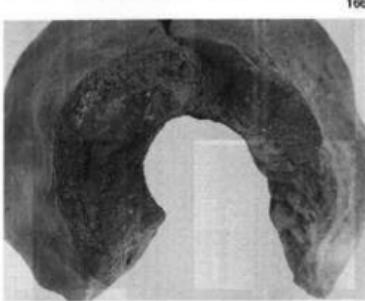
155



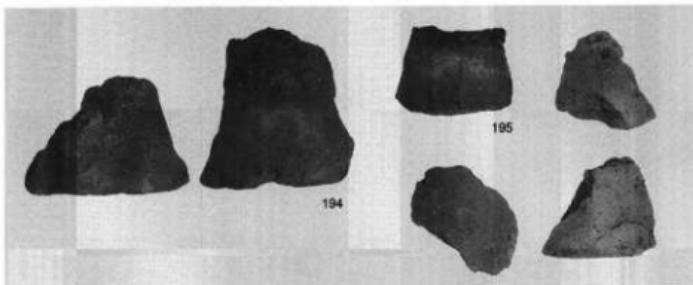
156



168

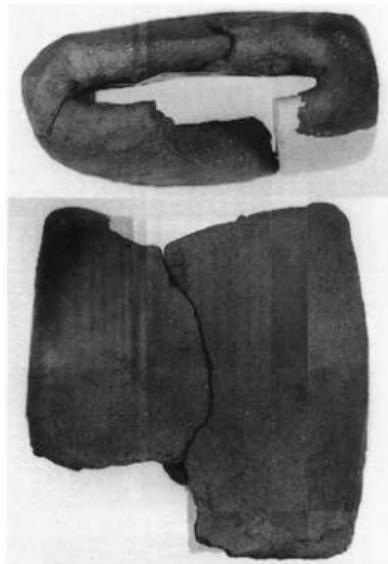


194



194

195



183



184



203

205

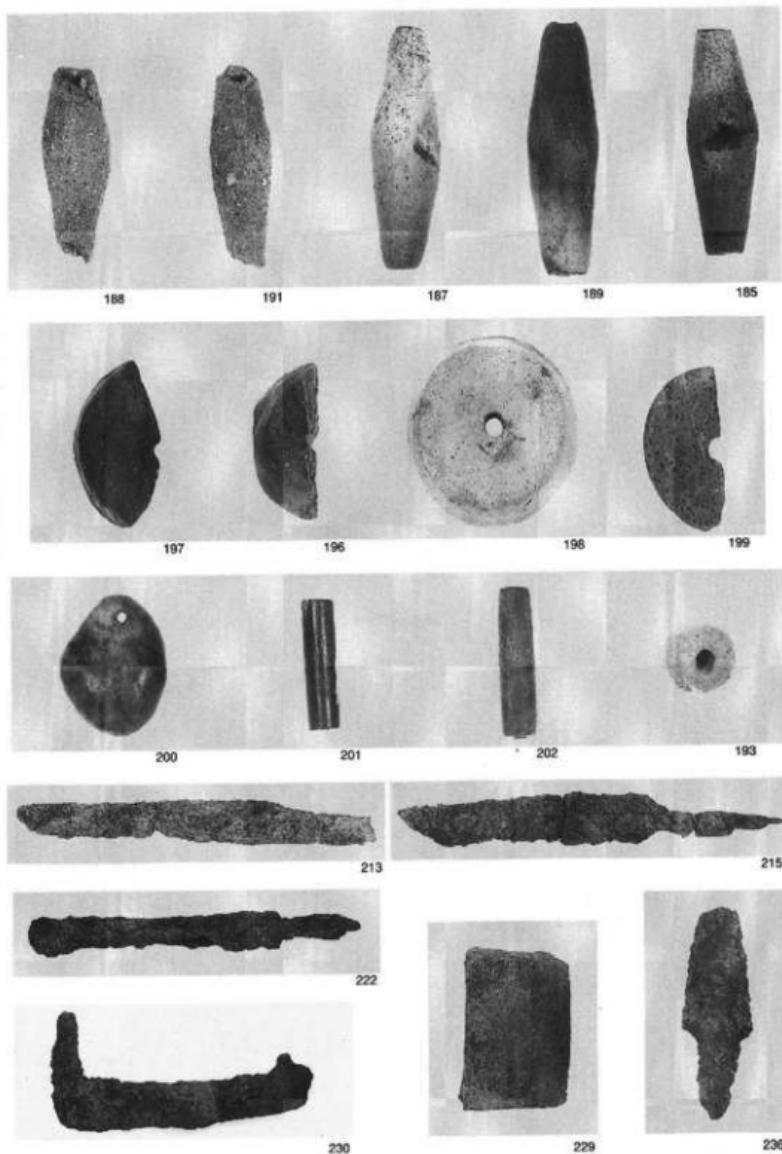
204

208

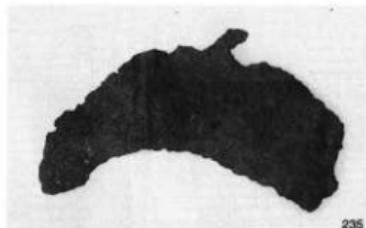
206

207

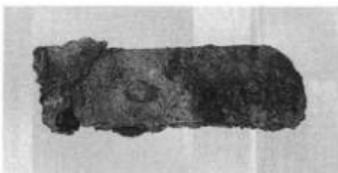
出土遺物8



出土遺物9



235



233



232



10

出土遺物



調査団員（平成4年度）

報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | なかまちいせき |
| 書名 | 仲町遺跡 |
| 副書名 | マイタウンまつしま整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 |
| 卷次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 赤松 茂 根橋とし子 |
| 編集機関 | 箕輪町教育委員会 |
| 所在地 | 〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地 TEL 0265-(79)-3111㈹ |
| 発行年月日 | 1998年3月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | コード | | 北緯 °°' | 東經 °°' | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------|--|-------|------|-------------------|--------------------|--|---------------------|---------------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| なかまち 仲町 | ながのけんかみいなぐん 長野県 上伊那郡 みのわまち おおあが 箕輪町 大字 なかまちのわ 中箕輪 9,549番地他 | 20383 | 76 | 35度 54分 28秒 | 137度 59分 26秒 | 19910801～ 19911129 19920903～ 19921003 19960507～ 19961017 19970501～ 19971118 | 5,640m ² | マイタウ ンまつし ま整備事 業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
|-------|-----------|--|---|---|--|---|
| 仲町 | 集落跡 古墳 | 縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世 近世 近・現代 時期不明 | 土坑 溝状遺構 集石炉 土坑 古墳(周溝) 堅穴式住居址 土坑 堅穴住居址 堅穴址 土坑 土坑 溝状遺構 土坑 堅穴址 堅穴住居址 土坑 集石 | 5基 1基 1基 3基 1基 8棟 3基 2棟 1基 2基 4棟 1基 1基 2基 1基 3棟 12基 2基 | 縄文前・中・晚期土器 打製石斧 弥生中・後期土器 土師器、須恵器、枕型土製品、紡錘車、羽口管玉、白玉、丸玉、刀子、鉄鏃、釘、鐵滓 土師器、須恵器、刀子、紡錘車 土師器、須恵器、灰釉陶器、土鍤、刀子、鉄滓 陶・磁器 馬下顎骨 | 今回の調査によって、記録・伝承のない古墳跡を確認できた。 また、古墳時代中期から後期、奈良時代から平安時代前期にかけての集落跡の他、縄文期末から中期初頭、晚期、弥生時代中期から後期の複合遺跡として、大きな成果が得られた。 |

仲町遺跡

マイタウンまつしま整備事業に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1998年3月31日 印刷

1998年3月31日 発行

発行所 長野県箕輪町教育委員会
印刷所 伊那市 篠小松総合印刷所